

2021年度

# 中通総合病院年報

Vol.5



社会医療法人 明和会

## 理 念

中通総合病院は、「いつでも、どこでも、だれでも」患者さんの立場に立つ  
親切で信頼される良い医療を行い、地域に貢献していきます。

# 基本方針

## 1. 医療の質の向上

私たちは、常に新しい医学の成果に学び、医学の向上に努めます。高度な専門知識とともに、病気や障害をもつ方々の苦しみや生き方に共感できる人間性と高い人格・教養を身に付けるため日々研鑽します。

## 2. 納得と安心、安全な医療の提供

私たちは、患者さんの権利の擁護とプライバシーの保護に努めるとともに、診療記録を適正に管理し、原則としてこれを開示します。

患者さんの自己決定権を尊重し、十分な説明と同意に基づく医療を追求するとともに、診療に関わる安全管理に最大限努力します。

年間を通じて、24時間の救急医療体制で臨みます。

## 3. 病院の民主的運営と活性化

私たちは、民主的病院運営と責任体制の確立、職員労働の効率化と適正な評価を通じ、職員一人一人の能力が最大限発揮され、病院の活性化が図られるよう努めます。

## 4. 地域社会との連携

私たちは、病診連携、病病連携、福祉施設や行政機関との連携を推進し、地域に根ざした保健・医療・福祉のネットワークづくりに参画します。

高額医療機器の共同利用など、地域の医師や医療機関が病院の諸施設・設備を気軽に利用できるよう協力します。

中通病院友の会や地域の方々の病気の予防、健康推進、保健衛生活動に努力します。

## 5. より良い医療・福祉制度の実現

患者さんがいつも安心してかけられる医療制度の実現と福祉の向上、人間の尊厳がより大切にされる社会保障制度の充実を願い、患者さんや地域、他の医療・福祉施設の方々とともに努力します。

# 職業倫理

私たち中通総合病院の職員は、医療に関わる職業人として、人間の生命、人間としての尊厳および権利を尊重し、人と社会に貢献します。

1. 私たちは、最新・最良の医療を提供するために、知識と技術の習得に努め、その進歩・発展に尽くします。
2. 私たちは、職業人としての職務と責任を自覚し、教養を深め、人格を高めるように努めます。
3. 私たちは、医療を受ける人びとの人格を尊重し、やさしい心で接するとともに、医療内容やその他必要な事項についてよく説明し、安心感と信頼を得るよう努めます。
4. 私たちは、互いに尊敬し、協力して医療を行います。
5. 私たちは、医療の公共性を重んじ、法令やルールを遵守し、医療を通じて社会の発展に努めます。
6. 私たちは、医療を受ける人びとのプライバシーを尊重し、職務上の守秘義務を遵守します。

# 患者の権利と責任

私たち中通総合病院職員一同は、患者さんのニーズに応えるべく、最新で最良の医療を提供することを使命としています。

ここに患者さんの権利と責任を明らかにし、信頼関係をはぐくみ、協力して病気に立ち向かうことを確認いたします。

1. 良質の医療を公平に受ける権利を持っています。
2. 症状、検査、治療について十分な説明を受ける権利を持っています。
3. 検査や治療を選択する権利、拒否する権利を持っています。
4. 自分の受ける医療のすべてを知る権利を持っています。
5. 人間としての尊厳とプライバシーが守られる権利を持っています。
6. これらの権利を持っているとともに、医療従事者と協力して病気に立ち向かう責任を持っています。
7. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんの治療に支障を与えないよう配慮する責任を持っています。

# 目

理念・基本方針	
職業倫理	
患者の権利と責任	
目次	
沿革	
沿革	.....
年度行事	.....
病院概要	
開設者	.....
名称	.....
開設年月日	.....
所在地	.....
管理者	.....
病床数	.....
看護基準	.....
診療科	.....
主な医療機能・設備	.....
職員数	.....
施設基準	.....
機関指定・学会認定状況	.....
組織図	.....
診療概要	
内科	.....
消化器内科	.....
循環器内科	.....
脳神経内科	.....
糖尿病・内分泌内科	.....
腎臓・リウマチ科	.....
神経精神科	.....
呼吸器内科	.....
消化器外科	.....
整形外科	.....
脳神経外科	.....
心臓血管外科	.....

# 次

呼吸器外科	.....
泌尿器科	.....
皮膚科	.....
乳腺内分泌外科	.....
胸部外科	.....
耳鼻咽喉科	.....
眼科	.....
放射線科	.....
小児科	.....
産科・婦人科	.....
歯科口腔外科	.....
病理科	.....
麻酔科	.....
救急総合診療部	.....
血液浄化療法部	.....
リハビリテーション部	.....
検査部（臨床検査課）	.....
検査部（生理検査課）	.....
病理部	.....
放射線部	.....
栄養部	.....
薬剤部	.....
中央診療部（臨床工学室）	...
地域医療連携部	.....
相談支援センター	.....
感染制御部	.....
臨床研修担当部	.....
医療安全管理部	.....
看護部門	
体制・概要	.....
理念・基本方針・教育理念・	
教育目標	.....
重点目標と実践結果・課題	...
看護配置数の推移・重症度医療	

看護必要度実績	.....
研修参加状況	.....
看護研究取り組み一覧	.....
患者アンケート集計	.....
外来	.....
4階A病棟	.....
4階B病棟	.....
5階病棟	.....
6階病棟	.....
7階病棟	.....
8階病棟	.....
9階病棟	.....
S2病棟	.....
S3病棟	.....
手術室	.....
集中治療部	.....
救急総合診療部	.....
血液浄化療法部	.....
<b>部門概要</b>	
庶務課	.....
医事課	.....
施設課	.....
用度課	.....
医療秘書課	.....
診療情報管理課	.....
院内こども園	.....
病児保育室	.....
<b>委員会・チーム概要</b>	
衛生委員会	.....
医療安全管理委員会	.....
院内感染対策委員会	.....
栄養委員会	.....
輸血療法委員会	.....
防火・防災管理委員会	.....
災害対策委員会	.....
医療ガス安全管理委員会	.....

透析機器安全管理委員会	.....
検査適正化委員会	.....
研修管理委員会	.....
働き方改革推進検討委員会	...
倫理委員会	.....
治験審査委員会	.....
省エネルギー推進委員会	.....
DPC委員会	.....
病診連携委員会	.....
救急医療委員会	.....
化学療法委員会	.....
患者サービス改善委員会	.....
褥瘡対策委員会	.....
虐待対策委員会	.....
診療記録管理委員会	.....
放射線安全委員会	.....
医療放射線管理委員会	.....
禁忌薬品登録検討委員会	.....
地域包括ケア病棟運営委員会	
病院機能評価・業務改善委員会	
内科専門研修プログラム管理 委員会	.....
医療情報システム管理委員会	...
メンタルヘルスケアチーム	...
感染制御チーム（ICT）	...
栄養サポートチーム（NST）	
ACLSチーム	.....
緩和ケアチーム	.....
臨床研修支援チーム	.....
呼吸ケアチーム	.....
糖尿病診療支援チーム	.....
心臓リハビリテーションチーム	
年報作成チーム	.....
認知症ケアチーム	.....
抗菌薬適正使用支援ケアチーム （AST）	.....

學術研究業績 .....

診療統計 .....



沿 革

## 沿 革

### 中通総合病院のあゆみ

	職員 5 名)
昭和 3 2 年	診療所向かいに新築移転「中通病院」(44 床)
昭和 3 3 年	県内初の腹腔鏡による肝・胆撮影診断を実施
昭和 3 4 年	3 階を増築し 115 床
昭和 3 5 年	143 床に増床 県内初の胃がん手術を開始
昭和 3 6 年	新館増築 227 床
昭和 3 9 年	県内初の脳外科手術を開始 秋田県指定第 1 号救急病院告示
昭和 4 2 年 (1967)	県内初の心臓手術開始
昭和 4 3 年	現在地(秋田市南通みその町 3 番 15 号)へ新築移転 340 床 県内初の人工透析治療開始
昭和 4 4 年	県内初の集中治療室(ICU)開設
昭和 4 7 年	県内初の顕微鏡下における脳外科手術開始
昭和 5 3 年 (1978)	県内初の全身用 CT 導入 県内初(世界で 4 例目)の手首切断再接着術に成功
昭和 5 5 年	ラジオアイソトープ(RI)検査を開始
昭和 5 6 年	中通病院増改築工事完成 539 床
昭和 5 9 年	総合病院に認定
平成 2 年 (1990)	開心術が 1 千件を突破
平成 3 年	東北初の「高速アテレクトミー血管形成術」を開始
平成 6 年	「中通総合病院」に改称
平成 8 年	体外衝撃波結石破碎装置導入
平成 9 年	増改築工事により放射線部門・S2・S3 病棟が完成 「臨床研修指定病院」に認定
平成 10 年 (1998)	リニアックを導入し「放射線治療」を開始
平成 13 年	東北初の「乳腺バイオプシー装置」稼働による治療開始
平成 17 年	創立 50 周年
平成 18 年	「日本医療機能評価機構」認定病院 電子カルテシステム稼働

平成21年(2009)	DPC病院に参入 明和会が県内初の「社会医療法人」に認定
平成22年	「秋田県がん診療連携推進病院」に認定
平成23年	3月から5月にかけて東日本大震災への医療支援実施(塩釜市、大船渡市、釜石市へ計9班延べ150名を派遣)
平成24年	県内初の「NPO法人卒後臨床研修機能評価機構認定病院」に認定 福島原発事故を受け「甲状腺機能検査」を開始
平成25年	新棟が竣工、新病院での診療開始 北東北初のハイブリッド手術室稼働
平成26年	新中通総合病院グランドオープン
平成27年	創立60周年
平成30年	MR I撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法(バイオジェット)導入
令和1年	DMA T指定病院となる 新電子カルテシステム導入 卒後臨床研修評価機構「臨床研修評価」再認定
令和3年	形成外科開設 秋田県アレルギー疾患医療拠点病院(小児科分野)に認定

## 2021年 年度行事

- 5日 コロナワクチン接種（職員）～9日、12日～16日  
20日 コロナワクチン接種（秋田市医師会）  
21日 医療安全推進担当者研修  
22日 コロナワクチン接種（新入職員、委託業者）～23日  
5月13日 コロナワクチン接種（新入職員、委託業者）～14日  
17日 コロナワクチン接種（秋田市歯科医師会）～19日、21日  
20日 新入看護職員研修  
6月 7日 コロナワクチン接種（秋田市歯科医師会）～9日、11日  
11日 新入看護職員研修  
15日 新人看護記録フォローアップ研修  
16日 新入職員医療安全オリエンテーション 23日  
17日 看護部マネジメント研修  
19日 ICLS講習会  
22日 新入職員感染対策研修会  
23日 看護補助者研修  
24日 看護メンバーシップ研修（卒後2年目）  
25日 防災訓練  
7月 1日 新人看護必要度研修  
5日 全職員対象医療安全研修 12日、13日～16日、21日、28日  
15日 新人輸血療法学習会  
新人輸液ポンプ研修  
16日 コロナワクチン接種（職員）  
30日 新人BLS及び挿管介助研修  
8月 4日 全職員対象医療安全研修  
6日 コロナワクチン接種（職員）  
19日 看護理論研修（卒後2年目）  
24日 中途採用者感染対策研修会  
職員健診～27日  
9月 2日 看護部リーダーシップ研修  
13日 MR・風疹ワクチン接種～15日  
28日 看護部トピックス研修  
30日 看護理論研修  
医療ガス設備点検～2日

- 10月13日 水痘ワクチン接種  
16日 消防用設備点検  
19日 新入職員、中途採用者医療安全オリエンテーション  
21日 看護倫理研修  
26日 委託業者感染対策研修
- 11月 4日 看護必要度研修  
8日 インフルエンザワクチン接種 9日、10日～17日、19日、22日  
11日 看護部リーダーシップ研修  
16日 全職員対象感染対策学習会～19日  
18日 保健所立入検査
- 12月 9日 看護研究発表会 23日  
14日 医療安全相互チェック
- 1月18日 コロナワクチン接種 19日、21日、25日、26日、28日
- 2月 1日 コロナワクチン接種 3～4日、8～9日  
2日 中途採用者感染対策研修  
全職員対象医療安全セミナー 24日、28日  
10日 看護管理者研修  
15日 職員健診～18日  
17日 看護部マネジメント研修
- 3月15日 臨床研修修了証授与式

# 病 院 概 要

## 病院の概要

当院の所属する社会医療法人明和会は、当院の他220床のリハビリ専門病院（中通リハビリテーション病院）、大仙市の106床の病院（大曲中通病院）、港北診療所（歯科併設）、2ヶ所の歯科診療所（中通歯科診療所・大曲中通歯科診療所）、訪問看護ステーションやホームヘルパーステーション、ケアプランセンター（中通訪問看護ステーション・中通ケアプランセンター・南通ホームヘルパーステーション・南通在宅介護支援センターなど）、2ヶ所の健診施設（中通健康クリニック・ふき健診クリニック）などを有し、予防から治療、リハビリ、在宅医療まで包括的な医療を行っています。

法人の基幹病院である当院は、秋田市の中心部にあり、秋田駅より徒歩15分と交通の便は良好です。診療圏は秋田市を中心として、県内全域に及び、救急医療や脳神経外科、心臓血管外科などの高度専門医療を行う一方、地域に密着してプライマリ・ケアや生活習慣病に対する医療、がん医療、高齢者医療に取り組んでおり、総合的、全人的な医療の実践を目指しています。

1. 開設者            社会医療法人明和会
2. 名 称            中通総合病院
3. 開設年月日      1968年10月21日
4. 所在地           秋田市南通みその町3番15号  
TEL 018-833-1122(代) FAX 018-831-9418
5. 管理者           鈴木 敏文  
奥山 慎（2021年6月より）
6. 病床数           450床（一般病床 382床、ICU 8床、地域包括ケア病床52床、  
救急病棟 8床）
7. 看護基準        一般病床 7：1
8. 診療科  
内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓・リウマチ科、神経精神科、呼吸器内科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、泌尿器科、皮膚科、乳腺内分泌外科、胸部外科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線科、小児科、産科・婦人科、歯科口腔外科、病理科、麻酔科

## 9. 主な医療機器・設備

CT、MRI、核医学検査装置、デジタルマンモグラフィ、マンモトームシステム、デジタルラジオグラフィシステム、医療用画像管理システム、心臓超音波診断装置、腹部超音波診断装置、心電図モニタリングシステム、輸血検査装置、全自動生化学検査装置、免疫分析装置、全自動血球計算装置、血液ガス分析装置、手術用顕微鏡、人工心肺装置、大動脈バルーンポンプ、超音波内視鏡システム、上部・下部内視鏡システム、分娩監視装置、ハイブリッド手術室、全自動錠剤分包機、全自動散薬分包機、自動洗浄除染乾燥装置、高圧蒸気滅菌装置、無菌治療室、電子カルテシステム　バイオジェット　ほか



10. 職員数（2022年3月31日現在）

職 種	正職員	嘱託・臨時	合 計
医師	64	13	77
歯科医師	1		1
看護師	372	21	393
助産師	17	2	19
准看護師	2	1	3
看護補助者	3	39	42
薬剤師	19	1	20
放射線技師	21		21
臨床検査技師	33	1	34
臨床工学技士	13	1	14
歯科衛生士	1		1
視能訓練士	4		4
臨床心理士	3		3
理学療法士	28		28
作業療法士	17		17
言語聴覚士	4		4
管理栄養士	7		7
栄養士		2	2
調理師	9	7	16
調理助手		20	20
保育士		2	2
事務員	43	90	133
社会福祉士	7		7
電気技術者	3		3
合 計	671	200	871

## 1 1. 施設基準

### 基本診療料

- ・初診料（歯科）の注1に掲げる基準
- ・一般病棟入院基本料 1
- ・超急性期脳卒中加算
- ・診療録管理体制加算 1
- ・医師事務作業補助体制加算 1
- ・急性期看護補助体制加算 2.5対1 5割以上
- ・看護職員夜間配置加算 1.6対1
- ・療養環境加算
- ・重症者等療養環境特別加算
- ・無菌治療室管理加算 2
- ・栄養サポートチーム加算
- ・医療安全対策加算 1（地域連携加算 1あり）
- ・感染防止対策加算（抗菌薬適正使用支援加算）
- ・患者サポート体制充実加算
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ・ハイリスク妊娠管理加算
- ・ハイリスク分娩管理加算
- ・呼吸ケアチーム加算
- ・病棟薬剤業務実施加算 1
- ・後発医薬品使用体制加算 1
- ・データ提出加算 2
- ・入退院支援加算
- ・認知症ケア加算 1
- ・精神疾患診療体制加算
- ・特定集中治療室管理料 3
- ・小児入院医療管理料 4
- ・地域包括ケア病棟入院料 2
- ・地域医療体制確保加算

### 特掲診療料

- ・糖尿病合併症管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・がん患者指導管理料イ、ロ、ニ
- ・糖尿病透析予防指導管理料

- ・ 婦人科特定疾患治療管理料
- ・ 乳腺炎重症化予防・ケア指導料
- ・ 院内トリアージ実施料
- ・ 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算
- ・ ニコチン依存症管理料
- ・ ハイリスク妊産婦共同管理料（Ⅰ）
- ・ 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
- ・ 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
- ・ 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
- ・ がん治療連携計画策定料
- ・ 薬剤管理指導料
- ・ 医療機器安全管理料1、2
- ・ 在宅療養後方支援病院
- ・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- ・ 検体検査管理加算（Ⅱ）
- ・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- ・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・ ヘッドアップティルト試験
- ・ 皮下連続式グルコース測定
- ・ 神経学的検査
- ・ コンタクトレンズ検査料
- ・ 小児食物アレルギー負荷検査
- ・ センチネルリンパ節生検（片側）
- ・ 画像診断管理加算1、2
- ・ CT撮影及びMR I撮影
- ・ 冠動脈CT撮影加算
- ・ 心臓MR I撮影加算
- ・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・ 外来化学療法加算1
- ・ 無菌製剤処理料
- ・ 心大血管リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）

- ・がん患者リハビリテーション料
- ・認知療法・認知行動療法 1
- ・静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
- ・硬膜外自家血注入
- ・人工腎臓（慢性維持透析 1、導入期加算 1，透析液水質確保加算、慢性維持透析濾過加算）
- ・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- ・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植に限る。）
- ・乳がんセンチネルリンパ節加算 2
- ・乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
- ・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
- ・両心室ペースメーカー移植術（心筋電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（心筋電極の場合）
- ・両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
- ・植込型除細動器移植術（心筋リードを用いるもの）及び植込型除細動器交換術（心筋リードを用いるもの）
- ・植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）
- ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（心筋電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（心筋電極の場合）
- ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
- ・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- ・体外衝撃波胆石破砕術
- ・体外衝撃波膀胱石破砕術
- ・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）
- ・輸血管管理料 I
- ・輸血適正使用加算
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・麻酔管理料（I）

- ・放射線治療専任加算
- ・外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療
- ・病理診断管理加算
- ・悪性腫瘍病理組織標本加算
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料
- ・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術
- ・MR I 撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法
- ・ハイリスク妊産婦連携指導料 1、2
- ・遺伝学的検査
- ・骨髄微小残存病変量測定
- ・歯科外来診療環境体制加算 1
- ・歯科治療時医療管理料
- ・CAD・CAM冠

## 1 2. 機関指定・学会認定状況

### 機関指定

救急告示病院

病院群輪番制病院

臨床研修指定病院（基幹型）

外国人医師（循環器疾患）臨床修練指定病院

保険医療機関

国民健康保険療養取扱機関

労災保険指定取扱機関

結核予防法指定医療機関

生活保護法指定医療機関

被爆者一般疾病医療機関

指定自立支援医療機関（更生医療、育成医療、精神通院医療）

母子保健法指定養育医療機関

特定疾患治療取扱病院

日本医療機能評価機構認定病院

卒後臨床研修評価機構認定病院

D P C 対象病院

秋田県がん診療連携推進病院

秋田県アレルギー疾患医療拠点病院（小児科分野）に認定

## 専門医（認定医）の教育病院等学会の認定

日本内科学会認定医制度教育病院  
日本呼吸器学会専門医制度認定施設  
日本神経学会専門医制度准教育施設  
日本脳卒中学会専門医制度研修教育病院  
日本甲状腺学会専門医制度認定専門医施設  
日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設  
日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設  
日本循環器学会循環器専門医研修施設  
日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設  
日本心血管インターベンション治療学会研修施設  
日本消化器病学会専門医制度認定施設（関連施設）  
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設（関連施設）  
日本消化管学会専門医制度暫定処置による胃腸科指導施設  
血友病診療地域中核病院  
日本外科学会外科専門医制度修練施設  
日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設  
日本小児科学会小児科専門医制度研修施設  
日本小児血液・がん学会小児血液・がん専門医研修施設  
日本アレルギー学会専門医教育研修施設  
日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設  
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設（関連教育施設）  
日本腎臓学会専門医制度研修施設  
日本透析医学会専門医制度教育関連施設  
日本整形外科学会専門医制度研修施設  
日本手外科学会専門医制度基幹研修施設  
日本リウマチ学会専門医制度教育施設  
日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設（C項）  
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設（関連施設）  
日本脈管学会認定脈管専門医制度研修指定施設  
日本呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設（関連施設）  
日本眼科学会専門医制度研修施設  
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設  
日本老年精神医学会専門医制度認定施設  
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関  
日本 I V R 学会指導医修練施設

日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設

日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度暫定研修施設

(母体・胎児、補完研修施設)

日本麻酔科学会麻酔科認定病院

日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設

日本病理学会病理専門医制度研修認定施設 B

日本臨床細胞学会認定施設

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本ステントグラフト実施基準管理委員会ステントグラフト実施施設

(胸部・腹部大動脈瘤)

血管内レーザー焼灼術実施・管理委員会下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の  
実施基準による実施施設

下肢静脈瘤血管内治療実施管理委員会下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による  
実施施設

秋田県医師会母体保護法指定医師研修機関

日本救急医学会救急科専門医指定施設

# 組 織 図





# 診 療 概 要

## 内 科

### 特 色

健やかに長寿を全うしたいという願いは全ての  
の人にある。現代社会において日進月歩の医療は  
専門分化を必然的に伴い、ともすればヒトを臓器  
別にとらえる発想になりがちである。一方で地域  
の高齢化の現状をみると、総合的、全人的な医  
療にたいするニーズは増すばかりである。一病院  
で完結する医療は過去のものになり、地域まるご  
と連携した医療、介護、福祉が求められる時代と  
なってきた。

総合的・全人的診療は内科医のみならず全医師  
に求められる医療人の姿勢といえるが内科医が  
率先して範を示すことも必要である。

中通総合病院は新専門医制度の開始に伴い、  
「内科」と「総合診療科」の基幹病院に認定され、  
この二つの分野で専攻医を育成すべき任務が社  
会から託された。超高齢化、人口減少・少子化、  
健康格差の拡大と社会的弱者の増加、人権意識の  
高まりなど、日々変化している社会への対応のた  
め、Bio-psycho-social model として患者をとら  
える「人間力」がますます求められている。  
当院の内科は他科と協力、分業をしながら課題に  
応えるべく努めている。

### 医 師

奥山 慎 院長 科長 臨床研修担当部長  
地域医療連携副部長 1998 年卒

日本内科学会認定医

日本内科学会総合内科専門医

日本腎臓学会専門医・指導医

日本リウマチ学会専門医・指導医

日本感染症学会専門医・指導医

三船 大樹 統括科長 診療部長 2004 年卒

日本内科学会認定医

日本内科学会総合内科専門医

日本がん治療認定医機構認定医

日本呼吸器学会専門医

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指  
導医

藤原 崇史 統括科長 2006 年卒

日本内科学会認定医

日本内科学会総合内科専門医

日本腎臓学会専門医

日本リウマチ学会専門医

柴田 敬一 統括科長 診療部長 1997 年卒

日本神経学会専門医・指導医

日本内科学会認定医

日本内科学会総合内科専門医

加賀谷 肇 科長 前副院長 1971 年卒

日本神経学会専門医・指導医

日本脳卒中学会専門医

日本内科学会認定医

日本医師会認定産業医

篠崎 真莉子 科長 2012 年卒

日本内科学会認定医

日本心血管インターベンション学会認定医

日本心臓リハビリテーション学会心臓リハ  
ビリテーション指導士

ワッツ 志保里 科長 2013 年卒

日本内科学会認定医

市川 友里子 科長補佐 2013 年卒

日本内科学会認定医

小松 輝久 科長 2015 年卒

日本内科学会認定医

小貫 孔明 2017 年卒

内科専門医制度プログラム専攻医

柴田 陽 2017 年卒

内科専門医制度プログラム専攻医

本郷 真伊 2018年卒

内科専門医制度プログラム専攻医

稲葉 龍太郎 嘱託医師 1966年卒

杉山 保子 嘱託医師 1969年

福田 光之 嘱託医師 前院長 1971年卒

日本内科学会認定医

日本医師会認定産業医

草薙 芳明 嘱託医師 前副院長 1975年卒

日本呼吸器学会専門医・指導医

日本内科学会総合内科専門医

日本内科学会認定医

日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医・指導医

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医

日本医師会認定産業医

小林 新 嘱託医師 1981年卒

日本呼吸器学会専門医

日本内科学会認定医

日本医師会認定産業医

奈良 美保 非常勤

## 診療内容

外来について

- ①Common disease の外来治療
- ②診断困難例の振り分け、入院適応の決定
- ③検診異常例の二次検診
- ④内科救急症例の初期対応

入院について

朝カンファランス

月～金曜日 午前8時30分～9時

入院症例提示と担当科・主治医決定

内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、呼吸器内科、腎臓・リウマチ科

入院症例検討会

火曜日 午後3時～

## その他

胸部X線検討会

木曜日 午後4時30分～6時

病院全科の外来胸写読影

胸部検診読影

ふき健診クリニック、秋田市肺癌検診

産業医活動

内科専門医研修プログラムの運営

専攻医3名在籍

総合診療家庭医専門研修プログラムの運営

病理解剖 実績

2019年度 9例

2020年度 10例

2021年度 10例

## CPC実績（内科・呼吸器内科担当）

2021年4月13日

発表者 酒井亮太、担当医 酒井亮太 鈴木悠也、病理医 小野巖 伊藤歩美

社会的孤立状態にて栄養失調、肺炎により死亡に至った71歳女性の剖検例

2021年7月27日

発表者 杉沢夏樹、担当医 杉沢夏樹 草薙芳明、病理医 小野巖 三浦将仁

心房細動・慢性心不全の入院治療中に腹痛、嘔吐を発症し、2日間の経過で死亡した91歳女性例

2021年10月26日

発表者 小松輝久、担当医 小松輝久、病理医 小野巖 三浦将仁

肺炎で入院したものの消化管出血により救命困難であった症例

2021年12月21日

発表者 京吉郎、担当医 京吉郎 草薨芳明、病理医 小野巖

誤嚥性肺炎、随伴性胸水の診断後、剖検で結核が判明した一例

2022年2月8日

発表者 桜庭省吾、担当医 桜庭省吾 草薨芳明、病理医 小野巖 畠山遥

COPD 急性増悪の入院治療中、13 日間の経過で死亡した一例

病理解剖実績 (内科系各科+救急科担当)

日付	年齢	依頼先	内/外	依頼医師	臨床診断
2021年5月	77	ICU	内	小松	急性細菌性肺炎、小腸出血、出血性ショック、代謝性アシドーシス、消化管出血
2021年6月	90	9F	内	草薨	原発性肺癌、癌性心外膜炎、腹部リンパ節転移、食道癌
2021年7月	96	9F	内	草薨、京	誤嚥性肺炎、両側癌性胸膜炎
2021年8月	82	9F	内	草薨、桜庭	慢性呼吸不全の急性増悪、慢性肺気腫、両下肢閉塞性動脈硬化症、左腸骨部褥瘡、両下肢ASO、左下葉肺炎
2021年9月	73	9F	内	草薨、本郷	肺小細胞癌、多発肝転移、多発脊椎転移、高カルシウム血症
2021年12月	93	8F	内	柴田	脳梗塞
2022年1月	70	9F	内	草薨	突発性間質性肺炎、慢性呼吸不全
2022年1月	81	ICU	内	阪本	急性冠症候群、MRSA敗血症、急性腎不全
2022年2月	74	9F	内	草薨	原発性肺癌、両側副腎転移、多発肺転移、右顎下部リンパ節転移、左反回神経麻痺
2022年2月	74	救急	内	松田	2型糖尿病、慢性腎臓病、ネフローゼ症候群、高血圧症、脂質異常症、認知症疑い、陳旧性脳梗塞、両側頸動脈高度狭窄、陳旧性心筋梗塞

### 特 色

消化器領域は幅が広いが、特に当科では内視鏡に関連する検査・治療に力を入れている。また、消化器外科とともに消化器センターを形成し、緊密な連携の元、適切な治療を迅速に行うよう心がけている。

### 医 師

高橋 佳之 統括科長 2004年卒

日本内科学会認定医

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

伊藤 満衣 科長 2013年卒

日本内科学会認定医

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

日本ヘリコバクター学会認定医

田口 由里 科長 2015年卒

日本内科学会認定医

兔澤 晴彦 嘱託医師 1992年卒

馬越 通信 非常勤

伊藤 行信 非常勤

7. 内視鏡的消化管ステント留置術(胃・十二指腸・結腸)

8. 内視鏡的胃瘻造設術

9. ERCP関連処置(EST、採石、ステント留置、IDUSなど)

10. 小腸鏡下ERCP関連処置(EPLBD、採石、ステント留置など)

11. EUSを使用した胆膵精査、EUS-FNAなど

### 実績 (主な治療内容など)

1. 内視鏡的異物除去術(義歯、結石など)
2. 内視鏡的消化管止血術(食道、胃、大腸疾患による)
3. 内視鏡的粘膜切除術(胃・大腸ポリープ)
4. 内視鏡的粘膜下層剥離術(食道・胃・大腸の早期癌治療)
5. 内視鏡的消化管拡張術(術後吻合部、ESD後瘢痕など)
6. 内視鏡的イレウスチューブ留置術(経鼻、経肛門)

## 循環器内科

### 特 色

循環器学会専門医 3名、不整脈心電学会専門医 1名、心血管インターベンション学会専門医 2名・認定医 1名が在籍している。カテーテル治療・デバイス治療などによる心臓・血管手術を年間数百件行っており、循環器疾患全般において県内有数の治療実績がある。

24時間365日、多様な心臓血管疾患に緊急対応できるのが当院の強みである。

循環器内科医 6名、心臓血管外科医 3名、心臓リハビリテーション指導士を含む多職種によるハートチームを形成し、内科外科の垣根なく、入院から外来まで継続した日常診療に臨んでいる。

### 医 師

五十嵐 知規 統括科長 診療部長 医療安全管理部長 1995年卒

日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医

日本循環器学会認定専門医

日本不整脈心電学会認定不整脈専門医

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医

日本医師会認定産業医

医療安全管理者

阪本 亮平 科長 診療部長 2002年卒

日本内科学会認定医・総合内科専門医

日本循環器学会認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会認定医・心血管カテーテル治療専門医

日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士

播間 崇記 科長 2009年卒

日本内科学会認定医・総合内科専門医

日本循環器学会認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会認定医

日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士

篠崎 真莉子 科長 2012年卒

日本内科学会認定医

日本心血管インターベンション治療学会認定医

日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士

小貫 孔明 2017年卒

柴田 陽 2017年卒

### 実績（主な治療内容など）

#### 急性冠症候群への取り組み

年間約70例の急性心筋梗塞症を診療しており、そのうち発症12時間以内のST上昇型急性心筋梗塞（STEMI）は約50例である。STEMIに対しては24時間体制で緊急PCIを実施しているが、Door to balloon time（DTBT）は年々短縮し、現在は60分台で推移しており、全国的に見ても有数の短さである。カテーテル治療室は2室あるため、緊急症例が重複しても対応可能である。

冠動脈疾患の発症・再発予防の観点から薬物治療も重視しており、適切な治療に努めている。

#### 不整脈疾患への取り組み

頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーションや徐脈性不整脈、致死性不整脈、慢性心不全に対するペースメーカー、植込み型除細動器（ICD）、心臓再同期療法（CRT）等のデバイス治療も積極的に実施している。手術は全てハイブリ

ッド手術室での清潔な環境で安全に行っている。

不整脈疾患においては薬物治療も重要であり、適切な治療に努めている。

#### 急性・慢性心不全への取り組み

当院には年間200名以上の心不全患者さんが入院する。原因は多岐に渡るが、近年では高齢者の繰り返す心不全が増加している。非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）や薬物治療、生活指導はもちろんの事、心臓リハビリテーションを積極的に行い再発・再入院の予防に努めている。

#### ハイブリッド手術室

ハイブリッド手術室とは、外科手術とカテーテル治療の両方が実施可能な手術室のことで、開胸術を実施できる空気清浄度の手術室内に、カテーテル治療・デバイス治療用の血管撮影装置が設置され、2013年に県内で初めて導入された。

近年、高齢者の大動脈疾患、弁膜疾患が増加傾向にあり、開胸・開腹手術が困難な方にはステントグラフト内挿術、カテーテルによる弁膜症治療を行っている。これらの手術においてハイブリッド手術室はなくてはならない設備である。ペースメーカー等のデバイス植込み治療もより安全で清潔な環境で行うことができる。

#### 心臓CT

心臓CTは2007年に導入しており、県内随一の症例数を誇る。遠方からの患者さんでもかかりつけ医の先生と連携することで、必要な検査は1回の受診でほぼすべて行うことができる。

#### 特色

脳血管障害から神経難病まで、幅広く診療している。特に脳梗塞の血栓溶解療法では、tPAのみで改善しない場合は、県立循環器・脳脊髄センターと連携し血栓回収術も行っている。

外来は原則予約制だが、新患も随時受け入れている。事前に病診連携室を通した時間予約も可能である。

緊急の対応が必要な場合、即日検査を実施し、当日中に方針を決定している。

#### 医師

柴田 敬一 統括科長 診療部長 1997年卒

日本神経学会専門医・指導医

日本内科学会総合内科専門医

日本内科学会認定医

ICD

加賀谷 肇 科長 前副院長 1971年卒

日本神経学会専門医・指導医

日本脳卒中学会専門医

日本内科学会認定医

日本医師会認定産業医

ワッツ 志保里 科長 2013年卒

日本内科学会認定医

#### 実績（主な治療内容など）

1. 脳卒中。（脳血栓・脳塞栓・脳出血など）
2. パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症など。
3. 脳炎・髄膜炎、脊髄炎。
4. アルツハイマー病などの痴呆疾患。
5. ギラン・バレー症候群、末梢神経障害（糖尿病・アルコール・薬物・毒物）、顔面神経麻痺など。



6. 筋ジストロフィー、多発筋炎、周期性四肢麻痺、重症筋無力症など。
7. 眼瞼けいれん、顔面けいれん、痙性斜頸、痙性麻痺などのボツリヌス治療。

#### その他

1. 休日夜間は、内科拘束医が診療する。  
より高度の治療が必要な場合は、脳神経内科医が診療にあたる。
2. 頭痛やめまいなど、慢性的な症状も原因を解明し、患者さんの苦痛除去に努めている。
3. しびれや手足の痛みなど、どの診療科にかかればいいのか不明な場合も診療し、適切な診療科に診療を依頼している。
4. 常に新たな知見に基づいた医療を行っている。
5. 学会発表も積極的に行っている。

#### 特 色

2019年4月より秋田大学大学院医学研究科代謝・内分泌内科講座より糖尿病専門医を派遣して頂いておりましたが、医局の都合により、2021年4月より派遣がなくなっています。しかし、後期研修医が入職したため常勤医師2人体制のままとなっています。引き続き医局より非常勤医師を月曜日～木曜日まで派遣して頂いており外来体制も維持できています。

当科で糖尿病専門医、内分泌代謝科専門医が養成できるように努めており、2019年4月1日より日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰに再認定され、2020年度から秋田大学病院に次いで秋田県で2番目となる内分泌代謝科専門医の認定施設となった状態を維持しています。また、秋田県で唯一の認定施設として、2019年1月1日より日本甲状腺学会認定専門医施設、2019年10月1日より日本病態栄養学会病態栄養専門医研修認定施設、2021年10月1日より日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設として認定されました。

当科の診療の質を全国標準レベルに維持し、各学会認定施設を維持し、後進育成のために、積極的に各学会の総会、地方会に学会発表、論文投稿を続けていきます。

#### 医 師

松田 大輔 統括科長 1997年卒

日本内科学会認定総合内科専門医・指導医・認定医、JMECC provider・指導医講習受講済  
日本糖尿病学会認定糖尿病専門医・研修指導医

日本内分泌学会認定内分泌代謝科専門医・指導医

日本甲状腺学会認定専門医  
日本病態栄養学会認定病態栄養専門医・  
病態栄養研修指導医・NSTコーディネーター

厚生労働省臨床研修指導医講習終了

本郷 真伊 2018年卒

日本内科学会認定内科医  
日本糖尿病学会認定糖尿病専門医  
日本甲状腺学会認定専門医  
厚生労働省臨床研修指導医講習終了

菅沼 由美 (非常勤)

日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医  
日本糖尿病学会認定糖尿病専門医・研修指導医  
日本内分泌学会認定内分泌代謝科専門医・指導医

田近 武伸 (非常勤)

日本内科学会認定内科医  
日本糖尿病学会認定糖尿病専門医

8. 脳下垂体疾患、副腎疾患などのホルモン負荷試験などによる精査・加療

#### 実績 (主な治療内容など)

1. 外来での糖尿病の精査・加療・教育
2. 糖尿病教育入院
3. 外来での栄養指導を行い食事・運動療法による糖尿病発症予防
4. 高血糖昏睡 (糖尿病ケトアシドーシス・高血糖高浸透圧症候群) の治療
5. 他科入院の周術期血糖管理
6. 妊娠糖尿病の管理
7. バセドウ病・橋本病・亜急性甲状腺炎・無痛性甲状腺炎・甲状腺腫瘍などの甲状腺疾患の甲状腺エコー、エコー下細胞診、シンチグラフィ、CTなどによる精査・加療

## 特 色

当科は腎疾患、リウマチ疾患、膠原病を診療する内科である。腎疾患においては、蛋白尿の精査、慢性糸球体腎炎やネフローゼ症候群、比較的珍しい急速進行性糸球体腎炎、遺伝性の多発性嚢胞腎などあらゆる急性・慢性腎臓病に内科的アプローチを行っている。リウマチ科としては、関節リウマチをはじめとするリウマチ疾患、全身性エリテマトーデス(SLE)、全身性強皮症(SSc)、多発性筋炎・多発性筋炎(PM/DM)など各種膠原病の診断治療をしている。

## 医 師

奥山 慎 院長 臨床研修担当部長 地域医療連携副部長 1998年卒

医学博士

日本内科学会総合内科専門医

日本腎臓学会専門医・指導医

日本リウマチ学会専門医・指導医

日本感染症学会専門医・指導医

ICD (infection control doctor)

藤原 崇史 統括科長 2006年卒

日本内科学会総合内科専門医

日本腎臓学会専門医

日本リウマチ学会専門医

## 主な治療内容

腎臓内科：検尿異常を精査する腎生検、IgA腎症などの慢性糸球体腎炎への治療、ネフローゼ症候群への免疫抑制療法、常染色体優性多発性嚢胞腎へのトルバプタン治療など。

リウマチ科：関節リウマチの診断と標準治療、各種膠原病の診断と重症度・合併症を踏まえた個別化治療。

## 特 色

精神疾患全般を診療の対象としているが、神経症（特に小児期・思春期の神経症）、気分障害（軽症うつ病）、てんかんの患者の診療に重点を置いている。臨床心理士も関わり、心理検査や子供の患者への心理療法を行っている。また、総合病院であるため、リエゾン精神医療や緩和医療の分野にも力を入れている。認知症については認知症ケアチームを通して院内全体への啓蒙活動なども行っている。

入院治療については医療法でいう「精神病床」ではなく内科などとの混合病棟の中の「一般病床」で行っていることが特色である。

## 医 師

杓澤 理 統括科長 1991年卒

精神保健指定医

日本精神神経学会専門医・指導医

池田 祐介 科長 2011年卒

倉澤 悠紀 科長 2008年卒

## 実績（主な治療対象疾患）

1. 脳器質性精神障害。（認知症、せん妄など）
2. 物質関連障害。
3. 統合失調症。
4. 気分障害。
5. 神経症性障害。（不安障害、強迫性障害、身体表現性障害など）
6. 睡眠障害。
7. てんかん。
8. 摂食障害。
9. 発達障害。（自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害など）

### 特色

最近の肺がんの増加は死亡率で最も多かった胃がんをついに追い越した。また大気汚染や生活環境の変化により気管支喘息などのアレルギー性の病気が増え、高齢化の進行による老人の肺炎や、肺気腫などの「たばこ病」も増えている。

最近では肺癌の早期発見のために高速CTの活用、そしてまた呼吸管理治療の分野では気管内挿管をせず鼻マスクでの非侵襲的な人工呼吸（NIPPV）の積極的な導入をおこなっている。

私たち呼吸器内科のスタッフは呼吸器外科や内科スタッフと緊密な連携を保ちながら診療にあたっている。

### 医師

三船 大樹 統括科長 診療部長 2004年卒  
日本内科学会総合内科専門医  
日本内科学会認定医  
日本がん治療認定医機構認定医  
日本呼吸器学会専門医  
日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医

小松 輝久 科長 2015年卒  
日本内科学会認定医

市川 友里子 科長補佐 2013年卒  
日本内科学会認定医

草薨 芳明 嘱託医師 前副院長 1975年卒  
日本呼吸器学会指導医・専門医  
日本内科学会総合内科専門医  
日本内科学会認定医  
日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医・指導医  
日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医

日本医師会認定産業医

小林 新 嘱託医師 1981年卒

日本呼吸器学会専門医

日本内科学会認定医

日本医師会認定産業医

### 主な治療内容

1. 肺炎、気管支炎などの呼吸器の感染症の治療。
2. 肺がんの早期発見のための健診、呼吸器外科と共同した治療。
3. 喘息の治療と喘息患者さんへの療養指導。
4. 慢性肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患（多くはタバコ病）の診断と療養指導。
5. 急性呼吸不全に対して器械呼吸（人工呼吸）を含めた治療。
6. 慢性呼吸不全の患者さんに対する在宅酸素療法や在宅での人工呼吸療法。
7. 職業性の呼吸器疾患（多くはじん肺など）の診断と治療。
8. 喘息の患者教室の開催や在宅酸素療法患者会の活動への援助。

### 特色

- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設および日本消化器外科学会専門医修練施設となっている。
- ・外科学会指導医が3名、消化器外科学会指導医が4名（外科学会との重複3名）、消化器外科学会専門医は7名（指導医との重複4名）おり、研修医の指導体制は充実している。
- ・田中班と齋藤班の2チーム制で病棟運営を行っている。
- ・定期手術日は月、水、金で2室を利用して並列で手術を行っている。
- ・消化器外科手術はほぼ全領域にわたるが、特に胃・大腸領域の鏡視下手術（高橋、櫻庭、石塚、進藤、齋藤）と肝胆膵領域手術（佐々木、田中）に力を入れて取り組んでいる。
- ・化学療法は進藤医師が中心となり、化学療法カンファレンスで検討して個々の症例に合った最適なレジメン選択を行っている。
- ・消化器センターとして消化器内科をサポートし、患者情報を共有して迅速な外科対応を目指している。

### 医師

田中 雄一 副院長 統括科長 診療部長  
1983年卒

日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

齋藤 由理 科長 診療部長 栄養部長  
1991年卒

日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医

進藤 吉明 科長 化学療法部長 1993年卒

日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本がん治療認定医機構認定医  
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医  
日本内視鏡外科学会技術認定医  
日本消化管学会暫定専門医・暫定指導医  
日本腹部救急医学会腹部救急暫定教育医・腹部救急認定医  
日本医師会認定産業医  
日本褥瘡学会評議員  
日本臨床外科学会評議員  
日本腹部救急医学会評議員  
日本内視鏡外科学会評議員  
アメリカ臨床腫瘍学会（ASCO）アクティブメンバー  
ヨーロッパ臨床腫瘍学会（ESMO）アクティブメンバー  
ヨーロッパ内視鏡外科学会（EAES）アクティブメンバー  
単孔式手術研究会世話人  
Needle scopic surgery forum 世話人  
日本褥瘡学会東北支部世話人  
東北ヘルニア研究会世話人  
東北臨床腫瘍研究会（T-CORE）世話人  
高橋 研太郎 科長 がん相談支援センター長 2002年卒  
日本外科学会専門医  
日本消化器外科学会専門医  
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医  
日本がん治療認定医機構認定医

櫻庭 一馬 科長 2004年卒

日本外科学会専門医

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

日本内視鏡外科学会技術認定医

日本がん治療認定医機構認定医

佐々木 勇人 科長 2008年卒

日本外科学会専門医

日本消化器外科学会専門医

日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

石塚 純平 科長 2010年卒

日本外科学会専門医

日本消化器外科学会専門医

日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

#### 実績（主な治療内容など）（別表）

1. 手術件数は400件程度である。緊急手術の占める割合は16-22%程度である。
2. 部位ごとの手術件数においては胃が35件、大腸は100件に増加した。ヘルニアが77件に減った。胆嚢が79件であった。
3. 近年、胃・大腸手術における鏡視下手術の割合が漸増し、鼠径部ヘルニアにおいては櫻庭医師が専門外来を開設して積極的に取り組んでおり、50-70%程度に鏡視下手術で行っており、2020年は100件を超えた。虫垂切除や胆摘も鏡視下手術で行っている。
4. 臍切（PD+DP）は年間10件程度。肝切除が17件に増加しており、特に転移性肝癌を積極的に切除している影響と思われる。

消化器外科手術実績 2019年度～2021年度

部位名	2019年度			2020年度			2021年度		
	件数	鏡視下	緊急	件数	鏡視下	緊急	件数	鏡視下	緊急
胃	38	13 (34.2%)	0	40	14 (35.0%)	0	35	17 (48.5%)	0
小腸	9	2 (22.2%)	3	9	4 (44.4%)	5	5	0 (0%)	1
大腸	80	47 (58.8%)	7	83	54 (65.1%)	5	100	67 (67%)	7
虫垂	42	35 (83.3%)	29	18	18 (100%)	13	34	31 (91%)	28
イレウス	18	0 (0%)	15	14	5 (35.7%)	7	10	2 (20.0%)	9
ヘルニア	90	65 (72.2%)	5	109	69 (69.0%)	3	77	53 (68.8%)	4
肝	7	3 (42.9%)	0	10	1 (10.0%)	0	20	3 (15.0%)	1
胆	86	73 (84.9%)	26	64	53 (82.8%)	19	79	62 (78.5%)	18
膵	12	0 (0%)	1	4	0 (0%)	0	10	0 (0%)	0
痔核、痔瘻	3	0 (0%)	0	4	0 (0%)	0	15	0 (0%)	0
その他	26	4 (15.4%)	5	32	4 (12.5%)	10	28	6 (21.4%)	5
合計	411	242 (58.9%)	91 (22.1%)	387	222 (57.4%)	62 (16.0%)	413	241 (58.4%)	73 (17.7%)

表2 肝・胆・膵領域

術式	2019年度	2020年度	2021年度
膵頭十二指腸切除術	6	4	7
膵尾部切除術	3	1	3
肝切除術	4	1	17

## 整形外科

### 特 色

2021年の診療体制は常勤医6名で、整形外科の診療に携わっている。外来は月曜、水曜、木曜、金曜日に3人体制で、手術は月曜～金曜日に外来担当以外の医師で行っている。

悪性骨軟部腫瘍を除く整形外科領域すべての疾患を診療の対象にしている。主に6階病棟、7階病棟、地域包括ケア病棟の3つの病棟で入院診療を行い、入院患者数は多い時で100人を超えている。

紹介患者数は月平均100人以上で、診療圏は秋田市にとどまらず、全県が診療圏となっている。

### 医 師

千馬 誠悦 統括科長 診療部長 1984年卒

日本整形外科学会専門医

日本手外科学会専門医

専門：手外科

鈴木 哲哉 科長 診療部長 1992年卒

日本整形外科学会専門医

日本整形外科学会脊椎脊髄病医

日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医

日本脊髄病学会・日本脊髄外科学会脊椎脊髄外科専門医

専門：脊椎外科

佐々木 香奈 科長 リハビリテーション部長 2004年卒

日本整形外科学会専門医

日本整形外科学会認定スポーツ医

日本体育協会公認スポーツドクター

専門：膝関節外科

日本整形外科学会認定スポーツ医

湯浅 悠介 科長 2012年卒

日本整形外科学会専門医

専門：手外科

渡辺 学 科長補佐 2018年卒

### 実 績

1. 入院患者数	40,492人
2. 外来患者数	29,333人
3. 新患患者数	2,358人
4. 新入院患者数	1,661人
5. 平均在院日数	13.4日
6. 稼働額	2,260,585,461円

### 手術件数

総数 1,210件

#### 分野別の手術数

脊椎	93件
肩関節	59件
肘関節	111件
手	397件
股関節	181件
膝関節	175件
下腿・足	41件
腫瘍	53件



### 特 色

脳血管障害（脳出血・くも膜下出血・未破裂脳動脈瘤・脳梗塞など）、脳腫瘍、頭部外傷（急性硬膜外血腫・急性硬膜下血腫・脳挫傷・外傷性くも膜下出血・慢性硬膜下血腫など）、症候性てんかん、正常圧水頭症、脳脊髄液漏出症など、神経内科的疾患を除く脳神経疾患全般を対象に、市中病院で対応可能な疾患はほぼ全て診療している。

2021年秋より下垂体手術を積極的に行っており、全県から間脳下垂体疾患の患者さんを紹介していただき、当院糖尿病・内分泌内科をはじめ他科と連携して診療にあたっている。起立性頭痛を主症状とする脳脊髄液漏出症についても積極的に診断・治療（硬膜外自家血療法：ブラッドパッチ）を行っており、当科の特徴の一つである。

また、秋田大学脳神経外科や秋田県立循環器・脳脊髄センターなど他施設と密に連携し、当科で対応困難な症例は速やかに紹介し、他院で急性期治療が行われた患者さんのフォローアップ・リハビリテーションを引き受けている。

### 医 師

佐藤 知 副院長 科長 地域医療連携部長  
1992年卒

医学博士

日本脳神経外科学会専門医・指導医

小田 正哉 統括科長 2000年卒

医学博士

日本脳神経外科学会専門医・指導医

日本脳卒中学会専門医・指導医

日本内分泌学会内分泌代謝科（脳神経外科）  
専門医

日本認知症学会専門医・指導医

古山 陽佑（2020年1月～2021年5月）

2013年卒

日本脳神経外科学会会員

仙北谷 直幹（2021年6月～8月） 2014年卒

日本脳神経外科学会専門医

菅原 厚 嘱託医師 1978年卒

医学博士

日本脳神経外科学会専門医

### 実績（主な治療内容など）

1. 近年、脳血管障害・脳腫瘍の開頭手術件数は減少傾向で、血管内治療の適応症例や集学的治療を要する悪性脳腫瘍は主に秋田大学脳神経外科に治療を依頼している。
2. 最近、下垂体腫瘍に対する経鼻的内視鏡手術を行っており、今後、脳出血・脳室内出血、急性硬膜下・硬膜外血腫、水頭症、脳室内腫瘍についても低侵襲手術として神経内視鏡を導入していく予定である。
3. 脳脊髄液漏出症症例は増加傾向で、ガイドラインに基づいた診断・治療を行っており、昨年度のブラッドパッチ施行例は8例で、良好な治療成績を維持している。
4. 人口高齢化に伴い、高齢者頭部外傷は増加傾向で、慢性硬膜下血腫、急性硬膜下・硬膜外血腫、頭蓋骨骨折などに対する手術および保存的治療、必要に応じてリハビリテーションを行っている。
5. Treatable dementiaの一つである正常圧水頭症の診断・治療を行っており、シャント手術件数は年間10例前後で推移している。
6. その他、気管切開術や頭皮下腫瘤摘出術なども年間数例ずつ行っている。

### 特 色

心臓、大血管手術を主に行っている。2017年6月、人工心肺を用いた開心術が3,000例を超えた。

最近の傾向としては大動脈瘤に対するステントグラフト治療などのハイブリッド手術や、下肢静脈瘤に対するカテーテル手術の件数が増加している。

### 医 師

大内 真吾 統括科長 1993年卒

日本外科学会専門医・指導医

日本胸部外科学会認定医・指導医

三学会構成心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医・修練指導者

日本脈管学会認定脈管専門医

日本ステントグラフト実施基準管理委員会

胸部ステントグラフト実施医・指導医

腹部ステントグラフト実施医・指導医

浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会

浅大腿動脈ステントグラフト実施医

下肢静脈瘤血管内焼灼術実施管理委員会

血管内焼灼術実施医・指導医

弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター

大山 翔吾 科長 2010年卒

日本外科学会専門医

三学会構成心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医

日本ステントグラフト実施基準管理委員会

腹部ステントグラフト実施医・指導医

下肢静脈瘤血管内焼灼術実施管理委員会

血管内焼灼術実施医

荒井 岳史 2016年卒

日本ステントグラフト実施基準管理委員会

腹部ステントグラフト実施医

下肢静脈瘤血管内焼灼術実施管理委員会

血管内焼灼術実施医

堀江 祐紀 2018年卒

弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター

### 主な治療内容

1. 心臓弁膜症：人工弁置換術、弁形成術、Bentall手術など。
2. 虚血性心疾患：冠動脈バイパス手術、心拍動下冠動脈バイパス術、SAVE手術、Dor手術など。
3. 不整脈：心房細動に対するMaze手術。
4. 大動脈疾患：胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤。
5. 末梢動脈疾患：急性閉塞に対する緊急手術、慢性閉塞に対する血行再建術。
6. 静脈疾患：下肢静脈瘤。
7. その他：心臓腫瘍、心臓外傷など。

## 呼吸器外科

### 特 色

私たちは1987年に秋田県で初めて呼吸器外科を標榜した歴史をもっている。

呼吸器内科とも協力し、肺癌、自然気胸、縦隔腫瘍、感染性肺疾患まで幅広く診療している。

手術は秋田大学医学部胸部外科と連携し、呼吸機能を温存する区域切除術や負担の少ない胸腔鏡手術を積極的に行っている。また、免疫チェックポイント阻害薬を含めたがん化学療法も積極的に行っている。セカンドオピニオンにも随時対応している。

### 医 師

今井 一博	非常勤	(呼吸器外科専門医)
中 麻衣子	非常勤	(呼吸器外科専門医)
栗山 章司	非常勤	
石井 良明	非常勤	
原田 柚子	非常勤	
小林 未来	非常勤	

### 主な診療内容

1. 肺癌。
2. 縦隔腫瘍。
3. 気胸。

## 泌尿器科

### 特 色

泌尿器科で扱う疾患は腎、尿管、膀胱といった尿の通り道や、前立腺、精巣などの男性生殖器、さらに副腎といった臓器であり、泌尿器癌から腎不全、排尿障害など幅広く内科的治療と外科的治療（手術）を行う。

泌尿器癌では前立腺癌、膀胱癌の診断・治療をメインに行っている。前立腺癌は最近増加傾向を続けているが、早期発見のため前立腺の腫瘍マーカー（PSA）を測定し、超音波検査・組織検査を行っている。早期膀胱癌に対しては、経尿道的手術を行っている。

2019年1月からは、MRI／US画像ガイド下前立腺生検を秋田県で唯一導入し、秋田市内外の病院から紹介をいただき、検査を行っている。

慢性腎不全に対しては血液透析、持続携行式腹膜透析（CAPD）を行っている。またシャント造設術など透析関連の手術も行っている。

腎結石・尿管結石に対する体外衝撃波結石破砕術（ESWL）は、ほとんどの方は外来通院で行い、高い有効率をおさめている。無効例は他院へ紹介し内視鏡手術を勧めている。

前立腺肥大症、過活動膀胱、神経因性膀胱などに対し、内服治療を行いながら必要に応じ他院と連携して手術治療を勧めている。

### 医 師

松田 芳教	科長	2011年卒
日本泌尿器科学会専門医		
宮形 滋	嘱託医師	1977年卒
日本泌尿器科学会専門医・指導医		
日本透析医学会専門医・指導医		
日本腎臓学会専門医・指導医		

## 実績（主な治療内容など）

1. 手術件数 65例  
(膀胱25例、腎臓3例、尿管6例、尿道1例、  
透析関連30例)
2. ESWL 1例
3. 前立腺生検 96例（うち、MRI／US画  
像ガイド下前立腺生検37例）

## 皮膚科

### 特 色

嘱託医師により月・水の週2回、外来診療を行っている。

### 医 師

高橋 祐子 嘱託医師 1987年卒  
日本皮膚科学会専門医

## 実績（主な治療内容など）

1. アトピー性皮膚炎をはじめとする湿疹皮膚炎群、炎症性角化症、皮膚細菌感染症、真菌感染症、ウイルス性皮膚疾患、水疱症、入院を必要としない程度の熱傷など。
2. 胼胝、鶏眼の処置。
3. 良性腫瘍に対する冷凍凝固術。
4. 尋常性乾癬などに対するナローバンド中波長紫外線治療。

自費診療としては

1. 男性型脱毛症の内服治療。
2. 陥入爪へのガター装着による治療、超弾性ワイヤーによる矯正治療を施行している。

## 乳腺内分泌外科

### 特 色

癌の罹患率は年々増加している。

乳腺内分泌外科では最新の医療機器（3Dマンモグラフィ、エコー、マンモトなど）により乳癌を早期に診断し、また治療面では手術、薬物療法、放射線療法など標準治療に準じながら、個々の病態に応じた方法を検討し、遂行している。

### 医 師

清澤 美乃 統括科長 1993年卒

日本外科学会専門医

日本乳癌学会認定医

### 主な診療内容

1. 乳腺・甲状腺の細胞診、乳腺の組織診  
(エコーもしくはステレオガイド下マンモトーム生検)
2. 乳癌手術（年間約60～70件：この内約70～80%が早期乳癌）
3. 甲状腺上皮小体の手術（年間約10～15件）
4. 乳癌の術前・術後化学療法施行（年間約50～70件）

## 胸部外科

### 特 色

2018年から新設となった。乳腺外科、呼吸器内科、呼吸器外科などのバックアップの仕事ができればと考え赴任した。

主に、心血管を除いた胸部に関する領域の診断と治療である。

手術症例内訳は 手術助手も含め、乳がん、甲状腺、副甲状腺。胸腔鏡手術では、自然気胸や転移性肺腫瘍、胸壁腫瘍、悪性リンパ腫などの生検、また、気管切開などの侵襲的呼吸管理、膿胸、胸部外傷の患者さんの治療もしている。肺葉切除や高リスクの患者さんは、秋田大学呼吸器外科と連携して治療している。

また、学生教育にも微力ながら協力したいと考えている。

### 医 師

橋本 正治 嘱託医師 1979年卒

日本外科学会専門医・指導医

日本消化器外科学会指導医

日本胸部外科学会認定医

日本乳がん学会認定医

MMG読影医

乳腺超音波読影医

日本癌治療認定医

## 耳鼻咽喉科

### 特色

耳鼻咽喉疾患全般を診療している。専門外来として、いびき睡眠呼吸外来と小児難聴外来を行っている。

いびき睡眠呼吸外来は、睡眠時無呼吸症候群の検査治療を週2日行っている。

小児難聴外来は、小児健診時の聴覚異常が疑われる小児に対して検査、治療を週1日行っている。

### 医師

山田 武千代 非常勤  
川崎 洋平 非常勤  
椎名 和弘 非常勤  
石川 和夫 非常勤  
登米 慧 非常勤  
富澤 宏基 非常勤  
遠藤 天太郎 非常勤  
安部 友恵 非常勤  
中澤 操 非常勤（音声言語難聴外来）  
奥口 賢祐 非常勤（いびき睡眠呼吸外来）  
宮部 結 非常勤（いびき睡眠呼吸外来）

## 眼科

### 特色

常勤医一人体制であるが、大学の応援により、月～金の午前の一般診療は2診制である。

月・水・金の午後の診療は視能訓練士5名による、斜視弱視外来、術前検査など検査と、診察や説明に時間を要する診療を行っている。学童、学生など、放課後の受診に対応している。

火・木の午後の手術枠は白内障を主とする局麻手術を行っているが、第2・4の木曜日は全麻枠となっており、全麻が必要な斜視手術や白内障手術などを行っている。毎水曜日は、加齢黄斑変性や糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫に対する抗VEGF注射を手術室にて行っており、近年件数が増加している。

### 医師

羽瀨 由紀子 統括科長 1988年卒  
日本眼科学会専門医  
坂本 貴子  
日本眼科学会専門医 非常勤  
齋藤 裕輔  
日本眼科学会専門医 非常勤  
芹田 直之 非常勤

### 主な治療内容

外来延べ患者 14,299人  
入院延べ患者 1,283人  
手術件数  
内眼手術（白内障など） 541件  
外眼手術（斜視、眼瞼など） 79件  
レーザー治療 252件  
計872件

## 放射線科

### 特 色

放射線診断専門医 1 名、治療専門医 1 名で診療を行っている。放射線科のスタッフは診療放射線技師 21 名、事務 3 名である。安全、確実に効率的な検査の施行と、迅速な報告書作成を心がけている。

### 医 師

大門 葉子 統括科長 放射線部長 1992 年卒

放射線診断専門医

鈴木 敏文 嘱託医師 前院長 1979 年卒

放射線治療専門医

I V R 専門医

腹部ステントグラフト指導医

人間ドック認定医

日本医師会認定産業医

### 主な診療内容

#### 1. 放射線診断

C T、MR I の読影報告書作成が主な業務である。関連病院、近隣の開業医からの検査依頼も受け入れている。

予約検査の待ち日数は 1 週間以内であるが、緊急時には優先度を把握して対応している。

- ・ C T 検査 12, 848 件
- ・ MR I 検査 4, 594 件
- ・ 核医学検査 423 件
- ・ 血管撮影 25 件

#### 2. 放射線治療

外部照射による放射線治療件数 76 件

## 小児科

### 特 色

小児科では月～金曜日の午前・午後に新生児医療・救急医療を含んだ一般小児科診療を充実させるとともに、専門医による専門医療を外来および入院診療で行っている。

2013 年 12 月にオープンした新病院では、小児の入院ベッドがある 13 室全てがトイレ・シャワー付きの個室になり、入院後の二次感染を確実に防ぐことができる。

### 医 師

平山 雅士 副院長 統括科長 診療部長  
感染制御部長、検査部長 2002 年卒

日本小児科学会専門医

日本血液学会専門医

千葉 剛史 科長 2007 年卒

日本小児科学会専門医

日本アレルギー学会専門医

山田 瑛子 2013 年卒

日本小児科学会専門医

### 実績（主な治療内容など）

1. てんかんを中心に、脳波検査を含む精査および治療。
2. 小児ぜんそく、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患の診断および治療。
3. 小児血液疾患や小児悪性腫瘍の精査および治療。
4. 無菌室を使用した骨髄移植や末梢血幹細胞移植を含む集学的治療。
5. 認定病院として、「さい帯血バンク」からの「さい帯血移植」。

## 特 色

3名の常勤医により産婦人科一般について診療を行っている。産科ハイリスク症例は3次医療施設である秋田大学医学部附属病院、秋田赤十字病院と随時連携を取りながら診療している。悪性腫瘍症例についても秋田大学医学部附属病院と連携して診療を行っている。また、出生前診断に関する遺伝カウンセリングを行っている。

## 医 師

利部 徳子 統括科長 1994年卒

日本産科婦人科学会専門医

日本周産期・新生児医学会 周産期専門医  
(母体・胎児)

臨床遺伝専門医制度 臨床遺伝専門医

日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門  
医

小西 祥朝 科長 1999年卒

日本産科婦人科学会専門医

日本臨床細胞学会 細胞診専門医  
教育研修指導医

がん治療認定医機構 がん治療認定医

日本がん検診・診断学会 がん検診認定医

三浦 康子 科長 2006年卒

日本産科婦人科学会専門医

日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門  
医

4. 医師，看護師，助産師の24時間体制  
の対応

5. 助産師外来常設

## 婦人科

1. 婦人科一般疾患，不妊症(人工受精など)，  
更年期障害等の治療

2. 婦人科腫瘍の外科的治療(年間約150  
件)

## 実 績

入院診療：1日平均11.6名の入院患者を診療  
している。

外来診療：1日平均41.7名の外来患者を診療  
している

手術件数：113件

(婦人科開腹手術40件、婦人科腔式手術22件、  
婦人科内視鏡手術10件、帝王切開術23件、そ  
の他18件)

分娩件数：237件

## 実績(主な治療内容など)

### 産科

1. 正常妊娠，合併症妊娠，産科救急疾患の  
治療
2. 分娩の対応(年間約300件)
3. 母乳育児指導の推進



## 歯科口腔外科

### 特 色

当科は、主に当院入院中の患者さんを対象とした「周術期等口腔機能管理」を行っている。

口の中が不潔なまま手術をすると、傷の治りが遅れたり、手術後に肺炎を起こしたり、などのさまざまな合併症を起すことがある。

当科では、このよう合併症の予防を目的として、がんの手術や化学療法、放射線治療中、また、心臓外科手術等の患者さんに対して口腔ケアを行っている。

### 医 師

木山 美紀 統括科長 1994 卒

### 実績（主な治療内容など）

1. 周術期、化学療法中の患者さんの口腔機能管理。（口腔ケア指導、歯周治療、抜歯、マウスガード制作等）
2. 入院患者さんの歯科治療。（う蝕、歯周病治療、歯冠修復、欠損補綴）

## 病理科

### 特 色

当科では、診療中に採取されたすべての組織検体が、専門医による病理組織診断を行うために、適切に標本化される。診断報告書を書く際には、主治医が患者様の診療計画を立てる上で有用な情報を提供することを重視している。光学顕微鏡による形態観察が病理組織診断の基本だが、最近では染色体や遺伝子変異の有無が診療（薬剤の選択など）に大きな影響を及ぼすようになってきており、組織検体を遺伝子検査のために外注先に送る窓口の役割も担っている。

また当科では、不幸にして院内で亡くなられた患者様で、主治医が必要と認めかつ御遺族の承諾が得られた方の病理解剖も担当している。解剖により得られた情報について、臨床病理検討会にて診療者間で議論し、次の診療に役立てることが病理解剖の目的である

### 医 師

小西 祥朝 病理部長 1999年卒  
（～2021年12月）

日本産婦人科学会専門医

日本臨床細胞学会細胞診専門医

山本 洋平 病理部長 2000年卒  
（2022年1月～）

日本病理学会専門医

病理専門医研修指導医

日本臨床細胞学会細胞診専門医

小野 巖 常勤嘱託 1967年卒

日本病理学会専門医

日本臨床細胞学会細胞診専門医

提嶋 真人 非常勤

日本病理学会専門医

日本臨床細胞学会細胞診専門医

大森 泰文 非常勤

日本病理学会専門医

田中 正光 非常勤

日本病理学会専門医

鈴木 麻弥 非常勤

日本病理学会専門医

伊藤 歩美 非常勤

日本病理学会専門医

三浦 将仁 非常勤

畠山 遥 非常勤

#### 実績（主な取り扱い件数など）

1. 組織診 2, 078件。  
（そのうち術中迅速組織診 65件）
2. 細胞診 7, 108件。
3. 剖検（病理解剖）11体。
4. 秋田県総合保健事業団の細胞診業務を一部担当している。

#### 特 色

1989年に経食道心エコー（TEE）を手術時のモニターとして導入し、心臓の手術や心臓病を持つ患者さんの手術に有効に活用してきた。2013年12月新病院移転に伴い、3D機能を搭載したTEEに機種変更し、2019年には2台目の3D機能を搭載したTEEを購入し、麻酔管理の質の向上に努めている。高齢者人口が年々増え続ける秋田県において、手術患者における高齢者の割合も年々増え続け、橈骨動脈穿刺や抗凝固薬使用中の上下肢骨折患者や腹部手術患者の神経ブロックはますます需要が高まる手技となっているが、加齢に伴う解剖学的変化により熟練した麻酔科医にとっても困難な麻酔手技となってきた。そこで、最近では橈骨動脈穿刺や整形外科の上下肢手術・腹部外科手術の神経ブロックなどのために高性能の超音波機器を取りそろえ、さらに2021年10月には深部の神経ブロックにも対応した機器を新たに配備し、麻酔科医は麻酔管理に、各科の医師は各手術に役立てている。

これまで当科では県内の医療機関からの紹介や院内で発生した“困難な手術、大きな手術”を、各科と連携して多数成功させてきた。毎年術中死を覚悟しなければならないような症例を数例経験するが、患者さんやそのご家族が手術を望まれるなら、定期・緊急手術の別なく術中死の可能性が十分あるハイリスク症例も原則麻酔を担当している。特に、心臓大血管手術や心臓に難しい病気をかかえながらも手術が必要と診断された患者さんの各種手術麻酔に対して可能な限り対応している。

#### 医 師

小松 博 統括科長 診療部長 1987年卒

日本麻酔科学会認定指導医	合計	1, 418件
日本専門医機構麻酔科専門医		
厚生労働省認定麻酔科標榜医	<b>【手術部位分類】</b>	
日本心臓血管麻酔学会専門医	開頭	21件
日本蘇生学会指導医	開胸	7件
日本区域麻酔学会認定医	心臓・大血管	110件
NBE PTEeXAM testamur	開胸+開腹	0件
今井 友佳子 科長 2001年卒	開腹(除;帝王切開)	359件
日本麻酔科学会専門医	帝王切開	20件
厚生労働省認定麻酔科標榜医	頭頸部・咽喉頭	46件
日本心臓血管麻酔学会専門医	胸壁・腹壁・会陰	125件
日本周術期経食道心エコー認定医	脊椎	92件
本郷 修平 科長 2010年卒	四肢(含;末梢血管)	587件
日本麻酔科学会専門医	その他	51件
厚生労働省認定麻酔科標榜医	合計	1, 418件
日本周術期経食道心エコー認定医		
難波 美妃 科長 2015年卒	<b>その他</b>	
日本麻酔科学会専門医	2021年6月	ICLSコース開催
厚生労働省認定麻酔科標榜医	2021年12月	ICLSコース開催
鷺谷 みのり 2019年卒		

### 実績（主な治療内容など）

手術麻酔全般

麻酔科管理症例数 1, 418件

#### 【麻酔法分類】

A. 全身麻酔(吸入)	418件
B. 全身麻酔(TIVA)	12件
C. 全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	872件
D. 全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	50件
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	21件
F. 硬膜外麻酔	3件
G. 脊髄くも膜下麻酔	38件
H. 伝達麻酔	3件
X. その他	1件

## 救急総合診療部

### 特 色

当院の救急診療は外来診療部の一部としてその診療に携わってきっていたが、2007年4月、機能的にも強化した体制で救急診療部として独立した。2018年4月、救急総合診療部と名称を変更し、高齢化とともに、より多様化していく患者の病態に迅速に対応できるよう努めている。

二次医療圏に含まれる当院であるが、全次対応型の急性期病院として地域に貢献し、病院前医療並びに災害医療にも貢献できるよう体制強化を図っている。

### 医 師

菊谷 祥博 統括科長 診療部長 2005年卒  
日本内科学会総合内科専門医  
日本救急医学会救急専門医  
日本DMAT隊員

### 実 績

救急外来受診者数 13,609人  
救急車搬入台数 3,114台

## 血液浄化療法部（臨床工学技士）

### 方 針

透析室の血液透析を中心に、出張透析や多様な急性血液浄化療法（CHDF：持続的血液濾過透析、PE：血漿交換療法、CART：腹水濾過濃縮再静注法等）にも迅速に対応する。

透析液と透析用水を適正に製造管理するとともに、透析装置の保守点検も適切に管理する。

### 概 要

臨床工学技士：9名

設備：

- ・透析装置：36台（オンラインHDF装置：22台、出張透析装置：2台を含む）
- ・血液浄化用装置：1台
- ・CHDF（持続的血液濾過透析）装置：3台
- ・個人用RO（逆浸透水）装置：3台
- ・皮膚灌流圧測定装置：1台
- ・体成分分析装置：2台
- ・汎用超音波画像診断装置：2台

### 有資格

- ・透析技術認定士：6名
- ・第2種ME技術実力検定取得：6名
- ・透析技能検定2級：1名
- ・心血管インターベンション技師：1名
- ・透析療法従事職員研修修了者：8名

### 活動報告

①出張透析施行件数（207件）

- ・ICU：75件
- ・泌尿器科病棟：81件
- ・循環器科病棟：50件
- ・脳神経外科病棟：1件

- ②急性血液浄化療法施行件数（81件）
  - ・CHDF（持続的血液濾過透析）：20症例80件
  - ・PMX（エンドトキシン吸着療法）：1症例1件
- ③水質（透析用水）検査
  - ・ET（エンドトキシン）測定、生菌測定：2回/月
- ④下肢末梢動脈疾患検査：全患者：1回/月
- ⑤体液量測定検査：ペースメーカー装着者除き：1回/月
- ⑥機器管理：日常点検は毎日実施、定期点検は2回/年実施
- ⑦VA（バスキュラーアクセス）管理
  - ・理学的検査：視診、触診、聴診による簡易血流量検査は随時実施
  - ・機能評価検査：超音波装置による客観的検査は、シャント血流量（FV）、血管抵抗指数（RI）を必要時実施
- ⑧その他の活動
  - ・例年参加している関連学会、セミナー等は新型コロナウイルス感染拡大によるハイブリッド開催となり、ほとんどWEB参加となった。

#### 次年度課題

- ・透析装置および周辺装置の経年による更新と、メーカー単一化を速やかに実施する。
- ・『臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修』を全員速やかに受講する。

#### 方針

急性期リハビリテーションの強化、充実を図るために、次の事項に取り組む

1. 365日リハビリの実施の可否について検討する
2. 早期離床による在院日数短縮、在宅復帰の推進
3. 疾患別リハビリテーションの充実
4. 中通リハビリテーション病院との連携強化

#### 概要

##### ・体制

部長：佐々木 香奈

科長：佐藤 知

統括技師長：田安 義昌

職員数 49名

理学療法士 29名

作業療法士 16名

言語聴覚士 4名

##### ・設備（施設基準を満たす各種機器等）

酸素供給装置、除細動器、心電図モニター装置、トレッドミル、エルゴメータ、血圧計、救急カート、運動負荷試験装置、歩行補助具、訓練マット、治療台、重錘、各種測定用器具（角度計、握力計等）、血圧計、平行棒、傾斜台、姿勢矯正用鏡、各種車椅子、各種歩行補助具、各種装具（長・短下肢装具等）、家事用設備、各種日常生活動作用設備、音声録音再生装置、ビデオ録画システム、渦流浴、超音波治療器、立体動態波、重心動揺計、体組成計など（プレート式下肢加重計 2019年12月更新）

### 【理学療法係】

理学療法技師長代理：菊地俊充  
理学療法主任：成田研、近藤友加里  
理学療法士 29名

### 有資格

- ・3学会合同呼吸療法認定士 9名
- ・日本糖尿病療養指導士 3名
- ・心臓リハビリテーション指導士 2名
- ・秋田県糖尿病療養指導士 1名
- ・日本理学療法士協会認定理学療法士  
(臨床教育) 1名、(代謝) 2名  
(循環) 1名、(脳卒中) 4名  
(運動器) 4名、(スポーツ理学療法) 2名  
(呼吸) 2名
- ・中級障がい者スポーツ指導者 5名 ・福祉住環境コーディネーター2級 3名

### 活動報告

- ・訓練単位数92,925単位(前年度-3,908単位)
- ・感染対策を強化しながらチーム制の体制強化を実施した。
- ・新人ローテーション研修中職員の研修内容について、臨床実習の指導方法について対策チームを作り業務内容や指導内容の改善を実施した。

### 次年度課題

- ・役職者やリーダーなど各職員の役割、目的を明確化しチーム制のブラッシュアップを実施する。
- ・新人研修後の配属職員の研修内容を充実させる。
- ・早期離床リハビリテーション加算の導入を進める。

### 【作業療法係】

作業療法技師長：住吉亮子  
作業療法主任：加藤聖子  
作業療法主任：大竹裕香  
作業療法士 16名

### 有資格

- ・秋田県糖尿病療養指導士 3名
- ・福祉住環境コーディネーター2級 3名
- ・介護支援専門員 1名
- ・精密知覚検査研修受講 13名
- ・臨床実習指導者認定 14名

### 活動報告

- ・訓練単位数は52,647単位(前年比-2,007単位)
- ・必要な患者には連休を作らない方針で土曜・祝日およびGW、年末年始の長期休暇も稼働した。
- ・職場内学習として「臨床実習マニュアル」「チーム制について」をテーマに討議を重ね、円滑な職場運営にむけて努力した。
- ・業務効率改善と感染対策を目的に、病棟担当チーム制を開始した。
- ・南秋田整形病院へのスタッフ教育・診療応援、リハスタッフの研修受け入れを行った。

### 次年度課題

- ・「必要な患者には連休を作らない」方針を考慮しつつ土曜日の勤務体制を検討する。
- ・超過勤務の削減、休日取得を進める。
- ・チーム制を維持し、引き続き感染対策・業務効率の向上に努める。
- ・部門内の疾患別プロトコル、各種マニュアル

## 検査部（臨床検査課）

の更新を行う。

- ・東北ハンドセラピィ学会の活動を推進する。

### 【言語聴覚療法係】

言語聴覚療法技師長代理：堀内聖子

言語聴覚療法主任：利部理恵

言語聴覚士 4名

### 有資格

日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士  
1名

### 活動報告

- ・訓練単位数12,828単位（前年度比+1,898単位）
- ・土曜日、祝日、年末年始の稼働により、新規処方に対し、迅速に対応した。
- ・摂食・嚥下ワーキンググループへ参加し、窒息・誤嚥を防止するための取り組みに尽力した。
- ・整形外科病棟での摂食・嚥下機能初回評価を実施し、摂食・嚥下機能評価の啓蒙を行った。

### 次年度課題

- ・十分な人員の確保を目指す。
- ・個人のスキルアップ、専門性を高めるため認定資格の取得など、引き続き自己研鑽に力を入れていく。

### 方針

1. FMSによる業務継続  
輸血部門と細菌部門のFMSによる検査運営を開始した。
2. 若手職員の教育  
職員の若年層化が進むが、検査の質を落とすことなく業務を行える体制を構築する。
3. 新型コロナウイルスへの対応  
迅速スクリーニング検査、遺伝子検査LAMP法（以下LAMP法とする）、定量検査の実施をした。

### 概要

臨床検査技師15名、検査助手2名

緊急検査については24時間体制（夜勤体制、休日勤務体制）を敷いている。

### 有資格

臨床検査技師15名

認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師1名

### 活動報告

1. 外部精度管理（日本医師会、日本臨床検査技師会）へ積極的に取り組んだ。
2. 新型コロナウイルス検査業務の遂行
  - ・LAMP法検査の継続
  - ・遺伝子検査PCR法（以下PCR法とする）の導入（2021年5月中旬～）
  - ・抗原定量検査の導入（2022年2月中旬～）
  - ・検査機器・試薬の購入  
全自動遺伝子解析装置 S m a t t G e n e 4台  
抗原定量試薬 富士レビオ社製

## 検査部（生理検査課）

- ・PCR法と定量検査の手順（マニュアル）の作成・整備を行った。

### 『2021年度 新型コロナ関連検査実績』

1. 抗原検査件数：外来3,919件、入院194件、陽性総件数66名（陽性率 約1.6%）
2. 抗原定量件数：外来724件、入院45件、陽性総件数94名（陽性率 約12.2%）
3. LAMP法件数：外来1,531件、入院536件、陽性総件数75名（陽性率 約3.6%）
4. PCR法件数：外来295件、入院169件、陽性総件数10名（陽性率 約2.2%）

- ・年末の保険収載価格の見直しにより、抗原定性キットの変更（コロナウイルスとインフルエンザのコンビキットへ）を行った。

- ・PCR法24時間対応するための環境整備

### 次年度の課題

- ・FMSによる業務継続のため、老朽化した分析機器や試薬価格等を見直しを進めたい
- ・新型コロナウイルス関連検査を効率的に実施するために、感染制御部やコロナ統括本部と連携し、円滑に業務を遂行していけるよう努める

### 方針

1. 検査体制の維持に努め、技術のさらなる向上と充実を目指して取り組む。
2. 各種マニュアル改定に向けて取り組む。

### 概要

心電図・脳波検査部門	技師5名
腹部超音波検査部門	技師5名
心臓超音波検査部門	技師4名
受付担当者	事務1名

- ・5月 腹部超音波装置更新
- ・11月 エルゴメータ負荷心電図検査追加

### 有資格

・超音波検査士（体表臓器）	4名
・超音波検査士（循環器）	3名
・超音波検査士（消化器）	6名
・超音波検査士（泌尿器）	1名
・認定心電検査技師 （日本臨床衛生検査技師会）	1名
・心電図検定2級	1名
・心電図検定1級	1名
・臨床工学技士	1名
・秋田県糖尿病療養指導士	1名
・緊急臨床検査士	1名
・二級臨床検査士（臨床科学）	1名
・二級臨床検査士（免疫血清）	1名
・一般臨床検査士	1名
・健康食品管理士	4名

### 活動報告

- ・中通りハビリテーション病院入院患者の腹部超音波検査診療応援の継続。



- ・健診施設（中通健康クリニック・ふき健診クリニック）の腹部エコー応援の継続。
- ・スタッフ検温・健康観察・来院業者健康確認の継続。
- ・緊急時の対応マニュアル改訂。
- ・育児休暇明けの技師が円滑に業務に復帰できるように技術面・メンタル面など多方面からのサポートに努めた。
- ・大曲中通病院技師1名の心エコー研修を受入れた。
- ・年間を通して、循環器科医・乳腺・内分泌外科医・整形外科医とのカンファレンスに積極的に参加し、知識の向上に努めた。

#### 次年度課題

- ・引き続き検査技術の伝達・技術力のさらなる向上と充実を目指して取り組む。
- ・各種マニュアル改定に向けて取り組む。
- ・2022年度新入職員の指導教育を行う。

#### 方針

- ・患者さんから採取した検体を迅速かつ正確に検査、診断を行い適切な治療に貢献する。
- ・遺伝子検査やコンパニオン診断に対し知識と技術の研鑽に励む。
- ・全員が高い水準で幅広い業務対応ができるよう努める。
- ・安全で適切な病理室の環境作りに努める。
- ・他職種や他部署と連携してチーム医療に貢献する。

#### 概要

##### スタッフ

- ・常勤病理医 2名
- ・非常勤病理医 7名
- ・臨床検査技師 5名

##### 設備

- ・病理システム EXpath 4
- ・自動染色装置 組織診用 1台  
細胞診用 1台
- ・自動免疫染色装置 1台
- ・自動脱水脱脂装置 2台
- ・クリオスタット 1台
- ・マイクロトーム 2台
- ・自動封入機 1台

##### 有資格

- ・臨床検査技師 5名
- ・細胞検査士 3名
- ・国際細胞検査士 1名
- ・二級臨床検査士<病理> 1名
- ・特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 2名

- ・有機溶剤作業主任者 2名

#### 活動報告

- ・診断精度向上に向けて外部精度管理に積極的に取り組んだ。

(参加した外部精度管理)

1. 日本病理精度保証機構
  2. 日本臨床検査技師会
  3. 秋田県臨床検査技師会
- ・1月より大学病院から山本医師が赴任したことにより前年よりも迅速な結果報告が可能になった。

#### 次年度課題

- ・若手職員の細胞検査士資格取得。
- ・内部精度管理の充実。
- ・診断報告の更なる迅速化。
- ・病理組織診断に必要な免疫染色用抗体のラインナップを充実させる。

#### 方針

- ・各検査、治療などの質の向上を図る。
- ・納得と安心、安全な医療提供に努める。
- ・チーム医療に参画するとともに職場の活性化に努める。
- ・法人内院所との連携強化に努める。

#### 概要

診療放射線技師 22名、事務 3名

- ・各放射線検査に関すること。
- ・各放射線装置の保守管理に関すること。
- ・職員の放射線被ばくに関すること。
- ・患者の放射線被ばくに関すること。
- ・画像サーバーの運用に関すること。
- ・他医療機関宛の放射線データCD作成に関すること。
- ・R I の排気物に関すること。
- ・放射線防護衣（プロテクター）の保守管理に関すること。
- ・各放射線施設の管理に関すること。
- ・各放射線検査を受ける患者さんの受付に関すること。
- ・放射線検査の予約に関すること。
- ・放射線科医の代行入力に関すること。

#### 有資格

- ・X線CT認定技師：1名
- ・検診マンモグラフィ撮影認定技師：3名
- ・第1種放射線取扱主任者：2名
- ・磁気共鳴専門技術者：1名

#### 活動報告

- ・Webで開催された研修会や講習会へ積極的に参加した。

- ・学習会を利用してモダリティ別発表を行い情報の共有を図った。
- ・毎日16時30分からその日撮影した一般撮影のカンファレンスを行い画像の統一化を含めて技術の向上に努めた。
- ・各放射線装置の始業時点検を毎日行い、放射線装置の異常や故障の早期発見に努めた。
- ・認定資格の取得や更新に努めた。
- ・法人内院所へ業務応援を行い、連携強化に努めた。
- ・放射線検査の予約及び代行入力等で地域連携部との連携強化に努めた。
- ・毎週金曜日にMR I 担当者が、カンファレンスを行い技術の向上に努めた。
- ・各検査室にリーダー、サブリーダーを配置し、組織的な業務が行えるよう努めた。
- ・各検査室のリーダーが参加するリーダー会議を開催した。
- ・各検査の研修制度を確立し、適切な評価を行った。
- ・改正電離放射線障害防止規則へ対応した。

### 次年度の課題

- ・医療安全の徹底に努める。
- ・新人研修制度について見直しを行う。

### 方針

- ・おいしく、喜ばれる給食を提供する。
- ・衛生管理を徹底し安全な給食を提供する。
- ・栄養指導の実施や病棟での栄養管理に努める。
- ・チーム医療に参加し管理栄養士、調理師として専門性を発揮する。
- ・食材、物品、給食機器の適正管理に努める。

### 概要

- ・スタッフ数（2022年3月31現在）  
管理栄養士7名、栄養士2名、事務員1名、調理師15名、調理助手12名、洗浄係9名
- ・病院給食の提供に関する事。
- ・病院給食の衛生管理に関する事。
- ・食品や物品の購入、在庫管理に関する事。
- ・給食設備、給食機器、備品に関する事。
- ・栄養指導、栄養管理に関する事。

### 有資格

- ・栄養サポートチーム専門療養士：2名  
（佐藤美樹、畠山晋子）
- ・日本糖尿病療養指導士：1名  
（近藤円）
- ・日本病態栄養専門管理栄養士：1名  
（近藤円）
- ・秋田県糖尿病療養指導士：6名  
（佐藤美樹、畠山晋子、近藤円、伊藤亜美、三浦みどり、山田瑠愛）

### 活動報告

- ・入院患者食の提供を行った。  
概算 313,023食
- ・食物アレルギー負荷試験を実施した。(76件)
- ・行事食を16回実施した。

- ・小児科お楽しみ会のおやつを提供した。(12月)
- ・医師、栄養士による検食を実施した。
- ・個人対応調査を4回実施した。
- ・嗜好調査を4回実施した。
- ・食品自主検査を実施した。
- ・2020年度診療報酬改定における「栄養情報提供書」の算定を開始した。
- ・高齢患者が増えていることから副食一口大と全粥食の食形態を軟菜へ変更した。
- ・栄養食事指導実施件数
  - 外来個別指導： 743件
  - 入院個別指導： 782件
  - 栄養情報提供書： 37件
  - 入院集団指導： 142件
  - 離乳食教室： 84件
- ・日本病態栄養専門管理栄養士の資格を取得した。
- ・学会参加
  - 日本臨床栄養代謝学会学術集会、日本臨床栄養代謝学会NST専門療法士更新必須セミナー、日本病態栄養学会年次学術集会、日本病態栄養学会教育セミナー、日本病態栄養学会NSTセミナー、日本病態栄養学会NSTスキルUP講習会

### 次年度課題

- ・2022年診療報酬改定における栄養関係の算定取得に向けて取り組む。
- ・糖尿病透析予防外来を再開する。
- ・病院機能評価を受審し適切な診療を確認する。
- ・高齢患者に安全で食べやすい食事を提供する。
- ・学会への参加や資格取得など管理栄養士としての専門知識の向上に努める。

### 方針

- ・薬学的な専門知識と正確な調剤で、患者さんに安全、安心な薬を提供するとともに服薬指導を推進する。
- ・医師、看護師、医療スタッフと連携し、チーム医療を推進するとともに、調剤薬局との連携も強化し、入院、外来患者さんへシームレスに最適な薬物治療を提供する。
- ・医薬品の適正な管理、取扱いを推進し、医薬品適正使用に貢献する。

### 概要

- ・薬剤師19名、事務員5名
- ・処方箋調剤、注射薬等の無菌調剤、院内製剤に関すること。
- ・患者さんへの薬剤管理、服薬指導に関すること。
- ・病棟薬剤業務に関すること。
- ・医薬品情報の収集と提供に関すること。
- ・医薬品の購入、払出し、管理に関すること。

### 有資格

- 認定実務実習指導薬剤師 2名
- 日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師 2名
- 心不全療養指導師 1名

### 活動報告

- ・疑義照会の徹底、抗がん剤調製100%実施、医薬品安全管理、各医療チームでの協働など、安全性を最重視した業務を行った。
- ・病棟薬剤業務として、一般病棟に専任薬剤師を配置し、入院時から退院まで通した薬剤管理指導に取り組んだ。また、病棟の医薬品管理において、救急カート、常備薬、麻薬・向精神薬等を日々確認し医薬品の適正管理を徹底した。

### 次年度課題

- ・病棟薬剤業務における安全性、有効性のアウトカムを評価し、エビデンスを確立する。
- ・入院期間において、入院時、退院時を含め、一貫した服薬指導を徹底する。
- ・医師等との協働によるプロトコールにもとづいた投薬、ポリファーマシー対応、適正使用を目的とした薬剤変更、処方提案、薬物モニタリング等、薬剤に関する様々な業務についてタスクシフトを進める。
- ・調剤薬局との患者情報共有についてシステムの構築（患者サマリー、トレーシングレポート等の活用）を検討していく。

### 方針

- ・医師の指示の下に各医療スタッフとの連携を密にし、生命維持管理装置の操作および保守点検業務にあたり、常に学び技術を研鑽し臨床の場で患者の安全に最大限努める。
- ・医療機器管理機能を強化し、医療機器の効率的な運用と安全管理に努める。また、医療機器の取扱い方法や安全使用のための院内教育を実施し、医療の質の向上を目指す。

### 概要

臨床工学技士 5名

- ・生命維持管理装置の操作  
人工心肺装置および周辺機器の操作  
補助循環装置（ECMO・IABP）の操作
- ・心カテ業務（夜間・休日拘束体制）  
心臓カテーテル検査、PCI、EVTなど
- ・不整脈関連業務  
ペースメーカー治療関連、デバイスチェック、遠隔モニタリングの管理  
電気生理学的検査（EPS）、心筋焼灼術（RFCA）
- ・手術室業務
- ・ME機器管理業務  
人工呼吸器、除細動器、輸液・シリンジポンプ、モニター、AEDなど

### 有資格

- ・第2種ME技術者 3名
- ・体外循環技術認定士 2名
- ・3学会合同呼吸療法認定士 1名
- ・心血管インターベンション技師 2名
- ・認定集中治療関連臨床工学技士 1名

### 活動報告

- ・関連学会、セミナーへの参加を積極的に行った。
- ・心血管インターベンション技師を2名、認定集中治療関連臨床工学技士を1名取得した。
- ・呼吸器ラウンドや各病棟での学習会の開催、緊急時の各種アラーム対応や設定変更、人工呼吸器回路の変更を行い、人工呼吸器関連の安全を高める活動に尽力した。
- ・新型コロナウイルス患者の人工呼吸器ラウンド時にはビデオ通話アプリを有効活用することで患者との接触を避け、看護師と共に感染・安全対策を取りながら実施した。

### 次年度課題

- ・関連学会、セミナーへの参加、演題発表を積極的に行い、専門知識の向上に努める。
- ・体外循環・心臓カテーテル業務・植込デバイス・ME機器管理などの各業務における専門資格習得を目指す。
- ・若手職員の育成・教育（ローテーター）

### 方針

- ・医療機関や施設等からの最初の窓口として円滑な連携を行う。
- ・公開MC、医療連携セミナー、地域包括ケア学習会を市中の新興感染症発生状況をみながら定期開催する。
- ・卯月日より（広報誌）を定期発行する。
- ・社会保障制度や社会資源等を活用した医療福祉相談を行う。
- ・患者の望む暮らしが実現できるように多職種連携で入退院支援を行う。
- ・患者の権利擁護を大切にされた支援を展開する。

### 概要

- ・診療所、病院、介護保険施設等との連携に関すること。
- ・訪問看護ステーション、その他地域の関係者との連携に関すること。
- ・高額医療機器共同利用運営に関すること。
- ・医療福祉相談に関すること。
- ・退院支援と介護サービス調整に関すること。
- ・人間ドック、特定健診に関すること。

### 担当および主な業務

- ・健診担当（事務3名・看護師1名）  
特定健診、人間ドック他
- ・病診連携担当（課長・事務3名・看護師1名）  
紹介患者の診療予約および検査予約  
他医療機関への紹介  
広報誌の発行、連携セミナー等の開催
- ・退院支援担当（師長・療養支援看護師3名）  
入院患者の退院支援、退院患者相談  
訪問看護、施設からの療養相談、調整
- ・医療福祉相談担当（課長・MSW6名）

医療費等の相談、社会保障制度の紹介、申請他  
退院後の療養生活相談

### 有資格

- ・ 社会福祉士、認定医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士、介護支援専門員、認定がん専門相談員、日本 DMAT 業務調整員、三級ファイナンシャルプランニング技能士、救急認定ソーシャルワーカー、両立支援コーディネーター他

### 活動報告

- ・ 医療機関や施設等からの診療予約およびCT、MR I 等の検査予約を円滑に行った。
- ・ 公開MC、医療連携セミナーおよび地域包括ケア学習会は新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から中止とした。
- ・ 卯月だより（4月、7月、10月、1月）を定期発行し、地域の医療機関との連携強化に努めた。
- ・ がん地域連携クリティカルパスを利用した地域の医療機関との連携をすすめた。
- ・ 人間ドック、特定健診等の健診業務を円滑に行った。
- ・ ケアマネジャーや介護保険施設等との連携を推進し、患者が地域での療養や生活ができるよう入退院支援を行った。
- ・ がん相談員基礎研修 I および II 修了（1名）することができ、III 修了者 2 名、I、II 修了者が延べ 6 名となった。
- ・ レスパイト入院、紹介入院患者の円滑な受け入れを行った。
- ・ ホームページの更新に伴い、各種申込用紙や説明用紙をダウンロード可能にし、利便性向上に努めた。

### 次年度課題

- ・ がん地域連携パスを活用した地域の医療機関との連携継続
- ・ 分析ソフトを用いた紹介・逆紹介患者分析
- ・ 開業医訪問の推進
- ・ 外来との看護業務共有や統計部署の検討
- ・ がん相談員基礎研修 I、II、III の修了者を増やす
- ・ 研修会、勉強会への参加による自己研鑽と連携強化
- ・ 新規レスパイト入院の獲得
- ・ 退院支援のシステム化
- ・ 人間ドック学会判定区分に沿った結果表の出力

### 方針

がん医療に関する相談支援及び情報提供を行う。また、がん以外の疾患についても患者家族の療養生活をサポートするための相談に対応する。

### 概要

1. 院内外のがん患者と家族への相談対応
  - ① がん療養に関する情報提供
  - ② がん診療のセカンドオピニオン相談
  - ③ リンパ浮腫患者の相談・予約
  - ④ 療養上の相談、不安や悩み事の相談
  - ⑤ ホスピス緩和ケアに関する相談
  - ⑥ 就労支援
2. 患者会の支援活動
3. 市民向けの広報活動
4. 秋田県がん相談担当者会議への出席
5. 秋田県がん相談担当者会議のワーキンググループ活動
6. 秋田県がん相談担当者会議と協働して、県民向けがん相談支援センターの広報
7. その他の疾患をもつ患者家族の療養相談

### スタッフ

#### 【認定がん専門相談員】

- ・医療ソーシャルワーカー 1名

#### 【がん相談基礎研修Ⅲ修了者】

- ・医師 1名
- ・看護師 1名
- ・医療ソーシャルワーカー 2名

### 活動報告

- ・年間相談件数 675件  
内訳) 対面相談512件 電話相談163件  
他施設を通院・入院患者、家族の相談(29

件)

- ・疾患別相談件数 大腸・小腸(227件)、胃(126件)、肺・縦郭(114件)
- ・相談内容  
がん患者と家族の意思決定支援、療養相談、がん医療に関する情報提供を行った。地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護師と連携し、高齢のがん患者と家族の療養支援を行った。セカンドオピニオンに関する相談などを行った。ハローワークと就労支援に関する事業実施協定締結以後、ハローワークによる出張相談を行っている。  
・乳がん患者会あけぼの秋田の活動支援として、乳がん検診啓発活動(母の日キャンペーン、ピンクリボンキャンペーン)の応援を行った。  
・秋田県がん相談支援部会 広報情報WGとして、がんハンドブックやポケットディッシュを作成し、がん相談支援センターの広報に取り組んだ。

### 次年度課題

- ・2022年度に向けた相談体制の検討
- ・がん相談員基礎研修Ⅲの修了者を増やす
- ・院内周知活動、がんと診断された段階から当センターを利用されるための取り組みを検討していく
- ・市民向けがんサロン開催に向けた取り組みの検討していく



## 感染制御部

### 方針

医療関連感染の発生状況を把握し、院内感染防止に努める。

### 概要

感染制御部は、院長直属の部署として、感染制御に関する権限と責任を持つ。感染制御医師（Infection Control doctor；ICD）を部長とし、専従看護師、専任看護師で組織され、専従看護師には、感染管理認定看護師（Certified Nurse in Infection Control；CNIC）を配属し、感染管理を行っている。

下部組織として感染制御チーム（Infection Control Team；ICT）を設置し、感染制御部長の指揮の下、院内感染対策の強化・充実を図っている。ICTの核となる職種は、医師、看護師、薬剤師、微生物検査技師である。ICTの下部には、感染制御実践メンバー（感染リンクメンバー）を配置し、臨床現場における感染制御のモデル的役割を担っている。

### 有資格

ICD制度協議会認定ICD 1名

日本看護協会認定 感染管理認定看護師 1名

### 活動報告

- ・職員研修（新入職員年1回、全職員年2回、委託業者年1回、中途採用者年2回）
- ・AST学習会（年2回）
- ・感染防止対策加算合同カンファレンス年4回（大曲中通病院と実施）
- ・感染防止対策地域連携加算相互ラウンド年1回（秋田厚生医療センターと連携）
- ・院内ラウンド週1回

（リンクメンバーのICTラウンド参加、手指衛生の直接観察と指導）

- ・サーベイランスの実施（手指衛生、中心静脈カテーテル関連血流感染、耐性菌、手術部位感染、人工呼吸器関連感染）

### 次年度課題

- ・手指衛生の遵守率向上に向けた活動を行い、医療関連感染予防に努める。
- ・感染管理システムを活用したサーベイランスの実施（中心静脈カテーテル関連血流感染、カテーテル関連尿路感染）
- ・感染管理システム活用による業務効率化
- ・感染リンクメンバーをリソースとした感染発生予防・拡大防止

### 方針

- ・初期研修医の確保へ向け研修内容の充実に努めるとともに奨学生確保に向けた取り組みを強化する。
- ・専門医制度の研修プログラムの充実を図り、専攻医の確保および後継者の育成に努める。
- ・既卒医師の確保は医師確保対策室を中心に多様な採用方法に取り組む。

### 概要

- ・研修プログラムの企画・立案に関すること
- ・研修ローテーションの企画・立案、診療科間の調整など、研修の実施に関すること
- ・研修医（専攻医）の受け入れに関すること
- ・研修医（専攻医）の評価に関すること
- ・指導医に関すること
- ・研修管理委員会の庶務に関すること
- ・臨床研修支援チームの庶務に関すること
- ・専門研修プログラム準備チームの庶務に関すること
- ・医師の情報収集、交渉、広報、採用に関すること
- ・奨学金、外部研修に関すること
- ・高校生からの養成に関すること

### 活動報告

- ・医師確保は新卒医師2名、既卒医師9名を確保した。
- ・各大学への医師派遣依頼、OB医師への働きかけの他、医師確保対策室と連携した既卒医師の採用に取り組んだ。
- ・独自の病院説明会を開催するとともに、秋田県や民間業者主催の各種病院説明会に参加した。
- ・春期・夏期実習に学生28名、地域医療実習に

秋田大学医学部から8名、東北大学医学部から1名、秋田大学クリニカルクラークシップで学生39名を受け入れた。

- ・マッチングは定員10名に対して7名の受験があり、新年度の新卒医師3名を確保した。
- ・専門研修では、専攻医2名が中通総合病院内科専門研修プログラムを修了した。
- ・高校生一日医師体験は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。
- ・医学生の奨学金制度は奨学金を増額し、県内の高校や全国の医学科大学へ資料を配布し宣伝した。

### 次年度課題

- ・医師確保対策室を中心に医師の採用に努めるとともにさらに研修環境を整え、より働きがいのある職場環境づくりをすすめる。
- ・内科専門研修プログラムの充実による専攻医の確保と後継者の育成に努める。
- ・医学生対策、初期臨床研修内容の充実に努める。
- ・院所間や診療科間の医師配置の検討をすすめ院所、診療各科の将来を展望した後継者対策と、常勤医不在の診療科、過重労働となっている診療科の医師の充足に努める。
- ・医師の高齢化、世代交代への対応をすすめる。
- ・各学年に複数名の奨学生を確保する。
- ・初期臨床研修プログラムの充実を図り、フルマッチを目指す。
- ・内地留学制度の励行などにより初期臨床研修修了後の育成に取り組む。

### 方針

ノンテクニカルスキル（NTS）を活かしたチーム医療の推進①高齢者は転倒するという認識を持ち、多職種協働で転倒対策を実施する。②患者参加型で「確認」を行い、患者誤認のない安全な医療を実践する。

### 概要

医療安全管理委員会の方針に基づき、組織横断的に安全管理を担う。

医療安全管理部部長：五十嵐知規

医療安全管理者：高橋さつき

医療安全管理加算 1

医療安全対策地域連携加算 1

### 活動報告

- ・コンサルテーションレポート報告件数：1,463件（前年1,512件）
- ・医療安全指標：1.61（前年1.54）
- ・転倒転落率：2.86%（前年2.923%）
- ・医療安全情報通信9回、提言3回発行
- ・医療安全管理部の患者への直接介入：15事例
- ・全死亡事例スクリーニング：42回／504人

### 総括

新人研修では高齢者・麻痺患者疑似体験を実施し、患者状況に合わせた転倒転落防止策の重要性を体感する機会となった。また、多職種で転倒転落防止策を検討できるよう「転倒転落防止ラウンド」を3回実施した。その結果、昨年度より転倒転落発生件数が減少し、骨折率は低下した。

取り違え防止対策として、各部署で患者誤認防止手順の改訂を行った。患者取り違え件数は

昨年度よりは減少したが、様々な場面で依然として発生しており、引き続き取り組む必要がある。

食事による窒息事例が相次ぎ、多職種による摂食・嚥下ワーキンググループを発足し、「改訂版 入院時摂食嚥下評価・窒息防止のアプローチ」の運用を開始した。

インシデントレポートシステムの導入、事故を未然に防いだゼロレベルのレポートをまとめた Good-Job 通信発行など、レポート報告促進に向けた活動を行った。

### 次年度課題

- ・多職種による事故防止の取り組み
- ・インシデント管理システムを活用した分析と改善策の検討
- ・部署医療安全推進担当者と連携した現場力の向上

看 護 部 門

### 【体制】

看護部長	保坂るり子（認定看護管理者）		サード受講 3.4%	
副看護部長	業務担当	宮野はるみ（認定看護管理者）		セカンド受講 32%
	総務担当	原田由香利		
	教育担当・BCM	奥澤律子 *BCM=ベッドコントロールマネージャー		ファースト受講 73%
	七尾恵美子			
看護師長 18名	主任 19名	主任代理 18名		

### 【概要】

看護要員数 492名	助産師 19名	看護師 418名	准看護師 3名
		保育士 1名	看護補助者 51名
看護体制	一般病棟	7:1 看護配置	
	集中治療室	2:1 看護配置	
	地域包括ケア病棟	13:1 看護配置	
看護提供方式	固定チームナーシングなど		
勤務体制	3交代制	救急総合診療部のみ2交代制	
委員会・プロジェクト活動	看護教育委員会	看護業務安全委員会	
	看護記録委員会	看護体制再編プロジェクト	
	認定看護師会	働き方改革プロジェクト	
	ラダーレベル認定審査委員会		
看護師の専門性資格			
認定看護師 10名	緩和ケア認定看護師 2名	皮膚創傷排泄ケア認定看護師 1名	
	がん化学療法認定看護師 1名	感染管理認定看護師 1名	
	認知症看護認定看護師 1名	救急看護認定看護師 1名	
	透析看護認定看護師 1名	手術室看護認定看護師 1名	
	集中ケア認定看護師 1名		
認定看護管理者 2名			

### 【看護部主要行事・活動等】

4月	新入看護職員入社 キャリア支援・ローテーション希望調査実施
6月	夜間帯勤務の看護補助者の配置スタート
8月	看護補助者 入職時研修開始 9月受審予定の病院機能評価訪問審査 延期決定
12月	働き続けられる職場環境創りに向けての討議 第1回 教育編（師長会議）
	入院時摂食嚥下評価・窒息防止アプローチの運用開始
1月	働き続けられる職場環境創りに向けての討議 第2・3回 多様な働き方編・多職種協働編
2月	看護管理者研修「看護管理実践報告会」（対象：看護管理者）
3月	新体制準備

### 【実習・研修受け入れ】

中通高等看護学院 学生実習

## 理念

患者さんとの関係性の中で「明日に希望をつなげる看護」を提供します。

「明日につなげる看護」とは、

1. 患者さんがどのような状態にあっても、人間が本来持つ生きる力を引き出し、その人らしさを支えていきます。
2. 24時間患者さんの傍らに寄り添い、その時間を大切にし、患者さんの想いを創造する看護ケアを提供します。
3. 看護ケアを通じて患者さんから学び、専門職として成長していきます。

## 基本方針

1. 患者さんを全人的に理解し、質の高いチーム医療を目指します。
2. 患者さんに安全で安心・納得できる看護を行います。
3. 患者さんのQOLの向上が図られるように、継続した看護を行います。
4. 専門職業人として、自己啓発し、臨床実践能力の開発に努めます。
5. 活気ある、働きがいのある職場を作ります。

## 教育理念

当院の看護師要件を満たし、看護部の理念達成に貢献できる看護師を育成します。

\* 当院の看護師要件＝倫理性・専門性・協働性・主体性

## 教育目標

1. 高い倫理観を持ち、看護者として患者さんご家族のニーズに対応できる能力を育成します。
2. 高い知識と正確な技術を統合し、実践できる能力を育成します。
3. 他者（同僚や医療チーム）と協働・連携をはかる能力を育成します。
4. 患者さんご家族と信頼関係を保つため、より良い人間関係を築く能力を育成します。
5. 看護の質を保証し、向上させるために看護職の教育や研究に取り組む能力を育成します。
6. より良い組織を作りあげていくための管理能力を育成します。

## 重点目標と実践結果・成果・課題

### 顧客の視点

1. 患者さんのかけがえのない日常に繋げ支える看護を多職種協働で実践します
  - 1) 退院後の安心できる生活に向けて、看護ケア・生活指導・退院支援を充実させる
  - 2) 院内ケアチーム活動・多職種協働を推進する
    - (ア) 認知症ケアチーム・栄養サポートチーム・糖尿病診療支援チーム・心臓リハビリチーム  
緩和ケアチーム・褥瘡対策委員会・感染防止対策委員会・医療安全推進担当者会議 等
    - (イ) 病棟担当薬剤師との協働

### 《実践結果》

- 1) 各部署で患者の退院後を見据えた生活指導を行う上で、疾患管理パンフレットや退院指導パンフレットの作成・活用や栄養士による講義などから、知識を深めるなど積極的な取り組みが行われた
  - ・また、職場内看護実践報告会の開催、患者アンケート・モニタリング用紙結果を職場内で共有することで具体的改善策に繋げた
  - ・看護研究発表会（10 部署：12 演題）を2日間で開催し、安全・感染対策、臨床倫理、臨床判断、メンタルヘルス、看護ケアなど多くのテーマで交流を図った
- 2) 院内ケアチーム・各委員会では、それぞれの活動目標と指標を達成し他職種協働が推進された
  - ・全病棟に病棟担当薬剤師が配置され1年半が経過し、病棟薬剤の管理、患者薬剤指導、患者カンファレンスへの参加など病棟担当薬剤師の関わりが更に推進されてきている

### 《成果》

成果指標	成果
①看護実践報告からの学び・考察	各部署取り組み 100%、師長会議での共有
②患者アンケート結果・課題対応	総数 1,707 件 （前年+390 件） 謝辞 657 件（前年+18 件） 要望 52 件（前年-11 件） 苦情 45 件（前年+24 件）
(ウ) モニタリング結果・課題対応	退院支援の適切性 99%（前年 99%） 望む生活の実現率 90%（前年 90%）
⑥薬剤管理の IA 件数の低下	331 件（前年+12 件）

### 《課題》

1. 患者の望む生活の実現に向けて、医療チームとしての連携を強化する

## 顧客の視点

### 2. 働き続けられる職場環境の課題に取り組む

- 1) 働き続けられる職場環境について学び、職場の課題に取り組む
  - ① 健康・安全・多様な働き方の推進
  - ② 超過勤務削減統一行動の推進
  - ③ 新人教育プログラム再検討
  - ④ 看護補助者が働きがいを持てる活用と協働の仕組みの検討
  - ⑤ 業務基準・手順整備事項の周知・推進

### 《実践結果》

- 1) 働き続けられる職場環境については、それぞれの部署で超過勤務削減・業務改善等が行われたほか、働き方改革プロジェクトの提起により「始業時・標準化行動」の運用を開始した
  - ・看護部全体としては、新人看護職員の夜勤開始時期を早める取り組みや看護補助者の積極的採用により看護師の負担軽減・超過勤務削減につなげる取り組みを進めた
  - ・看護補助者については、夜間帯に勤務する看護補助者を導入し協働を進めることで、夜勤看護師の負担軽減と日中の超過勤務軽減への波及を期待した
  - ・また、看護補助者教育については、入職時研修2日間（夜間1.5日）とし、入職2年目以降は、集合教育を取り入れるなど役割意識とやりがいに繋げるものとなった
  - ・育児短時間制度・夜勤免除などの両立支援制度は、引き続き利用された他、一時的な夜勤専従、育児短時間終了後の遅出日勤が行われるなど、働き方の多様性が少しずつ進んでいる

### 《成果》

成果指標	成果
①各部署の職場環境改善の取り組み	全部署で取り組む
②勤務形態の具体化	一時的夜勤専従 育児短時間終了後の遅出日勤勤務の実現
③超過勤務時間 20%減少	12.6H/日（前年+0.9H）
(エ) 年次有給休暇取得率 50%を目指す	2022年3月 50%取得
(オ) 病欠者数 前年より減少	メンタル休務者-4名
(カ) 退職率（新人0%、全体7%以下）	看護師 10.6%、新人 6.1%
⑦平均夜勤回数 前年より減少	8.6回/月（前年+0.6）
⑧看護補助者の配置増・夜間帯への配置・定着率増加	看護補助者 35名（夜間 25名、日中 10名） 入職 離職率 28.5%

### 《課題》

- ① 「始業時・標準化行動」の評価、新たな課題に対応する
- ② 新人看護職員の早期夜勤開始の評価、新たな課題に対応する
- ③ 夜間帯に勤務する看護補助者に関する課題（アンケート結果・師長会議協議内容）に対応する



## 業務プロセスの視点

その人らしい暮らしを支えることができる看護ケアの提供体制を整えます

1) 時々入院ほぼ在宅を支える看護提供体制を整備する

① 病棟外来プール制の廃止

② 外来看護機能（看護専門外来・療養支援・相談業務等）の整備

③ 入退院支援センター機能の明確化

2) 看護業務改善対策を推進する

① 電子カルテシステムの課題対応

② 看護記録の適切性・効率性の推進

### 《実践結果》

- 1) 外来看護体制構築に向けた取り組みは、看護体制再編プロジェクト中心に行われ、気管支鏡検査の外来全面移行と S2 病棟からの異動が実施された
  - ・年度途中の退職者の発生等で各病棟の体制が厳しくなり、「病棟外来プール制の廃止」については、困難と判断した
  - ・外来看護機能の整備については、看護体制再編プロジェクト・地域医療連携部・外来・認定看護師等が患者相談窓口拡大に向けて検討を続けている
- 2) 看護記録の記録監査を 2 回/年行い、プロフィールの記載漏れ、看護計画評価に課題が残った

### 《成果》

成果指標	成果
①病棟外来プール制の廃止	7 月気管支鏡検査外来全面移行、9 月 S2 病棟達成
②看護専門外来・療養支援・相談業務の実施	次年度への継続課題
③電子カルテシステム課題対応の実施	部署看護管理日誌の一部改訂

### 《課題》

1. 外来看護体制・機能を再建する
2. 入退院支援センター機能を明確化する
3. 看護記録の課題に取り組む

## 学習と成長の視点

看護職が専門職業人として成長する環境を整えます

1) キャリア支援を再考し、推進する

① キャリア開発ラダーのレベル別研修の実施

② ローテーションシステムの再考

③ 提案型ローテーション研修の推進

### 《実践結果》

- 1) 看護教育委員会では、各部署へキャリア開発ラダーの活用を働きかけ、目標面接やラダー申請時の活用が向上した
- ・更に、トピックス研修、認定看護師が講師となる研修等により満足度の高い研修となった
  - ・看護師としてのやりがいにつながるキャリア支援として、専門領域の育成、ローテーションについての課題については、継続した取り組みが必要である

### 《成果》

成果指標	成果
①研修アンケート結果・ラダーレベル認定者数	ラダーレベル申請者総数 74 名
②専門分野・各種認定、教育等を目指す看護師の計画的育成	集中ケア認定看護師 1 名誕生
③ローテーション希望の実現・支援	法人内施設 6 名、院内 11 名
④ローテーションシステムの検討	働き続けられる職場環境・キャリア開発の視点で協議
⑤提案型ローテーション研修実施（5～7 部署）	6 部署 8 人（前年 3 部署 6 人）

### 《課題》

1. ローテーションシステムの再考を継続する
2. 専門分野・各種認定・教育等を目指す看護師を計画的に育成する

## 経営の視点

入院基本料算定要件の堅持と効果的な病床運用で経営に貢献します

1) COVID-19 対応診療継続計画を明確にし、安全・安心に繋げる

2) 適切な病床運用を継続する

3) 病院機能評価更新に向ける

① 患者中心の医療の推進

② チーム医療による診療・ケアの実践

③ 診療・ケアにおける質と安全の確保

④ 理念達成に向けた組織運営

## 《実践結果》

1) COVID-19 重点医療機関として、S2 病棟でのコロナ陽性・擬陽性患者対応が余儀なくされる中で、S2 病棟の運用継続と他病棟への応援体制を調整しながら、適切な病床運用が行われた

・また、目標病床稼働率を意識した退院調整として、週末から平日へのシフトを中心に行った

・病院機能評価受審は、COVID-19 の影響で 2022 年度に延期となった

## 《成果》

成果指標	成果			
①BCP の整備・周知	新型コロナ陽性患者に直接かかわる部署での部分的な変更・周知はあったが、全体の整備は未実施			
②病床運用目標値・施設基準のクリア		稼働率	平均在院日数	在宅復帰率
	一般病棟	78.2%	15.6 日	97.9%
	地域包括ケア病棟	86.0%	17.6 日	90.1%
③病院機能評価 受審結果	新型コロナウイルスの影響で、受審は次年度へ延期			

## 《課題》

1. COVID-19 の動向を踏まえた適切な病床運用を継続する

2. 病院機能評価更新に向けて取り組む

## 2021年度 看護部 教育実施一覧

ラダー	研修名	月日	担当	
	看護職員入職時研修	4/1～8	看護教育委員会	
	看護倫理研修1	4/6		
	フィジカルアセスメント研修1	4/5		
	新人メンバーシップ1	4/8		
	フィジカルアセスメント研修Ⅱ	5月～9月		
	新人看護師対象 危険薬剤の使用方法	5/20	看護業務安全委員会	
	新人看護師対象 看護技術フォローアップ研修	6月	看護教育委員会	
	メンタルヘルスサポートⅠ	6/11		
	メンタルヘルスサポートⅡ	10/15	看護教育委員会	
	新人輸血学習会	7/15	輸血療法委員会	
	新人看護師対象 安全な輸液ポンプ・シリンジポンプ使用方法	7月	看護業務安全委員会	
	BLS十挿管の介助	7/30	看護教育委員会	
	新人看護師対象 看護記録フォローアップ研修	6/15	看護記録委員会	
	新人看護師対象 看護必要度研修	7/1		
	メンバーシップ研修 卒後2年目	6/24	看護教育委員会	
看護理論研修1回目 卒後2年目	8/19			
看護理論研修2回目 卒後2年目	1/31			
ケースレポート	各部署			
リーダーシップ研修Ⅱ 卒後3年目	11/11			
Ⅱ 看護倫理研修Ⅱ	9/9			
看護研究Ⅰ	学研			
Ⅲ リーダーシップ研修Ⅲ	9/2			
看護倫理研修Ⅲ	9/30			
看護研究Ⅲ	学研			
Ⅳ 看護倫理研修Ⅳ	10/21			
マネジメント研修1回目	6/17			
マネジメント研修2回目	1/20			
看護研究Ⅳ				
その他	第1回エルダー研修	3/18		看護教育委員会
	第2回エルダー研修	5/27		
	看護必要度研修 卒後2年目以上	11/4		
	トピックス研修 ①移乗の介助	5/11・18・6/8		
	トピックス研修 ②緩和ケア・がん看護	7月		
	トピックス研修 ③退院支援学習会	9月		
	トピックス研修 ④皮膚排泄ケア学習会	11月		
	看護研究発表会	1/20・1/27		
	身体侵襲を伴う看護技術研修 55項目受講とテスト100点取得	3月年度末まで	看護業務安全委員会	
	身体侵襲を伴う看護技術研修 口腔内鼻腔内吸引技術チェック	10月～11月	看護教育委員会	
	部署教育担当者会議	6/25・1/21		
	看護管理者研修	2/10	看護部長室	
	看護補助者研修	入職時・9/1～12/28	看護教育委員会	
	新入職員 感染対策研修	6/22	感染制御部	
	全職員対象感染対策学習 第1回・第2回	7/13・11/16		
中途採用者感染対策研修	8/24・2/2			
医療安全推進担当者研修	4/21	医療安全管理部		
新入職員 中途採用者安全オリエンテーション Part1・Part2	6/16・10/19			
医療安全全職員学習会	7/5～9			
医療安全セミナー	12/13～17			

院外研修・学会等の参加＝36名

(秋田県看護協会 主催研修参加者数＝201名)

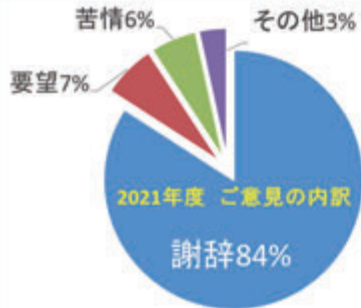
開催月日	研修会・学会名	参加人数
2021年 8月 1日	重症度、医療・看護必要度 評価者及び院内指導者研修オンライン	1名
2021年 8月 18日	母子保健マスター講座 With コロナ時代の母親学級 インターネット配信	1名
2021年 8月 22日	医療介護関係者のための ACP 人生会議研修 ZOOM	1名
2021年 9月 9日	退院支援看護師養成研修 9/9.10.11/10 3日間	2名
2021年 6月 9日	秋田県実習指導者講習会 6/9～8/4	1名
2021年 9月 19日	感染環境学会総会・学術集会 WEB 開催	2名
2021年 9月 12日	全国民医連 第10回 医療介護安全交流集会	3名
2021年 9月 24日	弾性ストッキング圧迫療法コンダクター養成 WEB 講習会	4名
2021年 10月 18日	秋田県医療安全管理者 養成研修	1名
2021年 10月 15日	看護職員認知症対応能力向上研修会	1名
2021年 10月 22日	日本救急看護学会 学術集会オンライン開催	1名
2021年 11月 13日	腎不全看護学会 学術集会 総会 11/13～11/14 2日間	1名
2021年 11月 17日	秋田県新人教育責任者研修 11/17～18・12/10 3日間	2名
2021年 11月 26日	全日本民医連 青年ジャンボリー「つながる心、つなぐ未来」	2名
2021年 12月 4日	医療事故における医療機関と遺族の取り組み	1名
2021年 12月 8日	秋田県手術看護情報交換会議 ZOOM ミーティング	2名
2021年 12月 11日	東北臨床腫瘍セミナー	1名
2021年 12月 16日	秋田県看護資質向上研修 倫理的課題に気付く力を育てよう	2名
2022年 2月 4日	日本看護サミット 看護職の就業継続が可能な働き方で看護の未来を拓く	3名
2022年 2月 19日	日本がん看護学会学術集会 WEB	3名
2022年 3月 11日	日本臨床腎臓病 看護研修会学術集会看護師のための透析穿刺教育プログラム	1名

看護研究の取組み状況 一覧

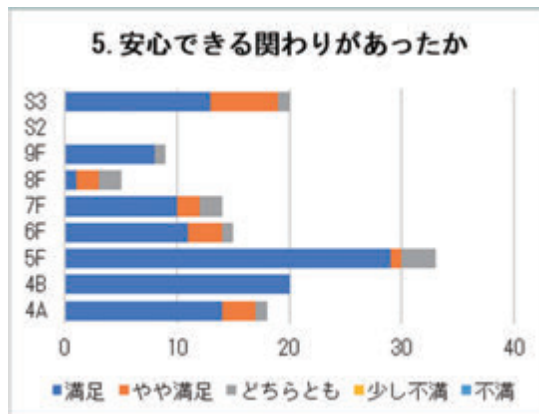
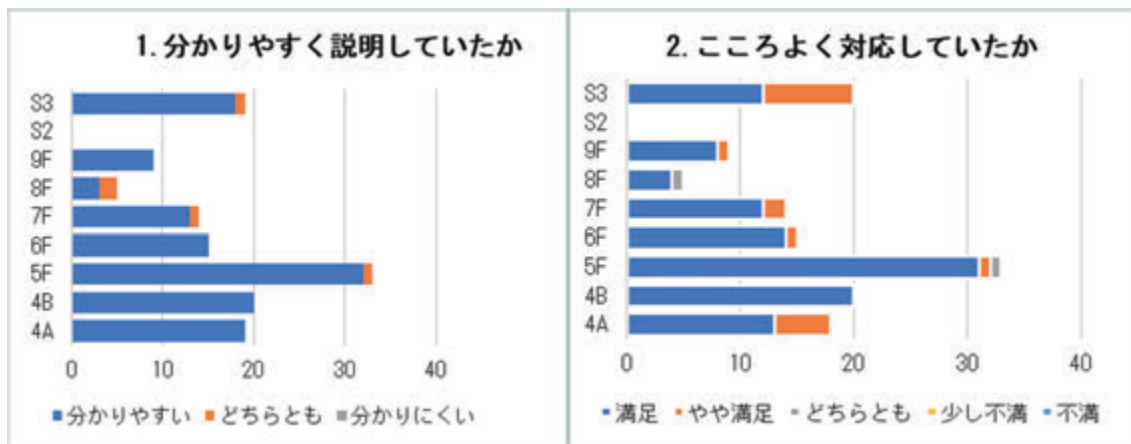
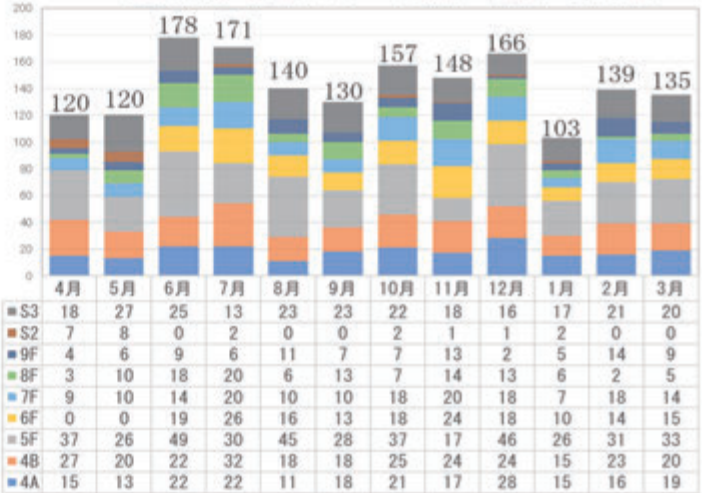
院内＝12 演題 院外＝15 演題

部署	発表先	年月日	演題名
4A	院内 看護研究発表会	2021/12/9	①心不全終末期における患者家族への看護介入 ②臨床倫理看護カンファレンスを通じた看護師の倫理的 的感受性の意識調査
	全日本民医連学術集会	2021/10/22	・心不全終末期における患者家族への看護介入
	看護・リハ技術者合同活動交流会	2021/11/13	・臨床倫理看護カンファレンスを通じた看護師の倫理的 的感受性の意識調査
5F	院内 看護研究発表会	2021/12/23	・若手看護師の看護実践能力に影響を与えるペア制の 効果と課題
7F	看護・リハ技術者合同活動交流会	2021/11/13	・腹膜透析看護に対する意識調査から見えた現状とス タッフ教育の課題
9F	院内 看護研究発表会	2021/12/9 2021/12/23	①安全な食事介助に対する病棟看護師の意識調査 ②器質的口腔ケアの技術の向上に向けた取り組み
	看護・リハ技術者合同活動交流会	2021/11/13	・新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ病棟の看 護スタッフのメンタルヘルスに影響を与えた要因
S3	院内 看護研究発表会	2021/12/9 2021/12/23	①清潔ケア時の看護師の手袋交換の実態と介入効果 ②手指衛生に対する意識向上を目指して
	看護・リハ技術者合同活動交流会	2021/11/13	①転倒転落防止表のマニュアルの実践への働きかけ ②患者アンケートより見えた退院支援の課題を振り返る
手術室	院内 看護研究発表会	2021/12/23	・コンサルテーションレポートに対する意識調査
	看護・リハ技術者合同活動交流会	2021/11/13	～安全意識向上に向けた取り組み～
CN会	院内 看護研究発表会	2021/12/23	・看護外来開設に向けた認定看護師の課題
ICU	院内 看護研究発表会	2021/12/23	・開心術後に清拭する際の ICU 看護師の臨床判断の現状
	看護・リハ技術者合同活動交流会	2021/11/13	①自己抜去対策におけるせん妄患者対応アセスメントシー トの有効性の研修 ②集中治療室看護師における気管内挿管患者の早期離床プロ グラムの有効活用への課題
HD	院内 看護研究発表会	2021/12/23	・外来維持透析患者における患者満足度調査から見え てきた現状と看護介入における課題

2021年度  
退院時患者アンケート結果



2021年度 患者アンケート集計 合計=1,707枚



## 外 来

### 方 針

専門性の発揮と入院前から退院に繋ぐ継続看護の提供と地域で生活する患者の健康な日常と療養を支えます

### 概 要

診療科：一般外来22科 専門外来18科  
外来看護師担当：28診療科（専門外来含む）、  
注射センター、化学療法室、健診、予防接種、  
検査室、電話相談、予約入院案内センター  
病棟看護師担当：17診療科、CT・MRI  
看護体制：看護師長 今野真由美  
看護主任 舩水裕子 板垣直子、看護主任代理  
谷屋聡子、佐藤裕子  
外来看護師59名 看護補助者7名  
学会認定資格者：緩和ケア認定看護師2名  
がん化学療法看護認定看護師1名、消化器内視鏡  
技師5名、インターベンションエキスパートナース  
1名、日本糖尿病療養指導士2名、秋田県糖尿病  
療養指導士1名

### 活動報告

地域で暮らす患者がその人らしく生活できるよう患者のニーズを捉え、多職種と連携し継続した支援に繋げることができた。

また、療養支援が必要な患者・家族の情報が外来看護師間、多職種が共有できるツールを検討し、継続看護に繋げられるよう運用基準を整えた。

新人看護職員の受け入れや部署内での育成を強化し、プール制廃止に向けた看護体制に備え準備をした。

### 次年度課題

病棟外来プール制廃止の実施、その人らしい生活を支える療養支援と継続看護を行い、外来看護師としての役割を果たしていく。

### 論文執筆、学会発表等

コロナ渦のため学会等の発表はなかった。

## 4階A病棟

### 方 針

循環器内科・心臓血管外科領域における看護の専門性を発揮し、患者さんのかけがえのない日常を支える看護につなげます。

### 概 要

病床数：46床  
診療科：循環器内科、心臓血管外科  
外来担当：循環器内科、心臓血管外科  
看護体制  
看護師長：三浦ゆり子  
看護主任：保坂沙紀子、金野香織  
看護師：27名 看護補助者：6名

### 【有資格者】

心臓リハビリテーション指導士：1名  
弾性ストッキングコンダクター：2名

### 活動報告

1. 前年度作成した「施設向け心不全パンフレット」と「在宅向け高齢者心不全リーフレット」を活用し、地域と連携した心不全看護ケアの充実に取り組んだ。活用した対象の再入院率をデータ化し、有効性を評価した。
2. 業務効率の向上による超勤削減、超勤データの可視化による個々の意識改革、有給休暇取得数アップによる職員満足等、働き続けられる職場環境作りに取り組んだ。
3. 全日本民医連学術交流集会で2演題、秋田県民医連看護・リハビリ技術者合同活動交流集会で2演題（1演題は全日本民医連で発表した演題と同一）、看護研究発表会で1演題、夫々発表した。周りからの好評価で「達成感」「やりがい」を実感することができた。

### 次年度課題

1. 退院後もその人らしい生活を送れるよう、入院時から退院後を見据えたプロセスを充実させる。
2. 働き続けられる職場環境を目指し、引き続き「超勤削減」「業務改善」「有給休暇取得の充実」に取り組む。
3. 専門職業人として成長するための教育と専門分野におけるキャリア支援を継続する。

## 4 階B病棟

### 方針

1. 子ども・家族が納得し、安全な療養環境のもと、継続した治療ができるようにします。
2. より多くの女性が生涯を通して心身共に健康な生活を送れるよう、セルフケア能力向上の支援と多角的な保健指導を実践します。

### 概要

病床数：34床

診療科：小児科、産婦人科

担当外来：小児科、小児特殊外来（血液・発達・アレルギー・心臓）、産科、婦人科、助産師外来  
看護体制

看護師長：長山和子

看護主任：村上美佳子、遠藤知子

看護主任代理：鎌田直美

看護師：16名 助産師：18名

看護補助者：2名 保育士：1名

### 学会認定資格者

臨床輸血看護師：1名、自己血輸血看護師：1名、アドバンス助産師：3名、NCPR受講終了：14名 小児アレルギーエデュケーター：1名

### 活動報告

1. 小児科チームは、小児用の転倒転落アセスメントシートを作成し完成し業務安全で監査中である。看護手順や各種パンフレットの見直しを行い、プレパレーションの実施回数も外来で増えている。アレルギーカンファレンスは定例化し外来と病棟の連携出来ている。第一回秋田憲章に白血病の会も実施出来た。
2. 産婦人科チームは、コロナ禍使用で妊産褥婦へオンライン教室での指導手順の作成を行い、実施することが出来た。産後指導での沐浴指導もホームページへ掲載することもでき、より充実した指導へと繋がられた。

### 次年度課題

1. 小児アレルギー以外の外来患児の情報共有のカンファレンスを実施していく。
2. 婦人科患者支援とグリーフケアの手順を作成していきたい。
3. 働き続けられる環境づくり、調整を行っていく。

## 5 階病棟

### 方針

外科看護の専門性を発揮し、患者・家族に寄り添った看護を実践します

働き方改革を進めると共に学び合い、助け合い、成長できる環境を整え、やりがい感につなげます

### 概要

病床数：50床

診療科：消化器外科、乳腺内分泌外科、胸部外科  
担当外来：乳腺内分泌外科

看護体制

看護師長：近江薫

看護主任：大山真由美、看護主任代理：伊藤美奈

看護師：26名 看護補助者：5名

### 活動報告

病床利用率：92.5%

平均在院日数：14.3日

手術件数：393件

急性期がん治療を受ける患者、周手術期、高齢患者のかけがえのない日常と暮らしの場をつなぎ支え、緊急入院、緊急手術にも対応し、専門的看護の実践を行った。他職種でカンファレンスを行うことで倫理観、意思決定支援、終末期看護を深めることに繋がった。

働き続けられる職場環境を整備するため、業務のスリム化を目指し、他部門への業務委譲の検討と実施をすすめた。

### 次年度課題

1. ペア制の定着を図り、新人～卒後3年目看護師と異動者の育成に繋げる。
2. 看護補助者との協働を進め、働き続けられる職場環境を整備
3. 外来部門への業務委譲の実現化



## 6階病棟

### 方針

急性期から退院支援まで対象理解と患者さんが日常の暮らしに戻れるよう専門性の高い整形外科看護を提供します。

### 概要

病床数：50床

診療科：整形外科

担当外来：整形外科外来

看護体制

看護師長：小山京子

看護主任：千葉直美、佐藤美幸

看護師：31名 看護補助者：5名

学会認定資格者

リウマチケア看護師：1名

### 活動報告

入院数 923名 退院数 704名

包括病棟転棟 212名

年間平均 病床利用率 91.7%

在院日数 20.7日

手術件数 740件

緊急入院、緊急手術にいつでも対応し、地域に求められる周術期ケアを実践している。急性期整形外科における継続看護を重視し外来、入院、退院、地域に繋がる取り組みを行った。

受傷後のADL低下に伴う合併症を予防しQOLの向上を図ることを目標に取り組んだ。合併症や患者理解を、多職種による学習会やeラーニング学習の機会を設け、日々の看護ケアへの実践とつながった。

業務管理は人員不足により遅番体制維持が困難となったが、夜間看護補助者の導入により、一部業務の委譲ができた。

コロナ禍の感染対策として休憩場所や時間の変更などを実施した。

### 次年度課題

1. 療養環境を多職種協働で整える
2. 患者のセルフケア能力向上につながる実践
3. 看護補助者と共同し看護業務を見直す

## 7階病棟

### 方針

専門性を高め患者・家族に寄り添った安心、全な看護を実践し、満足度の向上に努めます。

### 概要

病床数：50床

診療科：泌尿器科・腎リウマチ科・整形外科

担当外来：泌尿器科外来

看護体制

看護師長：山本草苗

看護主任：櫻田由紀子

看護主任代理：能登谷恵利子

看護師：27名 看護補助者：8名

学会認定資格者

腎臓病療養指導師1名

日本リウマチ財団登録リウマチ看護師1名

### 活動報告

入院数860名 バイオ入院数347名

手術件数 249件

(泌尿器科94件 整形外科：159件)

泌尿器と整形外科の周術期、内科疾患との混合病棟であり、他科の緊急入院も受け入れている。様々な疾患の患者に対応できるよう部署内学習を重視し、知識、技術を向上させ専門性を発揮した看護実践に繋がった。

日勤の人員を確保し体制を充実させるため、遅番業務を見直した。また、業務改善を行い、看護補助者との協働に力を入れた。

### 次年度課題

1. 実践した看護を客観的に振り返り、学びの機会・成長に繋げる。
2. 働き続けられる職場環境を整える。

## 8 階病棟

### 方針

専門性を高め、家族に寄り添いその人らしさを支えるケアを実践し、地域へ繋がる退院支援を行います。

### 概要

病床数：50床

診療科：脳神経内科、脳神経外科、内科

看護体制

看護師長：谷村淳子

看護主任：高堰美奈子、土田真由子

看護師：31名（臨時職員2名）

看護補助者：4名

夜勤専門看護補助者：5名

### 活動報告

平均病床稼働率：95.4%

平均在院日数：38.0日

手術件数：53件

A L Sの進行に伴う呼吸機能低下による人工呼吸器装着患者が複数名入院となり、中にはコロナ禍ではあったが自宅退院へ向けた退院指導を行い、自宅退院できた事例もあった。

下垂体腫瘍に対する周術期管理について、医師と共に、情報共有し患者用のパスを作成した。安全で安心して手術を受けられ、術後回復に向けた患者管理を多職種で連携し実施することが出来た。また、脳脊髄液漏出症の患者も増加傾向にあり、入院後脳槽シンチ検査を受ける患者や、安静治療を受ける患者へ患者用パスを作成し、外来入院予約時点から活用し患者の不安の軽減に努める看護を実践できた。

### 次年度の課題

1. 受け持ち看護師が主体となり患者・家族に寄り添い、多職種と連携し退院支援の確立と看護実践を行う。
2. 脳神経疾患看護の専門性を高め、看護実践できるスタッフの育成、キャリア支援を行う。

## 9 階病棟

### 方針

主体的に学ぶスタッフ育成を行い、患者・家族に寄り添った専門性ある切れ目ない看護を提供します。

### 概要

病床数：50床

診療科：総合内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科

担当外来：糖尿病・内分泌内科

看護体制：

看護師長：佐々木ひとみ

主任：福岡優子 主任代理：荘司香織

看護師：27名、看護補助者3名、事務補助者1名

学会認定資格者：日本糖尿病療養指導士 2名

秋田県糖尿病療養指導士 2名

呼吸療養指導士 1名

### 活動報告

平均病床稼働率：92.4% 平均在院日数：

27.7日 多職種カンファレンス件数：32

2件/年 退院前カンファレンス件数：72件/年

I C L S : 2名受講 キャリアラダー：I (2名)、II (1名)、III (1名) 取得

提案型ローテーション研修：血液浄化療法部へ1名参加

・終末期看護や退院支援の充実を図り、疾患と共生する患者家族に対し多職種と協働し専門性のある切れ目のない支援を行った。

・誤嚥性肺炎や嚥下機能障害に対する安全で質の高い看護を提供するため、多職種を交えた学習会や意識づけの取り組みを行った。

・看護補助者の部署手順の見直し、夜間補助者に関する部署業務手順の作成を行った。

### 次年度課題

1. 多職種と協働し、患者・家族が望む場で安心して過ごす事ができる看護の実践。
2. 働き続けられる職場の構築。

## S 2 病棟

### 方針

患者、家族の思いに寄り添い、その人らしさを大切にす看護を実践し、患者、家族、スタッフの満足に繋げます。

### 概要

病床数: 52床 消化器センター、神経精神科、眼科、放射線科、耳鼻科、

COVID-19 陽性者専用病床、他

#### 看護体制

看護師長: 坂上千枝子

看護主任: 浅利彩子

看護主任代理: 田口香世子

看護師数: 25名 看護補助者: 2名

ICLS認定インストラクター: 3名

介護支援専門員: 1名

### 活動報告

- ・平均在院日数 18.63日
- ・病床利用率 11.74%
- ・クリニカルラダーⅠ 8名、Ⅱ 4名、Ⅲ 10名取得

5月より新型コロナウイルス感染症重点医療機関となり、新型コロナウイルス感染症とその疑似症を専用病床で受け入れている。閉鎖された環境で、不安を抱え治療を受ける患者に寄り添い、真摯に向き合う看護を実践した。看護職員も先の見えない不安を抱えていたが、混乱を乗り越えチームワークを高めることに尽力した。

### 次年度課題

1. 新興感染症患者に寄り添い、さらに学習を深めるとともに、予測不可能な感染動向にも柔軟に対応し地域医療を支える。
2. 長期化するコロナ禍にあって、職員の健康を守り、互いを大事にする職場環境を目指して成長したい。

## S 3 病棟

### 方針

‘家に帰りたい’患者さんの思いに寄り添い、退院後の生活を見据えた在宅復帰支援を行いながら、「ときどき入院、ほぼ在宅」を支えていきます。

### 概要

病床数 52床

診療科: 全診療科 (小児科・産科を除く)

#### 看護体制

看護師長: 三浦千草

看護主任: 工藤牧子、宮田真由子

看護師: 22名 看護補助者 9名

#### 学会認定資格者

認知症看護認定看護師: 仲野谷美貴子

### 活動報告

病床稼働率 86.0%

平均在院日数 17.6日

在宅復帰率 90.1%

重症度、医療看護必要度 14.6%

リハビリテーション1日平均 2.0単位

バーセルインデックス機能回復率 78.5%

退院前カンファレンス開催件数 240件

1. 退院後も住み慣れた自宅で暮らしたいという患者の思いを具現化するためのカンファレンスを多職種と協働して行った。
2. 地域からの直接入院を受け入れ、一般病棟からの転棟割合6割未満を堅持した。
3. 事例交流やカンファレンスを通し看護の振り返りと意味づけを行い、達成感とやりがいに繋がった。

### 次年度課題

1. 暮らしや生活を具体的にイメージできる創造力とアセスメント力を育成する。
2. 地域でその人らしい暮らしを支えるための看護援助と退院支援を継続し、多職種と協働しながら「ときどき入院、ほぼ在宅」を支えていく。

## 手術室

### 方針

周術期の患者特性に応じた手術看護ケアを実践します

### 概要

手術室8室（内ハイブリッド手術室1室）

診療科：整形外科、消化器外科、心臓血管外科、産婦人科、乳腺内分泌科、眼科、脳神経外科、胸部外科、泌尿器科、耳鼻科、小児科、循環器科

看護体制：チーム診療科別

看護師長：原田留里子 看護主任：畠山貴美子  
主任代理：戸嶋優

看護師：26名 看護補助者：3名

学会認定資格者：周術期管理チーム認定看護師・手術看護認定看護師1名、皮膚排泄ケア認定看護師1名

2種滅菌技師1名

ICLS認定インストラクター2名

### 活動報告

手術件数 2,714件

緊急 155件（11.1%）

全麻件数 1,396件（51.4%）

今年度も周術期の適切な看護介入に取り組み、術前訪問対象者に100%実施した。術後訪問率は65.4%であった。術中看護の評価を行うことで看護の質向上に繋げるため、今後も取り組んでいきたい。看護記録監査、評価を行い記録の標準化と質向上に繋がった。ハイブリット室ではコロナ対応のため医師、放射線科、CE、感染制御部と協働しシミュレーションとマニュアルを作成した。

### 次年度課題

1. 専門性を高め、安全、安心な質の高い手術室看護の提供
2. 手術決定時からの術前ケア外来における手術看護認定看護師との協働と患者、家族支援の実施

## 集中治療部

### 方針

生命・看護ケア・情報を繋ぎ回復過程に寄り添ったICU看護を実践します。

### 概要

病床数：8床（個室5床・オープンフロア3床）

看護配置：2対1 特定集中治療室管理料3

診療科：全診療科 担当外来：CT、MRI

看護体制：看護師24名

看護師長：佐々木聖子

看護主任：高橋ひとみ 主任代理：澤木睦子

集中ケア認定看護師1名

学会認定資格者：呼吸療法認定看護師6名

臨床輸血看護師2名

ICLS認定インストラクター3名

### 活動報告

稼働率66.8% 在院日数10.6日

手術件数29人/月 看護必要度81.8%

入院時から社会復帰を見据えた医療・看護の提供を目標に、挿管患者早期離床プログラムの見直しと実践、無気肺予防パンフレットの作成と患者指導、せん妄評価と予防・改善ケアを行った。挿管後48時間以内にリハビリを開始したことで機能低下を防ぎ、抜管、転出へ繋げることができた。無気肺予防パンフレットを完成させ、緊急手術後の患者に使用できた。せん妄評価では入室患者の約6割がせん妄と診断されたが、適切なケアの提供によりデバイスの自己抜去件数を減らすことができた。朝、夕のカンファレンスで理学療法士、管理栄養士と患者情報を共有することで、タイムリーなチーム医療の提供が可能となり、患者の療養環境の充実と治癒促進につながった。

### 次年度課題

1. ICU入室患者が安心して療養できる環境整備と二次的合併症の予防
2. キャリア支援の強化と働き続けられる教育システムの構築

## 救急総合診療部

### 方針

1. EBNに基づいた救急看護の実践と、主体的に学び合える職場風土を醸成し、専門性の向上に努めます。
2. SDHの視点と倫理的感性を養いながら、患者の生命と暮らしを支えることができるよう多職種と協働した看護を実践します。

### 概要

救急外来：乳幼児から高齢者まで全診療科対象

救急病棟：病床数8床

看護体制

看護師長：佐藤稔 看護主任：伊藤由紀子

看護主任代理：佐藤玲希 看護師：25名

認定資格者等

救急看護認定看護師1名

ICLS認定インストラクター6名

JTASプロバイダーコース修了者12名

トリアージナースコース修了者3名

JNTECプロバイダーコース修了者3名

DMAT隊員3名

### 活動報告

1. 新型コロナウイルス流行の影響により、各研修が中止となっているが看護職員主体で学習会を開催し学びを深めた。トリアージの二次検証を定期的に開催し質の向上に努めた。救急外来での看護記録の充実を図り、運用を開始した。
2. 早期介入事例をキャッチし、MSWに情報提供し連携を図りながら対応することができた。全スタッフが看護実践報告に取り組み、事例を振り返った。
3. 新型コロナウイルス感染予防対策に関しては感染状況を鑑みながら対応し、個々の意識の定着を図った。

### 次年度課題

外傷や災害分野・トリアージ・感染対策など専門性を強化し、EBNに基づいた救急医療を実践できるよう人材育成に努める。早期から多職種と連携した介入を行い、患者の生命や生活を支え地域と繋がる救急看護に取り組む。

## 血液浄化療法部

### 方針

安全で質の高いチーム医療を実践できる体制づくりと人材育成を全スタッフで取り組みます。

### 概要

ベッド数32床、日中透析

看護体制

看護師長：小野絵美、看護主任：鈴木由美子

看護師11名、看護補助者1名

有資格者

透析看護認定看護師、CAPD認定指導看護師、腎臓病療養指導士：小野絵美

### 活動報告

外来透析患者実数46.3名/月、透析件数8,479件、導入件数26件/年、入院透析患者実数135件/年

1. 透析合併症によってADLが低下した患者やシャント作成困難のため長期留置カテーテルを留置し、自宅退院する患者の療養生活支援を多職種と協働し行った。また、認知機能低下のある患者へのケアについて、地域のスタッフと連携した継続支援に取り組んだ。
2. 新人と2年目看護師の年間育成計画を教育担当主任とチームリーダーが協同で作成し、育成会議で評価、修正しながら、チーム支援型で育成に取り組んだ。

### 次年度課題

1. 多様な働き方の支援を継続し、透析経験年数が浅い看護師や若手看護師数が半数となることから看護実践能力を向上させ、将来的に腎不全看護領域を担う人材の育成が課題である。
2. 病院機能評価更新に向け、電子カルテ上の医師指示・指示受け・実施入力など情報伝達の一元化の整備が課題である。又、患者満足度調査の結果から、環境整備や業務改善で質の向上を目指す。
3. 維持透析患者への運動療法を提供し、透析合併症の予防

# 部 門 概 要

### 方針

- ・会計、経理、施設基準届出、文書管理、各種統計作成等において、正確かつ迅速に事務処理を行う。
- ・法令を遵守し適切な職員情報管理、職員健康管理を行う。
- ・患者さんの療養環境及び職員の労働環境向上のため、病院内、敷地内の環境整備に努める。

### 概要

庶務係 9名

- ・職員の就業に関すること
- ・金銭の出納その他会計に関すること
- ・文書收受、発送、保管に関すること
- ・病院の施設基準届出に関すること
- ・病院の計数管理に関すること
- ・病院の全般的環境整備に関すること
- ・病院車の運行および保守管理に関すること
- ・病院年報に関すること
- ・廃棄物に関すること

友の会係 1名

- ・病院の「友の会」に関すること

### 活動報告

- ・年間を通じて、各種事務処理を遅滞なく行った。
- ・病院の環境整備については、夏季は敷地内のゴミ拾いや草刈りを定期的実施し環境美化に努めた。冬季は正面玄関にストーブを設置し、職員入口や職員駐車場等の雪寄せを実施した。
- ・職員健康管理については、健康診断を年2回(8月、2月)実施し、HBワクチン、インフルエンザワクチン、MRワクチン、風疹ワクチン、水痘ワクチン、新型コロナワクチンの接種を実施した。

- ・消防計画に基づき6月に新入職員対象の火災避難訓練を実施し48人が参加した。
- ・10月と2月にのべ57人が来院した献血車の献血に協力した。
- ・救急車、患者搬送車等の病院車輛を事故なく運行した。
- ・勤怠管理システムの入力データチェック支援を毎月行った。
- ・「2020年度病院年報」を発行した。
- ・新型コロナウイルス感染症に関する行政との連絡や補助金請求処理を行った。

### 次年度課題

- ・施設基準管理システムを導入し、業務の効率化を図る。
- ・総合防災訓練を実施する。
- ・院外保管書類の確認と廃棄、院内保管書類の整理と廃棄を行う。
- ・病院敷地内の緑地について、除草管理が容易になるような対策を講じる。
- ・新型コロナウイルス感染症に対応した各種事務処理を迅速に行う。

### 方針

- ・患者さんが安心して診療を受けることができるよう、受付・会計等の業務において患者サービスの向上を図る。
- ・医師をはじめ多職種との連携を深め、的確な診療報酬の請求を行う。
- ・診療報酬の査定防止、請求漏れの対策等、病院収入の確保に努める。
- ・迅速に診療報酬改定に対応し、院内へ情報提供を行う。

### 概要

#### 外来 33名

- ・外来診療受付に関する事
- ・外来診療の会計に関する事
- ・外来患者の診療報酬請求書の作成及び事務に関する事
- ・外来統計の作成に関する事
- ・外来レセプト点検に関する事
- ・外来紙カルテ管理に関する事
- ・外来患者の未収金管理に関する事
- ・各種文書、診断書に関する事
- ・外来予約変更に関する事

#### 入院 14名(うち診療情報管理士4名)

- ・入院診療の会計に関する事
- ・DPC関連業務に関する事
- ・入院患者の診療報酬請求書の作成及び事務に関する事
- ・統計の作成に関する事
- ・入院レセプトに関する事
- ・入院患者の未収金管理に関する事

### 活動報告

- ・各種会議等で返戻査定状況について説明し情報

提供を行った。

- ・年間を通じて正確かつ迅速に会計業務を行うよう努めた。
- ・レセプトチェックソフトを活用し査定防止に努めた。
- ・医療事務実習生を受け入れた。
- ・患者サービスの一環として、県外の妊婦健診事業の委託契約を締結した。
- ・診療報酬に関する院内説明会、講習会を開催した。
- ・増収対策として医局員を中心に医学管理料や各種加算について個別具体的に案内や通知を行い算定件数増加を促した。
- ・部署内で学習会や申し合わせを随時行い、統一した事務対応ができるよう努めた。

### 次年度課題

- ・診療報酬改定への対応。
- ・正確な会計業務の遂行と更なる精度向上。
- ・会計待ち時間の短縮。
- ・診療報酬に関する知識向上。
- ・適切なDPCコーディングのための医学的知識の向上。
- ・次世代を見据えた人材確保及び育成。
- ・多職種との連携強化。
- ・院外倉庫を含めた紙カルテの整理。
- ・自動受付機、自動精算機の導入。
- ・受付周辺動線の整備。
- ・業務整理と超勤の削減。



## 施設課

### 方針

- ・病院の建物、設備等が正常に機能するように維持管理する。

### 概要

有資格者：電気技術者 3名

- ・病院の建物、設備等の点検・保守・補修に関すること。
- ・施設管理に関すること。

### 活動報告

- ・各設備の保守点検・年次点検・定期検査を行った。
- ・老朽化した設備を更新・改修した。
  - 排水ポンプ更新
  - エアコンの更新
- ・各設備の不具合対応、部品交換を行なった。
- ・省エネルギーを実践した。
  - 熱源機器を省エネ運転
- ・発熱外来に伴う、エアコン新設工事を行った。

### 次年度課題

- ・設備の更新と改修
  - エアコン更新・整備
  - 排水ポンプ更新
  - 西棟揚水ポンプ更新
- ・省エネルギーに関すること
  - LED照明化
  - 二重サッシ化

## 用度課

### 方針

- ・発注、納品、検品、払出を効率的に行う。
- ・迅速かつ正確な事務処理に努める。
- ・適正な在庫管理に努める。
- ・支出の削減に努める。

### 概要

職員 3名

- ・発注、納品、検品、払出に関すること
- ・他院所の薬品発注に関すること
- ・納品データに関すること
- ・価格交渉に関すること
- ・物品の在庫管理に関すること
- ・診療材料、消耗品の棚卸に関すること
- ・医療材料等の使用状況調査に関すること
- ・医療機器、備品の修理に関すること
- ・診療材料、医療機器、備品の廃棄に関すること
- ・診療材料の償還価格改定に関すること
- ・薬価改定に関すること

### 活動報告

- ・日常業務は、遅滞することなく、迅速かつ正確に行なった。
- ・棚卸は年2回（9月末・3月末）実施した。廃棄資産はなく、各職場の協力もあり、適正な在庫管理を行うことができた。
- ・制服の定期貸与は、9月（看護衣・ナースシューズ）、1月（女性事務職員用ブラウス）、2月（ナースシューズ）に実施した。

### 次年度課題

- ・共同購入における診療材料等の規格品への切り替えの実施。
- ・ベンチマークを活用した診療材料の納入価格の

引き下げ。

- ・償還価格改定に伴う診療材料の価格交渉。
- ・薬価改定に伴う医薬品の価格交渉。

## 方針

- ・医師事務作業補助者体制加算（15対1）を維持し、診療応援医師も含め、当院に勤務する医師の負担軽減となるよう、広範囲な医師事務作業補助業務を行う。
- ・医局秘書係においては、医師のスケジュール管理および医局内や各当直室の環境整備、医学図書管理に努める。

## 概要

職員 37名

### ・クラーク係

外来クラーク・入院証明書等代行作成・乳腺  
内分泌外科外来予約問診・症例登録（NCD  
登録・JND登録・JOANR登録・救急車  
搬送患者統計等）・公的文書代行作成係

血液浄化療法部係 35名

### ・医局秘書係 3名

## 活動報告

- ・年間を通じて、各医師事務作業補助業務を遅滞なく行った。
- ・外来クラーク業務においては、各課の担当者の複数配置を進めた。半日パート勤務者の採用を進め内科系診療科外来の代行入力を拡充した。
- ・クラークの体制を厚くし、医師事務作業補助体制加算（15対1）を維持した。
- ・医局秘書においては、医師の採用、退職、休職等に伴うスケジュール調整と、医局内や各当直室の環境整備に努めた。
- ・NCD業務においては、加入学会が増加と対象症例の増加に対応した。
- ・JND業務については、脳神経外科領域における診療内容を全て登録した。

- ・ J O A N R（整形外科学会）に加え、J S I S - D B（脊椎、腰椎ヘルニア等）の登録を開始した。
- ・ 電子カルテシステムを活用した業務改善を行った。
- ・ 他業務については、各担当で業務改善を進めた。

#### 次年度課題

- ・ 研修会等を開催し、課全体のスキルアップを図る。
- ・ 外来代行入力クラーク等、各担当のスペシャリストを育成する。
- ・ 業務の負荷を分散できる体制作りを行う。
- ・ 代行クラーク配置科の拡充、および外来文書の医事課からの業務移管を行う。

#### 方針

- ・ 医療情報システムの安全管理に係るガイドラインを遵守し、システムの安全性を担保しながら、安定稼働を実現する。
- ・ 診療情報を体系的、一元的に保管、管理し職種間で相互に情報共有できるようにする。
- ・ 退院時要約情報等の適切な収集、把握と目的に合わせた的確な情報処理を実施する。

#### 概要

システム担当 5名

病歴担当 4名

- ・ 診療情報、記録の管理に関すること
- ・ 院内がん登録に関すること
- ・ D P C 分析に関すること
- ・ 診療に関わる統計・調査に関すること
- ・ 電算システムの運用支援に関すること

#### 有資格

- ・ 医療情報技師 1名
- ・ 診療情報管理士 2名
- ・ 院内がん登録実務初級認定者 2名

#### 活動報告

- ・ 年間を通じて、ガイドラインを遵守しシステムの安全性を担保しながら、安定稼働に努めるとともに、診療記録の保管を適切に行い、情報出力及び紙カルテ等の貸出依頼に対し迅速に対応した。
- ・ 専門学校からの実習生を受け入れた。
- ・ 院内がん登録の症例（原発性のがんについての情報）登録及び届け出を適正に実施するとともに、院内がん登録2019年症例Q I 研究に参加しデータ提供を実施した。

## 院内こども園

- ・年間28件の診療情報開示請求があり、開示を行った。
- ・経営課題分析・解決支援システムを導入し、医療内容の分析を行い、各診療科へフィードバックした。

### 次年度課題

- ・医療分野における様々なIT技術の活用について検討し、業務効率の向上を図る。
- ・DPCデータを活用して医療内容を分析し標準的な医療に繋げるとともに、経営改善対策を実施し増収に結びつける。
- ・退院所要約14日以内作成率を維持し、7日以内作成率を向上させる。
- ・診療情報管理士、がん登録実務者を育成する。
- ・診療記録の保管期間と保管方法を見直し、院内外各倉庫の整理を進める。

### 施設紹介

職員の仕事と家庭の両立を支援するとともに、働きやすい環境の整備を目的とした事業所内保育所です。2007年10月に開所し、県内の院内保育所としては初となる24時間365日保育を実践しています。

### 特 色

他の保育施設を利用するお子さんの夜間や休日のみお預かりや、保育所内での授乳の要望など、様々なニーズに対応しています。また、中通総合病院の医師や各医療チームの協力のもと、園児のアレルギーへの対応や園内の感染防止対策などに取り組んでいます。

### 定 員

乳児（1歳未満）	6人
幼児（1歳～就学前）	18人

### 施設

保育室	1室
乳児室	1室
屋上プレイエリア	1か所

### 人員体制

保育士	常勤10名、非常勤1名
保育補助者	常勤1名

### 実 績

在籍人数	30人（うち、他の保育施設との併用6人）	2022.3.31現在
24時間保育実施回数	71回	
休日保育実施回数	71回	

## 病児保育室

### 今後の取り組み

外部研修への積極的な参加により保育士の育成や資質向上を目指します。また、園内の設備や行事等を充実させ、保育環境の向上に努めます。

### 施設紹介

施設は秋田市の委託事業であり、地域の保護者の方々の仕事と家庭の両立の支援を目的に、2014年10月に開設した。

生後8週の乳児から小学校6年生までの児童を対象に、小児科医師の管理のもと、専任の看護師と保育士が、病気やけがの子を預かっている。

### 特 色

小児科医師による毎日1回の回診のほか、パルスオキシメーター等の機器を整備し、患児の状態を管理している。急変時には、小児科外来、救急外来、小児科病棟と連携しながら対応している。

また、流行する感染症への対応について、市内の各保育施設への情報発信や学習会等を行っている。

### 施 設

保育室	1室
隔離保育室	1室

### 人員体制

看護師	1名
保育士	2名

### 実 績

利用登録者数	1, 111人
(2021年度新規登録者)	73人)
延べ利用者数	3, 529人
(2021年度延利用者数)	476人)

### 今後の取り組み

利用手続きの簡略化や各種アメニティの充実を図り、利用者の利便性の向上を目指す。

## 委員会・チーム概要

## 衛生委員会

### 目的

安全衛生管理活動の円滑な推進を図ること。

### 構成

産業医、医師(衛生管理者)、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務員(衛生工学衛生管理者)

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. 針刺し・切創事故発生状況調査 (毎月)
2. 労災発生状況調査 (毎月)
3. 感染性廃棄物排出量調査 (毎月)
4. メンタルヘルスケアチーム活動
5. 各種ワクチン接種
  - ・MR、風疹、水痘のワクチン接種を実施した。(9月、10月)
  - ・インフルエンザワクチン接種を実施した。(11月)
  - ・HBワクチン接種を実施した。(6月、7月、12月)
  - ・新型コロナワクチン接種を実施した。(4月、8月、1月、2月)
5. 職員健診 (8月、2月)
  - ・職員に受診を促し、いずれも受診率100%を達成した。
6. ストレスチェック (1月)
  - ・高ストレスと判定された職員のうち希望者は産業医と面談を実施した。

## 医療安全管理委員会

### 目的

医療事故を防止し、安全な医療体制を確率していくこと。

### 構成

医療安全管理部長、副院長、医療機器安全管理責任者、医薬品安全管理責任者(薬剤部長)、医療安全管理者(看護師)、副看護部長、事務次長、医師、看護師、臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士、事務員

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. 薬剤部報告
2. コンサルテーションレポート集計及び分析結果報告
3. 全死亡事例スクリーニング
  - ・1次スクリーニング (42回)
  - ・2次スクリーニング (12回)
4. 事例検討
  - ・患者安全カンファレンス (12回)  
事故分析と改善策の検討
5. 医療安全に関する教育及び研修の企画・運営
  - ・研修医対象医療安全講習会
  - ・医療安全推進担当者研修会
  - ・新入職員・中途採用者・看護補助者・委託業者対象医療安全オリエンテーションPart 1
  - ・全職員対象BLS研修会
  - ・新入職員・中途採用者対象医療安全オリエンテーションPart 2
  - ・患者安全セミナー
  - 講演「アドバンス・ケア・プランニング(A

CP)と終末期医療」

- ・患者医薬品安全セミナー  
講演「新型コロナウイルス感染症治療薬の安全性について～経口抗コロナウイルス薬（軽度～中等症I）編～」

6. 業務改善
7. 医療安全マニュアル改訂
8. 医療安全情報通信発行
9. 医療安全相互チェック  
秋田赤十字病院・御野場病院との連携

### 次年度課題

- ・ノンテクニカルスキルを活かし、安全・安心・優しさのある医療の提供
- ・Safety-2の普及
- ・安全に関する現場力の向上を医療安全推進担当者と共に取り組む

### 目的

院内感染の防止対策および院内発生時の対応を行い、安全で質の高い患者サービスの提供を図る。

### 構成

医師、看護師、薬剤師、検査技師、施設課員、事務員

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. 感染症発生状況の調査と対策の検討（患者および職員）
2. 耐性菌検出状況の調査・分析
3. 抗菌薬使用状況調査（AUD）
4. ICT活動および感染リンク活動状況の把握
5. 院内感染マニュアルの改訂
6. サーベイランスの実施
7. 院内感染に関する教育・指導
8. 新興感染症等発生時の対策・対応
9. 院内職業感染関連事項への対応
10. 季節性感染症対策
11. 新型コロナウイルス感染症対策 等



## 栄養委員会

### 目的

栄養管理業務、給食業務の円滑な運営と充実、改善、向上を図ること。

### 構成

医師、看護師、管理栄養士、調理師、言語聴覚士、事務員

### 開催実績

4回

### 活動内容

1. 給食業務の運営・向上に関する事項について
  - ・行事食の実施報告
  - ・個人対応調査の報告
  - ・嗜好調査の報告
  - ・給食材料費の報告
2. 栄養管理業務の運営・向上に関する事項について
  - ・栄養指導件数の報告
  - ・栄養指導増加に向けて検討
  - ・栄養管理の改善について検討
3. 衛生面・施設設備に関する事項について
  - ・保健所立ち入り調査の報告
  - ・衛生管理の改善について検討

## 輸血療法委員会

### 目的

適正な輸血療法の推進と安全な輸血業務の実施を図る

### 構成

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務員

### 開催実績

6回

### 活動内容

1. 委員会報告事項
  - ・血液製剤使用及び廃棄状況報告
  - ・輸血副作用報告
  - ・廃棄血液製剤削減への取り組み
  - ・輸血後感染症検査実施率向上への取り組み
  - ・輸血療法マニュアルの見直し
  - ・血液センターからの輸血情報の周知
2. 委員会協議事項
  - ・輸血拒否時の対応についての検討
  - ・超緊急輸血時や大量出血時の運用見直し
  - ・廃棄血液の内訳確認及び削減に向けた検討

### 次年度課題

- ・輸血療法マニュアルの見直し
- ・廃棄血液の削減への取り組み

## 防火防災管理委員会

### 目的

防火防災管理業務の適正な運営を図ること。

### 構成

医師、防火管理者(事務員)、看護師、薬剤、施設課員、事務員

### 開催実績

2回

### 活動内容

#### 1. 委員会審議事項

防火・防災管理上の基本的事項について審議する。

#### 2. 防災訓練の実施

2回実施。(5月、10月)うち10月は、各職場で動画参照(タイトル「火事だ!その時あなたは大丈夫?」)を行い訓練とした。

#### 3. 災害対策マニュアルの策定

当委員会の意見を付して制定した「中通総合病院災害対策マニュアル」を各職場に周知した。

#### 4. 自衛消防隊の育成

自衛消防業務講習修了 2名。(12月、1月)

## 災害対策委員会

### 目的

大規模災害時においても救急告示病院としての機能を維持できるように必要な災害対策を実践すること。

### 構成

医師、看護師、社会福祉士、施設課員、理学療法士、事務員

### 開催実績

11回

### 活動内容

#### 1. 災害対策マニュアルの策定

各職場に災害対策マニュアルを配布した。

#### 2. アクションカードに関する事

各職場にアクションカードの作成を依頼し集約した。

### 次年度課題

- ・災害対策マニュアルの検証。
- ・アクションカードの検証。
- ・机上訓練の実施。

## 医療ガス安全管理委員会

### 目的

医療ガス（診療の用に供する酸素、麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素）を使用する際に院内に設置し、設備の安全管理を図り、患者の安全を確保する。

### 構成

医師、看護師、薬剤師、臨床工学士、医療ガス担当事務。

### 開催実績

1回

### 活動内容

1. 別途定める指針に基づいての保守点検業務
  - ・ 高圧ガス製造設備定期自主点検 2回
  - ・ 医療ガス設備保守点検 2回
  - ・ 吸引設備の消耗品交換
  - ・ 天吊型アウトレットホース交換
2. 帳簿を備え、行った保守点検について記録を作成保存した。
3. 医療ガス安全管理研修会を開催した。
  - ・ アウトレット・酸素ボンベ取扱

## 透析機器安全管理委員会

### 目的

透析液の水質浄化を中心に、透析装置および周辺機器に関し適切な管理を行うこと。

### 構成

医師2名、臨床工学技士2名、看護師3名

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. 透析機器および水処理装置の年間管理計画の立案と実施の確認を行う。
  - ①透析装置の定期的な点検を実施する。
  - ②透析用水の定期的な水質検査を実施する。
  - ③エンドトキシンを測定する。
  - ④生菌を測定する。
  - ⑤適正な洗浄消毒を実施する。
  - ⑥適正なエンドトキシン捕捉フィルター（ETRF）の交換をする。
  - ⑦オンラインHDFの実施と中止または再開の判断をする。
2. 装置のオーバーホールを実施した。
  - ①5月：日機装装置関連～計15台
  - ②12月：ニプロ装置～計1台
  - ③1月：東レ装置～計8台

### 次年度課題

1. 透析装置の導入年数で、10年を超えるものが全体の1/3以上あり、稼働率や故障率を考慮し、計画的に更新を検討する。
2. 透析装置の単一メーカー化を推進し、メンテナンスの回数や保有部品を極力最小限度に抑えられるように努める。

## 検査適正化委員会

### 目的

臨床検査課に関する業務および運営について協議、検討、指導を行い、検査室の質の向上と効率的かつ適正な運営を図ること。

### 構成

検査部長、検査科長、臨床検査課技師長、臨床検査課主任

### 開催実績

6回

### 活動内容

- ①外部精度管理の結果報告
  - ・ 日本医師会
  - ・ 日本臨床衛生検査技師会
- ②新規検査項目への対応（外注）
  - 電子カルテ、検査システムへのマスタ登録の報告
- ③新型コロナウイルスへの対応
  - 検査機器の選定や運用方法の検討
- ④FMS（SRL社）による各部門の進捗状況
  - 検査実績の報告
  - 検査機器や試薬価格見直しへの協議
- ⑤凝固採血を氷冷不要にした
- ⑥病理解剖時の培養検体を受付処理し、電子カルテで結果参照可能とした
- ⑦F I B 4 - I n d e x の導入
- ⑧院内パニック値の見直し
- ⑨H b A 1 c を 2 4 時間対応可能とした
- ⑩血算採血管の変更

## 研修管理委員会

### 目的

臨床研修の実施を統括管理すること。

### 構成

統括責任者（院長）、院外委員、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、放射線技師、検査技師、理学療法士、事務員

### 開催実績

3回

### 活動内容

1. 研修プログラム作成・検討に関する事。
2. 研修医の管理に関する事。
3. 研修医の採用・中断・修了の際の評価に関する事。
4. 研修プログラム相互間の調整に関する事。
5. 研修全体の評価、指導医評価に関する事。
6. 専門委員会、チームに関する事。
  - ・ 研修評価小委員会
  - ・ 臨床研修支援チーム

## 働き方改革推進委員会

### 目的

医療従事者の業務負担の軽減及び適正化を図ること。

### 構成

医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床工学技士、管理栄養士（調理師）、検査技師、理学療法士、事務員

### 開催実績

3回

### 活動内容

1. 地域医療体制確保加算、医療事務作業補助体制加算、急性期看護補助体制加算に関すること
2. 働き方改革推進のため現状の問題点の抽出、具体的な対策の立案、評価、見直し
3. 夜間・休日を含めた勤務状況把握の強化
4. 他職種へのタスクシフト、タスクシェアリングと特定行為看護師の育成
5. その他医療従事者の負担軽減等に必要なこと。

## 倫理委員会

### 目的

医療行為及び臨床研究上において、患者の人権が損なわれることのないように、医の倫理に関する事項の調査・審議を行うこと。

### 構成

医師、院外委員、看護師、薬剤師、事務員

### 開催実績

8回

### 活動内容

#### 1. 審査申請についての協議

- |     |      |    |          |
|-----|------|----|----------|
| 4月  | 臨床研究 | 2題 | (持ち回り開催) |
| 5月  | 臨床研究 | 1題 | (持ち回り開催) |
| 6月  | 臨床研究 | 2題 | (持ち回り開催) |
| 10月 | 臨床研究 | 1題 |          |
| 10月 | 臨床研究 | 1題 | (持ち回り開催) |
| 11月 | 臨床研究 | 1題 | (持ち回り開催) |

## 省エネルギー推進委員会

### 目的

省エネルギー活動を効果的に推進すること。

### 構成

エネルギー管理責任者(事務員)、医師、看護師、放射線技師、臨床工学技士、施設課員、事務員

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. 上下水道、電気、ガスの節減対策の実施。
  - ・節水器の管理。
  - ・院内各所の照明の間引き。
  - ・夜間の照明管理。
  - ・エレベーターの時刻による稼働制限。
  - ・職場巡視の実施。
  - ・照明のLED化。(西棟3階など)
2. 資源エネルギー省事業者クラス分け評価制度においてSクラス(優良事業者)に認定された。

## DPC委員会

### 目的

DPC業務の適正な運用を図ること。

### 構成

医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、事務員

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. DPCデータの分析。
2. 適切なコーディングのための情報提供。
3. コーディングに迷った事例の検証。
4. クリニカルパスの検証。

### 次年度課題

- ・診療報酬改定への対応。
- ・クリニカルパスの電子化を検討。
- ・データ分析の内容、方法の見直し。

## 病診連携委員会

### 目 的

地域の医療機関および福祉施設相互との密接な連携をすすめ、地域医療の充実発展に寄与すること。

### 構成

医師（5名）、看護師（4名）、社会福祉士（1名）、事務員（6名）

### 開催実績

12回

### 活動内容

- ・地域の医療機関および福祉施設との連携の推進
- ・検査設備の運営
- ・卯月の会、公開MC、その他研究会の開催
- ・卯月だよりの編集発行
- ・地域医療連携業務に関する諮問、助言、支援

## 救急医療委員会

### 目 的

救急隊を始めとする行政及び他の医療機関との救急業務並びに当院における救急医療に関する諸事項について審議し、救急医療の円滑な運営を図ること。

### 構 成

医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、事務員

### 活動内容

1. 秋田市周辺救急隊との合同カンファランス  
→新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。代わりに、秋田市消防本部と救急診療部との意見交換会を実施。
2. 救急救命士、消防隊員の実習受け入れ

## 化学療法委員会

### 目的

がん化学療法を受ける患者さんへの安全性と有効性を確保し、抗がん剤の適正使用を推進する。

### 構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務員

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. 月毎の入院、及び外来化学療法実施件数や中止理由などを集計し、報告した。
2. 新規レジメンについて審査し、承認された5レジメンをレジメン登録した。
3. 登録済レジメンに関して、点滴時間や輸液の変更について審査し、承認した。
4. 化学療法に関するインシデント事例に関して分析し、再発防止策を講じた。
5. 外来化学療法室の運用について問題がないか検討し、外来化学療法が安全に実施できるよう努めた。
6. 化学療法記録が参照やすくなるよう検討し、電子カルテの設定を変更した。
7. 連携充実加算の施設基準の届け出に向けて準備した。

## 患者サービス改善委員会

### 目的

患者サービスや患者接遇の改善に向けた取り組みを推進する。

### 構成

医師、看護師、検査技師、放射線技師、事務員

### 開催実績

2回

### 活動内容

1. 患者満足度調査の実施（11月）
2. 投書箱の設置
3. 患者相談窓口の設置
4. 投書、患者相談等への対応
5. 患者相談報告書の作成
6. 職員の接遇に関する指導
7. 患者の利便性、快適性の向上に関する検討
8. 情報の共有、原因分析、改善策の検討



## 褥瘡対策委員会

### 目的

院内褥瘡対策を討議・検討しその効率的な推進をはかること。

### 構成

医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務員

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. 褥瘡発生の実態調査。
2. 院内発生事例の情報共有。
3. 褥瘡対策機器の管理。
4. 症例発表。
5. 褥瘡関連報告書の記入方法を周知。
6. 保有エアマットの一部レンタル化。

## 虐待対策委員会

### 目的

医療現場で虐待被害を早期に発見し、対応方針を明らかにし、さらに関係機関との連携を密にし、医療機関の立場から患者等の権利・人権を保護すること。

また、委員会に小委員会として産科虐待対策チームを設置し、産婦人科医もしくは助産師の依頼により、委員長の判断により支援を行う。

### 構成

医師、看護師、社会福祉士、事務員

### 開催実績

定期開催 2回  
臨時開催 1回

### 活動内容

1. 定期開催は、毎年7月と1月とし、緊急かつデリケートな案件のみ臨時開催とした。
2. 上期（1月～6月）の相談事例  
高齢者1件、配偶者1件、特定妊婦、要支援妊婦2件  
計4件
3. 下期（7月～12月）の相談事例  
児童1件  
計1件
4. 産科虐待対策チーム関連  
小委員会は開催されなかった。

## 診療記録管理委員会

### 目的

診療録および診療録に関わる記録の適正な管理に努め、病院の診療機能の向上に貢献すること。

### 構成

医師、看護師、事務員

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. 診療記録の様式追加・変更の審査。
2. 診療記録の保管年数、保管方法、保管場所の検討。
3. 診療録の監査。
4. 退院時要約記載状況の確認と指導。
5. 初期研修医の記載した記録に対する指導医の承認の確認と指導。

### 次年度課題

- ・各種診療記録の整理。
- ・外来紙カルテの保管方法と廃棄についての検討。
- ・定期的な診療録監査の実施。
- ・各種規程類の見直しと改定。

## 放射線安全委員会

### 目的

放射線治療室の安全管理に関する事項、放射線障害防止に関する規定等の制定及び改廃に関する事項、中通総合病院の放射線施設、設備並びに業務上の放射線障害発生防止に関する事項（外部企業のメンテナンス担当者も含む）を審議する。

### 構成

放射線取扱主任者、医師、看護師、放射線技師、事務員

### 開催実績

1回

### 活動内容

放射線管理状況の報告。

- ・1年間の放射線発生装置の使用状況の確認
- ・放射線発生装置の点検（定期点検）の実施
- ・放射線施設等の点検（自主点検）の実施
- ・放射線施設の漏洩線量測定の実施（年2回）
- ・放射線治療における放射線業務従事者の被ばく線量測定の実施
- ・放射線治療における放射線業務従事者及び外部企業のメンテナンス担当者の健康診断の実施
- ・放射線治療における放射線業務従事者及び外部企業のメンテナンス担当者の教育・訓練の実施
- ・放射線取扱主任者講習への受講（3年以内に1回）
- ・放射線障害防止に関する法令等の講習会への受講
- ・放射線障害防止法に関する法令等の法令の情報収集及び改正への対応

- ・定期検査・定期確認への対応（5年以内に1回）
- ・立入検査への対応
- ・施設検査への対応
- ・放射線施設の災害時の点検の実施
- ・放射線管理状況報告書の作成及び原子力規制委員会への報告
- ・災害時の原子力規制委員会への報告

### 目 的

診療用放射線の安全利用に係る管理を行う。

### 構 成

医師、看護師、放射線技師、事務員

### 開催実績

定期開催 1回

### 活動内容

1. 放射線診療のプロトコール管理に関すること
2. 被ばく線量管理に関すること
3. 放射線の過剰被ばくその他の放射線診療に関する事例発生時の対応に関すること
4. 診療用放射線の安全利用のための指針の見直し

## 禁忌薬品登録検討委員会

### 目的

適正な禁忌薬品の取り扱いと患者に対する禁忌薬品の誤投与防止に努める。

### 構成

医師、薬剤師、事務員

### 開催実績

4回

### 活動内容

1. 特定薬品を禁忌薬品として取り扱う事の妥当性を検討する。
2. 電子カルテシステムのアラート機能を使用した誤投与防止対策（電子カルテシステムへの禁忌薬品の登録等）を実施する。
3. その他、禁忌薬品登録に関する諸事項について検討、実施する。

## 地域包括ケア病棟運営委員会

### 目的

地域包括ケア病棟入院患者の療養に関わる事項、在宅復帰にむけたリハビリテーションや退院支援に関わる事項等について審議し、病棟の円滑な運用を図る。

地域包括ケア病棟入院料の施設基準を満たす運用を行う。

### 構成

医師、看護師、理学療法士、社会福祉士、事務員

### 開催実績

8回

### 活動内容

1. 地域包括ケア病棟の運用方針の決定、運用基準の策定を行う。
2. 円滑な病棟運用と有効活用のため、職員への情報提供を行う。
3. 病棟看護師長、医事課、リハビリテーション部で共同し、転棟対象患者を選定する。
4. 地域の開業医や外来患者へレスパイト入院等の周知を行う。
5. リハビリテーションの提供、退院支援等に関わる問題事項について対策を検討し実践する。
6. 科別患者数や入棟経路、疾患別退院数等をモニタリングし、患者数の分析を行う。
7. 施設基準維持のため、各要件項目の管理を行い、必要な対策を講じる。

## 病院機能評価・業務改善委員会

### 目的

日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し病院全体の医療の質向上を図る。

### 構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務員

### 開催実績

2回

### 活動内容

- ・受審に向けた改善活動の統括  
スケジュール立案、現状把握、課題抽出、改善方針の検討、改善の実施、評価 等
- ・受審に向けた事前準備  
受審受け入れ可能日登録、自己評価票・病院資料作成、全職員向け受審概要説明（医局MC）
- ・病院機能評価認定履歴（種別：一般病院）  
2006年10月 バージョン4.0  
2012年2月 バージョン6.0  
2017年1月 3rdG:Ver. 1.1

### 次年度課題

- ・自己評価票B評価5項目の改善活動
- ・現況調査票の作成・提出
- ・委員会開催（4月、5月、6月、7月、8月）
- ・模擬ケアプロセス調査の実施
- ・中間的な結果報告と審査結果通知に基づく受審総括、改善活動開始

## 内科専門研修プログラム管理委員会

### 目的

中通総合病院における内科専門研修を統括管理すること。

### 構成

医師、事務員

### 開催実績

1回

### 活動内容

1. プログラムの作成及び改善に関すること。
2. 連携施設との調整に関すること。
3. 専攻医及び指導医の管理と支援に関すること。
4. 専攻医の採用、中断、修了認定の評価に関すること。
5. プログラム全体の評価、管理に関すること。
6. その他、内科専門研修に関すること。

## 医療情報システム管理委員会

### 目的

医療情報システムの安全性と質の向上、情報の共有化によるチーム医療の推進、法人の医療活動・経営管理の向上に寄与する。

### 構成

医師、看護師、放射線技師、事務員

### 開催実績

2回

### 活動内容

1. 医療情報システム利用規則の改訂
2. 電子カルテ運用課題への対応
3. オンライン資格認証等システム対応
4. 診療報酬改定に伴うバージョンアップ対応

## 教育委員会

### 目的

職員の教育・研修を推進する。

### 構成

医師、看護師、技術系職員、事務員

### 開催実績

1回

### 活動内容

- ・2020年度開催の全職員対象学習会の開催内容を確認した。
- ・2021年度開催予定の全職員対象学習会の開催計画を確認した。

## メンタルヘルスケアチーム

### 目的

衛生委員会に属するチームとして職員のメンタルヘルスをサポートすること。

### 構成

医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、事務員

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. 職員のメンタルヘルスケアに係る相談への対応を行った。
2. メンタルヘルスで休職している職員の職場復帰および再燃・再発防止のための支援を行った。

## 感染制御チーム（ICT）

### 目的

感染制御部の指揮・指導の下、院内感染対策の強化・充実に図り、迅速かつ機動的に対応すること。

感染制御部の指揮・指導の下、院内感染対策を実施する。多職種が集まり、横断的に病院全体の感染対策活動に従事する。

### 構成

医師、感染管理認定看護師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、事務員

### 開催実績

- ・定例カンファレンス 12回/年
- ・院内ラウンド 1回/週

### 活動内容

1. 年間感染制御計画の作成と実施
2. 院内および地域内感染発生状況の把握およびその対応とサーベイランスの実施
3. 院内感染防止マニュアルの作成および改定
4. 院内ラウンドの実施（週1回）と感染対策の遵守状況の評価
5. アウトブレイクの確認と早期制圧
6. 院内感染防止のため研修会企画および運営（年2回以上）
7. 感染対策通信の発行（2～3ヶ月に1回）
8. 感染リンクメンバーの教育・指導
9. 感染管理に関するコンサルテーションの実施
10. 職業感染防止対策の実施
11. 新型コロナウイルス感染症対策・・・等

## 栄養サポートチーム（NST）

### 目的

栄養障害を生じている患者又は栄養障害を生じるリスクの高い患者に対し、適切な栄養管理を提案実施することにより、治療効果の向上、合併症の予防に寄与すること、及び栄養管理の重要性を広く院内に啓蒙すること。

### 構成

医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、検査技師、言語聴覚士、歯科衛生士、事務員

### 開催実績

- ・カンファレンス・回診 178件（週1回）
- ・会議 12回
- ・リンク会議 9回
- ・全職員対象学習会 1回  
「体重測定って大事なの？」  
堀川砂織看護師

### 活動内容

1. カンファレンス・回診の実施
2. リンクメンバーの教育・指導
3. 摂食機能療法を行い評価表の入力・送信の実施
4. 体重測定の啓発（ストレッチャー用体重計の購入・設置・運用方法等を整備）
5. ICU早期栄養介入のサポート（NSTカンファレンスで介入、診療報酬改定の確認）
6. NST専任医師1名増員。
7. 日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST実施施設」として認定。

## ICLSチーム

### 目的

心肺蘇生技術と蘇生現場でのチーム医療の習得を図る。

### 構成

医師、看護師、事務員

### 活動内容

ICLS講習会の開催 2回

### 次年度課題

蘇生トレーニング機器等の更新を検討。



## 緩和ケアチーム

### 目的

悪性腫瘍患者の患者を中心に、病気と治療によって生じる肉体的、精神的苦痛の緩和及び患者家族に対するケアを行う。

院内外での緩和ケアの啓蒙活動を行う。

### 構成

医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床心理士、社会福祉士、事務員

### 開催実績

チーム会議を年間4回、緩和ケア回診、カンファランスを年間47回開催した。

### 活動内容

1. 病棟看護師、緩和ケアチームで緩和ケア回診を実施した。
2. がん患者、非がん患者、死亡症例のカンファランスに参加した。
3. 緩和ケア研修会を秋田厚生医療センターと共催し、医師3名の参加があった。
4. 学習会の紹介など、緩和ケアの啓蒙活動を行った。
5. 秋田県緩和ケアTVカンファランスなど、秋田県緩和ケア教育部会の活動に参加した。
6. 秋田県がん診療連絡協議会 評価改善部会において、当院のがん医療の現況報告を行った。

### 次年度課題

緩和ケア提供体制を整備する。

## 臨床研修支援チーム

### 目的

臨床研修の質の向上に取り組むこと。

### 構成

医師、事務員

### 開催実績

6回

### 活動内容

1. 研修医のローテーションに関すること。
2. 研修医の具体的な研修状況の把握と指導に関すること。
3. 研修医の研修中の精神的支援に関すること。
4. 研修医の教育（オリエンテーション、プライマリケアセミナー、その他臨床研修を円滑にすすめるための教育）、評価に関すること。
5. 研修医の研修修了支援および研修修了認定評価に関すること。
6. その他臨床研修に関わる業務に関すること。

## 呼吸ケアチーム

### 目的

人工呼吸器の離脱に必要な診療を適正に行うこと。呼吸器の一般疾患についての知識の普及や啓蒙。

### 構成

医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士、事務員

### 開催実績

5回

### 活動内容

1. 医師、看護部等による学習会の企画  
今年度もコロナ禍により学習会の開催には至らなかった。
2. 2021年10月より週一回、対象患者へのラウンドを開始した。診療計画書に基づき、多職種によるチェック、呼吸器管理を行っている。

### 次年度課題

呼吸器設定においてもチームとしての情報共有が必要であり、患者さんによりよい呼吸器管理を迅速に提供するために今後検討する。

## 糖尿病診療支援チーム

### 目的

一貫した糖尿病診療及び療養指導を行う体制を構築すること。

### 構成

医師、透析看護認定看護師、糖尿病療養指導士、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、臨床検査技師、事務員

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. 糖尿病教室の開催
2. 秋田県糖尿病療養指導士（CDE-A）の育成
3. 日本糖尿病療養指導士（CDE-A）の育成
4. 糖尿病及び内分泌疾患診療の適正化についての各種検討
5. 糖尿病関連帳票類の見直し
6. 関連学会への参加

### 次年度課題

- ・糖尿病透析予防指導の再開
- ・事故血糖測定器貸出基準の作成・周知

## 心臓リハビリテーションチーム

### 目的

適切な心臓リハビリテーション（以下「心リハ」という）を提供し、疾病治療効果の向上、QOLの向上、合併症の予防に寄与する。

### 構成

医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、事務員

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. 心リハの提供
2. チーム会議の開催（月1回）
3. 心リハ対象患者についての多職種カンファレンス（毎日）
4. 心リハ指導士の後身育成
5. 各種学会、勉強会への出席及び演題発表
6. クリニカルパスの見直し
7. 卯月だより（広報誌）へ心リハ紹介記事掲載（全3回）

### 次年度課題

- ・院内ニュース発行

## 年報作成チーム

### 目的

年報の作成。

### 構成

医師、看護師、事務員

### 開催実績

1回

### 活動内容

- ・2020年病院年報を作成した。  
3月25日発行。総ページ数148ページ。発行部数220部。病院ホームページの「診療部門（診療科）のご紹介」に掲載。

## 認知症ケアチーム

### 目的

入院患者の認知症症状の悪化を予防し、身体疾患の治療が円滑に受けられるよう、評価・検討を行う。

### 構成

医師、認知症看護認定看護師、看護師、社会福祉士、作業療法士、臨床心理士、薬剤師、管理栄養士、事務員

### 開催実績

12回

### 活動内容

1. 病棟ラウンド、カンファレンス（週1回）
2. チーム会議の開催（月1回程度）
3. 院内学習会の開催（実績：「認知症ケアチーム事例集」1月4日より資料配付およびPCでの閲覧形式で開催）
4. 認知症ケアに係る備品（療養環境セット）の各病棟への配付
5. 身体抑制実施手順の見直し、身体抑制実施判断チェックシートの配付

### 次年度課題

新メンバーを募り、より一層の認知症ケアの充実を図る。また、身体抑制の実施状況を調査し、抑制期間の短縮につなげていく他、院内学習会を通じてスタッフ教育に努め、患者さんがより良い入院生活を送れることを目指した活動を行っていく。

## 抗菌薬適正使用支援ケアチーム（AST）

### 目的

感染症の治療効果を高めるため、抗菌薬適正使用を主治医へ提案し、耐性菌出現頻度を軽減させ、円滑に治療が終了すること。

### 構成

医師、薬剤師、感染制御認定看護師、臨床検査技師

### 開催実績

1回/週

### 活動内容

カンファレンスは毎週月曜日14時からの定期開催としている。主に血液培養陽性者に対する抗菌薬使用量、使用日数の評価や抗菌薬の de-escalation の推奨、広域抗菌薬の使用状況の把握及び長期使用患者への診療支援などが挙げられる。また、その他感染症に対してもモニタリングを行っており、治療が難渋している患者の場合は、病棟ラウンド後に直接主治医へ治療方針を提案することもある。

2021年度血液培養検査実績としては、全採取セット数は2,484セット、うち陽性セット数は450セット、コンタミネーション（汚染）を疑うセット数は43セットとなり、全体の約3.5%を占める。これは前年度とほぼ同じ結果となった。また、血液培養複数セット採取率は93.9%、陽性率は22.7%であった。

細菌感染症の経験的治療（初期治療）に効果的な抗菌薬の選択や感染症対策（抗菌薬の適正使用）の評価に役立てて頂くために、アンチバイオグラ

ム（ポケットサイズ版）を医局員対象に配布した。

#### 次年度課題

1. 適正な採血操作の遵守を継続的に行い、コンタミネーション（汚染）率を低下させたい。
2. 血液培養複数セット採取率の向上を維持できるよう努めていきたい。
3. 抗菌薬の効かない（薬剤耐性：Antimicrobial Resistance AMR）微生物への対策等を各職場へ発信したいと考える。

# 學術研究業績

## 糖尿病・内分泌内科

### 学会・研究会発表

1. 第64回日本糖尿病学会年次学術集会 2021年5月 金沢市 Web開催  
SGLT2阻害薬を内服中に胆嚢炎を契機に糖尿病ケトアシドーシス(DKA)を起こしたインスリン依存糖尿病の1例  
佐藤堯希 保泉学 吉田昇修 齋藤由理 佐々木勇人 田中雄一 松田 大輔
2. 第64回日本糖尿病学会年次学術集会 2021年5月 金沢市 Web開催  
当院でのIDegLira54例の使用経験(第1報)  
松田大輔 保泉学 阿部咲子 田近武伸 菅原由美
3. 第64回日本糖尿病学会年次学術集会 2021年5月 金沢市 Web開催  
糖尿病性ケトアシドーシス(DKA)で高齢発症した急性発症1B型糖尿病(T1B)  
吉田昇修 保泉学 松田大輔
4. 第32回臨床内分泌UPDATE 2021年11月 大阪市 Hybrid開催  
妊娠後期に発症した一過性尿崩症の1例  
本郷真伊 松田大輔 保泉学 菅沼由美 奥山慎 三浦康子 小西祥朝 利部徳子

## 整形外科

### 原著論文

1. 指屈筋腱化膿性腱鞘炎  
千馬誠悦  
今日の整形外科治療指針 pp537-538
2. ひょう疽  
千馬誠悦 今日の整形外科治療指針 pp538-539
3. 上腕骨通頸骨折後の成績不良例  
千馬誠悦 日本肘関節学会雑誌 27 (2)、37-42

### 学会発表

1. 第35回日本靴医学会学術集会 2021年9月 Web開催  
第3中足骨頭骨軟骨損傷の一例 湯浅悠介
2. 第34回日本肘関節学会学術集会 2022年2月 名古屋市  
小児上腕骨頸上骨折に対する仰臥位手術の有用性  
湯浅悠介
3. 第35回日本四肢再建・創外固定学会学術集会 2022年3月 奈良市  
両踵骨骨折を合併した右脛腓骨遠位端脆弱性骨折に対して Ilizarov 創外固定で治療した関節リウマチの1例  
湯浅悠介
4. 第118回東北整形災害外科学会 2021年6月 秋田市

膝単関節炎で発症した血清反応陰性関節炎の検討

杉村祐介

5. 第118回東北整形災害外科学会 2021年6月 秋田市

肘関節の手術後に関節リウマチと診断された1例

千馬誠悦

## 心臓血管外科

原著論文

1. Ruptured type A aortic dissection with saddle pulmonary embolism-like appearance on computed tomography angiography.

Wada T, Ohuchi S, Oyama S, Takagi D, Igarashi W, Yamamoto H.

J Card Surg. 2021; 36: 3376 - 3377.

2. Chronic contained rupture of abdominal aortic aneurysm that developed from chronic abdominal aortic dissection.

Oyama S, Ohuchi S, Arai T, Ito Y

J Vasc Surg Cases and Innovative Techniques 2021;7:280-2.

3. Calcified Aortic Wall Removal for Dysphagia Aortica Caused by Chronic Traumatic Aortic Pseudoaneurysm.

Wada T, Oyama S, Ohuchi S, Kadohama T, Takagi D, Kiryu K, Igarashi I, Yamamoto H.

Ann Vasc Surg. 2021; 74: 520. e23-520. e26.

4. Circular pericardial drainage の癒着防止効果

荒井岳史 大内真吾 大山翔吾

胸部外科 (0021-5252)74 巻3号 Page187-190(2021.03)

## 産科・婦人科

原著論文

1. 癌性腹膜炎、腹水貯留症例における腹水セルブロック法による治療方針決定について

小西祥朝<sup>1)</sup> 利部徳子<sup>1)</sup> 小野巖<sup>2)</sup> 石井明<sup>2)</sup> 根裕人<sup>2)</sup> 山谷千晴<sup>2)</sup> 阿部諒<sup>2)</sup>

産科・婦人科<sup>1)</sup> 同病理部<sup>2)</sup>

日本臨床細胞学会雑誌 2021:60 (2) 86-93

1. 第36回日本女性医学学会学術集会 2021年11月6日～7日、大阪市 ハイブリッド開催

診断と治療に苦慮した高齢婦人の子宮内膜増殖症と卵巣顆粒膜細胞腫の一例

利部徳子 三浦康子

2. 第17回日本周産期メンタルヘルス学会 2021年10月23～24日 東京都

ライブ・オンデマンド配信

COVID-19 対策下における帰省分娩と妊産婦のメンタルヘルスケアの現状



利部徳子 小西祥朝 三浦康子 遠藤知子 鎌田直美

## 病理科

学会・研究会発表

1. 臨床細胞学会東北支部 2021年7月 秋田市  
スライドカンファレンス解答  
山谷千晴

## リハビリテーション部

学会・研究会発表

1. 第27回秋田県理学療法学会  
脊椎椎体骨折患者における体幹・下肢筋量が在宅復帰に及ぼす影響  
渡部旭子
2. 第9回日本運動器理学療法学会  
大腿骨近位部骨折患者における術後から退院時にかけての筋量変化の違いが与える影響  
山内真
3. 看護・リハビリ技術者合同活動交流集会  
当院の急性期脳卒中患者における歩行自立に関する因子について-第一報-  
成田研
4. 秋田県リハビリテーション研究会  
東京2020オリンピック・パラリンピック活動報告  
近藤友加里
5. 秋田県運動器理学療法研究班  
創部癒着後可動域拡大に難渋した母趾伸筋腱術後  
高橋典子
6. 第28回秋田県作業療法学会  
秋田県内ハンドセラピィ状況  
佐藤保
7. 第31回東北作業療法学会  
重度の弁膜症に対する2回の開心術後に運動強度に応じたIADL訓練を行い自宅退院に至った症例  
二木大介

## 検査部（臨床検査課）

学会・講演会発表

1. 第76回秋田県感染対策協議会研修会 2021年6月26日 Web開催  
アンケート調査による秋田県の新型コロナウイルス遺伝子検査の実状とその展望

伊藤大輔

2. 秋田県臨床検査技師会 第1回臨床微生物部門研修会 2021年8月 Web開催  
中通総合病院のSARS-CoV-2遺伝子検査体制について  
菅原昇平
3. 秋田県臨床検査技師会 第1回臨床微生物部門研修会 2021年8月 Web開催  
秋臨技臨床微生物部門に実施したSARS-CoV-2検査に関するアンケート調査の報告  
伊藤大輔
4. 第43回秋田県医学検査学会 2021年9月 秋田県大仙市  
秋田県内の新型コロナウイルス関連検査の現状と課題～秋臨技臨床微生物部門にて実施したアンケート調査による報告～  
伊藤大輔

## 薬剤部

学会等発表

1. 第43回秋田県薬学懇話会学術大会 2022年2月 秋田市  
ポリファーマシー対策への取り組み～薬剤総合評価調整加算の算定状況～  
相楽勇人

## 地域医療連携部

学会・研究会発表

1. 第6回出羽・阿賀リウマチフォーラム 2021年7月 Web開催  
MSWによる関節リウマチ患者のサポート～就労支援の取組～  
塩谷 行浩
2. 第15回全日本民医連学術・運動交流集会 2021年10月  
Web開催  
秋田版メディカル・リーガル・パートナーシップ構築へ向けて～法テラスと医療機関の連携協働の形～  
塩谷行浩
3. 秋田県民医連 看護・リハビリ技術者合同学術交流集会2021  
2021年11月～12月 Web配信  
関節リウマチ診療における医療ソーシャルワーカーの役割～院内外の連携による質の高い支援を目指して～  
塩谷行浩

# 診 療 統 計

救急車搬入数, 時間外患者数, 紹介患者数, 手術件数, 死亡患者数

救急車搬入件数

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	254	203	244	120.2
5月	247	229	229	100.0
6月	253	216	254	117.6
7月	245	232	254	109.5
8月	302	254	337	132.7
9月	240	231	237	102.6
10月	254	237	228	96.2
11月	246	207	227	109.7
12月	284	273	257	94.1
1月	290	354	266	75.1
2月	251	289	265	91.7
3月	235	251	316	125.9
合計	3,101	2,976	3,114	104.6

時間外患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	904	462	596	129.0
5月	1,362	683	789	115.5
6月	776	559	542	97.0
7月	821	699	763	109.2
8月	1,026	725	810	111.7
9月	946	713	678	95.1
10月	837	560	561	100.2
11月	865	562	567	100.9
12月	1,283	644	703	109.2
1月	1,522	740	775	104.7
2月	898	658	583	88.6
3月	665	629	572	90.9
合計	11,905	7,634	7,939	104.0

紹介患者数

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	772	659	778	118.1
5月	777	593	583	98.3
6月	749	713	676	94.8
7月	824	713	564	79.1
8月	711	641	670	104.5
9月	710	636	647	101.7
10月	748	730	682	93.4
11月	746	653	662	101.4
12月	686	644	629	97.7
1月	698	660	584	88.5
2月	605	655	515	78.6
3月	706	740	644	87.0
合計	8,732	8,037	7,634	95.0

### 手術件数

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	212	225	228	101.3
5月	233	194	187	96.4
6月	216	248	241	97.2
7月	276	202	214	105.9
8月	226	234	230	98.3
9月	232	214	216	100.9
10月	272	251	241	96.0
11月	244	212	217	102.4
12月	240	231	224	97.0
1月	212	241	249	103.3
2月	211	223	221	99.1
3月	223	242	242	100.0
合計	2,797	2,717	2,710	99.7

### 手術件数 全麻(再掲)

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	105	113	125	110.6
5月	106	87	103	118.4
6月	101	107	124	115.9
7月	137	99	121	122.2
8月	117	111	125	112.6
9月	116	116	101	87.1
10月	132	128	119	93.0
11月	119	110	118	107.3
12月	140	117	101	86.3
1月	115	117	134	114.5
2月	118	115	114	99.1
3月	114	125	111	88.8
合計	1,420	1,345	1,396	103.8

### 死亡数

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	42	41	39	95.1
5月	30	52	45	86.5
6月	35	34	33	97.1
7月	35	28	40	142.9
8月	35	40	41	102.5
9月	40	35	60	171.4
10月	46	38	42	110.5
11月	40	35	43	122.9
12月	48	55	51	92.7
1月	58	52	49	94.2
2月	37	62	34	54.8
3月	46	49	52	106.1
合計	492	521	529	101.5

## 臨床検査

### 合計

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	205,592	192,860	200,537	104.0
5月	204,207	171,810	180,273	104.9
6月	202,009	198,232	195,160	98.5
7月	218,938	201,407	192,033	95.3
8月	213,203	196,263	202,133	103.0
9月	203,463	192,496	188,452	97.9
10月	216,638	213,860	195,598	91.5
11月	199,447	190,937	190,418	99.7
12月	207,184	196,651	192,514	97.9
1月	199,671	198,460	183,510	92.5
2月	176,877	187,543	166,730	88.9
3月	195,418	222,220	200,406	90.2
合計	2,442,647	2,362,739	2,287,764	96.8

### 血清検査

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	5,402	5,152	5,596	108.6
5月	5,582	4,620	5,051	109.3
6月	5,777	5,682	5,382	94.7
7月	6,079	5,271	5,148	97.7
8月	5,502	5,069	5,583	110.1
9月	5,435	5,351	5,234	97.8
10月	5,850	6,096	5,584	91.6
11月	5,487	5,320	5,532	104.0
12月	5,326	5,319	5,415	101.8
1月	5,352	5,629	5,194	92.3
2月	4,794	5,331	4,805	90.1
3月	5,371	6,107	5,774	94.5
合計	65,957	64,947	64,298	99.0

### 一般検査

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	42,395	39,441	39,247	99.5
5月	41,363	35,013	34,948	99.8
6月	40,389	40,185	37,432	93.1
7月	44,898	41,331	37,130	89.8
8月	43,523	40,268	39,034	96.9
9月	41,587	39,684	36,438	91.8
10月	43,730	43,315	37,883	87.5
11月	39,932	39,228	36,120	92.1
12月	41,448	39,729	37,990	95.6
1月	40,159	39,826	34,626	86.9
2月	35,781	36,607	31,014	84.7
3月	40,088	43,405	37,156	85.6
合計	495,293	478,032	439,018	91.8

### 生化学検査

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	120,347	113,810	119,511	105.0
5月	120,204	101,485	107,709	106.1
6月	119,662	116,839	116,686	99.9
7月	128,579	118,873	114,816	96.6
8月	126,342	116,232	120,611	103.8
9月	120,107	113,276	112,772	99.6
10月	128,196	125,736	116,609	92.7
11月	117,975	112,168	113,907	101.6
12月	123,009	116,491	114,551	98.3
1月	118,282	117,305	109,871	93.7
2月	105,089	111,457	99,956	89.7
3月	115,523	132,183	120,451	91.1
合計	1,443,315	1,395,855	1,367,450	98.0

### 血液検査

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	30,998	29,010	30,639	105.6
5月	31,112	25,920	27,606	106.5
6月	30,572	29,943	29,882	99.8
7月	32,909	30,363	29,403	96.8
8月	32,121	29,531	30,938	104.8
9月	30,721	29,002	28,633	98.7
10月	32,946	32,551	29,851	91.7
11月	30,118	29,069	29,166	100.3
12月	31,126	29,923	28,796	96.2
1月	29,805	30,333	27,953	92.2
2月	26,429	28,946	25,556	88.3
3月	28,979	34,032	30,374	89.3
合計	367,836	358,623	348,797	97.3

### 細菌検査

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	2,240	1,818	1,683	92.6
5月	2,183	1,680	1,741	103.6
6月	1,638	1,645	2,051	124.7
7月	2,088	1,796	1,958	109.0
8月	1,982	1,670	2,534	151.7
9月	1,797	1,498	2,128	142.1
10月	1,812	1,935	1,823	94.2
11月	2,041	1,640	1,981	120.8
12月	2,476	1,543	2,120	137.4
1月	2,747	1,904	2,698	141.7
2月	1,698	1,708	2,716	159.0
3月	1,803	1,757	2,961	168.5
合計	24,505	20,594	26,394	128.2

### 輸血関連検査

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	291	208	166	79.8
5月	264	116	150	129.3
6月	353	179	197	110.1
7月	374	178	173	97.2
8月	260	178	164	92.1
9月	293	161	104	64.6
10月	212	174	171	98.3
11月	202	169	149	88.2
12月	199	201	137	68.2
1月	236	168	166	98.8
2月	192	171	119	69.6
3月	164	196	122	62.2
合計	3,040	2,099	1,818	86.6

## 生理検査

### 腹部超音波検査

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	1,360	887	993	112.0
5月	1,300	860	836	97.2
6月	1,457	1,015	1,037	102.2
7月	1,181	973	935	96.1
8月	1,083	920	981	106.6
9月	1,127	1,011	954	94.4
10月	1,153	1,127	1,108	98.3
11月	1,109	949	1,012	106.6
12月	987	946	1,013	107.1
1月	808	816	771	94.5
2月	800	775	728	93.9
3月	982	1,085	1,160	106.9
合計	13,347	11,364	11,528	101.4

### 心臓超音波検査

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	382	358	369	103.1
5月	369	304	324	106.6
6月	389	371	355	95.7
7月	428	374	329	88.0
8月	361	339	336	99.1
9月	325	338	303	89.6
10月	398	373	326	87.4
11月	383	334	351	105.1
12月	337	331	338	102.1
1月	331	363	326	89.8
2月	283	343	274	79.9
3月	361	418	374	89.5
合計	4,347	4,246	4,005	94.3

### FMD

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	0	0	0	
5月	1	0	0	
6月	1	0	0	
7月	1	0	0	
8月	1	0	0	
9月	0	0	0	
10月	0	0	0	
11月	0	0	0	
12月	0	0	0	
1月	0	0	0	
2月	0	0	0	
3月	0	0	0	
合計	4	0	0	



## 心電図検査

	2019年 度	2020年 度	2021年 度	前年 比
4月	1,058	1,026	1,107	107.9
5月	1,106	854	1,012	118.5
6月	1,155	1,065	1,062	99.7
7月	1,189	1,022	971	95.0
8月	997	934	904	96.8
9月	1,075	1,056	988	93.6
10月	1,195	1,274	1,115	87.5
11月	1,137	1,009	1,070	106.0
12月	1,009	1,020	1,085	106.4
1月	913	941	863	91.7
2月	843	872	738	84.6
3月	1,029	1,103	1,034	93.7
合計	12,706	12,176	11,949	98.1

## 聴力・脳波ほか検査

	2019年 度	2020年 度	2021年 度	前年 比
4月	307	358	386	107.8
5月	367	396	287	72.5
6月	413	450	418	92.9
7月	472	512	370	72.3
8月	463	455	390	85.7
9月	386	405	357	88.1
10月	486	463	378	81.6
11月	430	435	388	89.2
12月	369	377	355	94.2
1月	394	388	321	82.7
2月	351	313	278	88.8
3月	345	354	339	95.8
合計	4,783	4,906	4,267	87.0

## 病理検査

### 合 計

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	848	733	812	110.8
5月	804	653	699	107.0
6月	922	921	946	102.7
7月	1,031	952	878	92.2
8月	919	807	846	104.8
9月	987	984	975	99.1
10月	1,053	1,050	1,033	98.4
11月	943	894	979	109.5
12月	805	846	856	101.2
1月	733	674	612	90.8
2月	711	708	603	85.2
3月	790	916	863	94.2
合 計	10,546	10,138	10,102	99.6

### 病理検体

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	252	285	295	103.5
5月	249	207	216	104.3
6月	268	224	267	119.2
7月	286	232	260	112.1
8月	253	191	258	135.1
9月	282	266	250	94.0
10月	283	240	229	95.4
11月	258	262	288	109.9
12月	260	231	245	106.1
1月	294	216	190	88.0
2月	248	230	178	77.4
3月	241	328	255	77.7
合 計	3,174	2,912	2,931	100.7

### 細胞診

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	554	425	469	110.4
5月	495	423	430	101.7
6月	563	595	580	97.5
7月	581	576	497	86.3
8月	520	472	446	94.5
9月	570	580	549	94.7
10月	620	617	621	100.6
11月	531	485	524	108.0
12月	418	462	468	101.3
1月	347	324	287	88.6
2月	387	382	338	88.5
3月	480	525	552	105.1
合 計	6,066	5,866	5,761	98.2

### 細胞診集検

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	42	23	48	208.7
5月	60	23	53	230.4
6月	91	102	99	97.1
7月	164	144	121	84.0
8月	146	144	142	98.6
9月	135	138	176	127.5
10月	150	193	183	94.8
11月	154	147	167	113.6
12月	127	153	143	93.5
1月	92	134	135	100.7
2月	76	96	87	90.6
3月	69	63	56	88.9
合 計	1,306	1,360	1,410	103.7

## 内視鏡検査

### 合 計

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	524	368	459	124.7
5月	484	336	396	117.9
6月	570	483	503	104.1
7月	575	458	414	90.4
8月	515	400	467	116.8
9月	496	457	442	96.7
10月	511	536	492	91.8
11月	467	431	501	116.2
12月	426	416	469	112.7
1月	439	367	388	105.7
2月	355	351	378	107.7
3月	396	443	367	82.8
合 計	5,758	5,046	5,276	104.6

### 上部消化管（生検含む）

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	380	252	317	125.8
5月	346	219	270	123.3
6月	421	350	336	96.0
7月	426	334	289	86.5
8月	377	303	333	109.9
9月	367	322	318	98.8
10月	388	379	341	90.0
11月	350	291	319	109.6
12月	309	277	308	111.2
1月	318	236	265	112.3
2月	251	229	267	116.6
3月	271	315	262	83.2
合 計	4,204	3,507	3,625	103.4

### 下部消化管（生検含む）

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	108	83	114	137.3
5月	98	83	101	121.7
6月	117	112	134	119.6
7月	118	96	96	100.0
8月	110	79	103	130.4
9月	94	104	82	78.8
10月	91	124	119	96.0
11月	88	105	140	133.3
12月	95	109	130	119.3
1月	94	91	88	96.7
2月	77	89	88	98.9
3月	100	92	88	95.7
合 計	1,190	1,167	1,283	109.9

### ERCP

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	10	10	7	70.0
5月	12	11	6	54.5
6月	5	6	10	166.7
7月	4	9	4	44.4
8月	10	6	8	133.3
9月	12	11	15	136.4
10月	11	10	6	60.0
11月	12	13	9	69.2
12月	11	6	8	133.3
1月	10	14	13	92.9
2月	6	11	11	100.0
3月	9	8	9	112.5
合 計	112	115	106	92.2

### EMR・ポリペクトミー

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	21	21	18	85.7
5月	23	20	13	65.0
6月	21	14	18	128.6
7月	26	15	21	140.0
8月	17	8	19	237.5
9月	19	20	25	125.0
10月	20	22	24	109.1
11月	17	20	31	155.0
12月	10	22	21	95.5
1月	15	20	17	85.0
2月	19	20	18	90.0
3月	14	24	24	100.0
合計	222	226	249	110.2

### ESD

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	5	2	3	150.0
5月	5	3	6	200.0
6月	6	1	5	500.0
7月	1	4	4	100.0
8月	1	4	4	100.0
9月	4	0	2	
10月	3	1	2	200.0
11月	0	2	2	100.0
12月	1	2	2	100.0
1月	2	6	5	83.3
2月	3	2	3	150.0
3月	2	4	1	25.0
合計	33	31	39	125.8

### 気管支鏡

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	12	6	3	50.0
5月	8	7	4	57.1
6月	10	9	7	77.8
7月	8	9	3	33.3
8月	9	4	6	150.0
9月	5	8	5	62.5
10月	7	5	4	80.0
11月	7	6	4	66.7
12月	3	5	7	140.0
1月	2	5	5	100.0
2月	7	5	6	120.0
3月	6	5	11	220.0
合計	84	74	65	87.8

## 画像診断

### 合 計

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	5,423	4,699	5,439	115.7
5月	5,354	4,472	4,888	109.3
6月	5,538	5,197	5,366	103.3
7月	5,463	5,269	4,995	94.8
8月	5,405	4,798	5,371	111.9
9月	5,164	4,996	5,207	104.2
10月	5,790	5,547	5,306	95.7
11月	5,455	4,823	5,186	107.5
12月	5,229	4,965	5,298	106.7
1月	4,923	5,020	5,066	100.9
2月	4,625	4,892	4,600	94.0
3月	5,090	5,754	5,525	96.0
合 計	63,459	60,432	62,247	103.0

### MRI

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	417	376	406	108.0
5月	408	274	353	128.8
6月	436	409	400	97.8
7月	429	404	355	87.9
8月	385	345	352	102.0
9月	357	371	382	103.0
10月	419	384	397	103.4
11月	410	341	421	123.5
12月	397	382	408	106.8
1月	375	359	362	100.8
2月	331	320	341	106.6
3月	374	438	417	95.2
合 計	4,738	4,403	4,594	104.3

### C T

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	1,081	997	1,119	112.2
5月	1,094	965	984	102.0
6月	1,129	1,089	1,067	98.0
7月	1,077	1,094	1,020	93.2
8月	1,086	1,008	1,159	115.0
9月	1,103	1,048	1,081	103.1
10月	1,243	1,222	1,094	89.5
11月	1,243	1,055	1,011	95.8
12月	1,155	1,152	1,106	96.0
1月	1,085	1,172	1,083	92.4
2月	1,037	1,145	972	84.9
3月	1,101	1,241	1,152	92.8
合 計	13,434	13,188	12,848	97.4

### 血管造影

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	42	49	36	73.5
5月	41	32	40	125.0
6月	48	38	36	94.7
7月	68	30	45	150.0
8月	41	24	41	170.8
9月	37	34	40	117.6
10月	43	51	43	84.3
11月	48	34	46	135.3
12月	65	41	49	119.5
1月	37	29	34	117.2
2月	40	38	45	118.4
3月	52	42	33	78.6
合 計	562	442	488	110.4

### 胸部

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	1,563	1,348	1,490	110.5
5月	1,616	1,234	1,325	107.4
6月	1,597	1,365	1,485	108.8
7月	1,644	1,401	1,313	93.7
8月	1,586	1,314	1,388	105.6
9月	1,500	1,284	1,379	107.4
10月	1,723	1,567	1,404	89.6
11月	1,562	1,287	1,413	109.8
12月	1,392	1,305	1,324	101.5
1月	1,363	1,315	1,239	94.2
2月	1,228	1,254	1,065	84.9
3月	1,345	1,427	1,354	94.9
合計	18,119	16,101	16,179	100.5

### 骨

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	1,506	1,255	1,637	130.4
5月	1,454	1,329	1,481	111.4
6月	1,521	1,543	1,583	102.6
7月	1,485	1,597	1,570	98.3
8月	1,483	1,375	1,659	120.7
9月	1,339	1,502	1,574	104.8
10月	1,496	1,476	1,647	111.6
11月	1,438	1,367	1,515	110.8
12月	1,475	1,467	1,733	118.1
1月	1,378	1,467	1,724	117.5
2月	1,296	1,505	1,639	108.9
3月	1,480	1,781	1,795	100.8
合計	17,351	17,664	19,557	110.7

### 消化器

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	24	20	21	105.0
5月	26	14	23	164.3
6月	24	17	26	152.9
7月	15	12	18	150.0
8月	22	19	17	89.5
9月	32	15	14	93.3
10月	34	20	7	35.0
11月	24	13	21	161.5
12月	27	14	22	157.1
1月	26	15	10	66.7
2月	16	20	7	35.0
3月	23	28	12	42.9
合計	293	207	198	95.7

### 泌尿器

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	1	2	2	100.0
5月	1			
6月	1	5		
7月		1		
8月		1	2	200.0
9月	1	3		
10月	1	1		
11月			1	
12月	1	2		
1月	4	1		
2月	3	3		
3月	2	3		
合計	1	3	5	166.7

### 腹部単純

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	369	255	302	118.4
5月	319	251	279	111.2
6月	343	234	274	117.1
7月	321	278	266	95.7
8月	340	270	297	110.0
9月	350	265	248	93.6
10月	355	295	246	83.4
11月	299	259	263	101.5
12月	271	220	248	112.7
1月	265	270	256	94.8
2月	278	238	189	79.4
3月	268	300	268	89.3
合計	3,778	3,135	3,136	100.0

### その他

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	420	397	426	107.3
5月	395	373	403	108.0
6月	439	497	495	99.6
7月	424	452	408	90.3
8月	462	442	456	103.2
9月	445	474	489	103.2
10月	476	531	468	88.1
11月	431	467	495	106.0
12月	446	382	408	106.8
1月	390	392	358	91.3
2月	396	369	342	92.7
3月	445	494	494	100.0
合計	5,169	5,270	5,242	99.5

### R I室(in vivo)

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	40	45	40	88.9
5月	51	54	25	46.3
6月	48	49	44	89.8
7月	61	65	40	61.5
8月	55	49	37	75.5
9月	50	41	22	53.7
10月	63	48	43	89.6
11月	59	56	45	80.4
12月	46	43	36	83.7
1月	38	31	26	83.9
2月	39	33	32	97.0
3月	35	38	33	86.8
合計	585	552	423	76.6

## 放射線治療

### 合 計

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	前年比
4 月	210	116	129	111.2
5 月	204	95	157	165.3
6 月	205	107	182	170.1
7 月	208	172	102	59.3
8 月	173	88	114	129.5
9 月	198	61	179	293.4
10 月	182	139	138	99.3
11 月	224	98	177	180.6
12 月	110	203	150	73.9
1 月	97	137	193	140.9
2 月	97	185	250	135.1
3 月	106	176	345	196.0
合 計	2,014	1,577	2,116	134.2

### 頭 部

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	前年比
4 月	8	16		
5 月	11			
6 月				
7 月				
8 月				
9 月				
10 月	3			
11 月	17			
12 月	13			
1 月				
2 月	17			
3 月	32		26	
合 計	32	0	26	

### 乳 房

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	前年比
4 月	151	20	93	465.0
5 月	123	19	104	547.4
6 月	107	49	126	257.1
7 月	104	64	57	89.1
8 月	93	29	80	275.9
9 月	46	29	114	393.1
10 月	73	57	73	128.1
11 月	83	12	130	1083.3
12 月	34	47	107	227.7
1 月	29	50	130	260.0
2 月	66	77	148	192.2
3 月	32	60	211	351.7
合 計	941	513	1,373	267.6

### 腹 部

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	前年比
4 月	8			
5 月	25	5		
6 月	33	6		
7 月	32	38	20	52.6
8 月	25	19	6	31.6
9 月	24		28	
10 月	25	33	24	72.7
11 月	30	49	6	12.2
12 月	39	30		
1 月	4		15	
2 月			50	
3 月			38	
合 計	140	139	187	134.5



### 脊 椎

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	31	50	16	32.0
5月	40	20		
6月	29	10	14	140.0
7月	37	34	25	73.5
8月	35	31	27	87.1
9月	71	10		
10月	23	20	16	80.0
11月	38	10	30	300.0
12月	1	38	29	76.3
1月	60	27		
2月	10	15	12	80.0
3月		65	8	12.3
合 計	204	273	177	64.8

### 四 肢

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月				
5月				
6月				
7月				
8月				
9月				
10月				
11月				
12月				
1月				
2月				
3月				
合 計	0	0	0	

### その他

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	12	30	20	66.7
5月	5	51	53	103.9
6月	36	42	42	100.0
7月	35	36		
8月	20	9	1	11.1
9月	57	22	37	168.2
10月	58	29	25	86.2
11月	56	27	11	40.7
12月	23	88	14	15.9
1月	4	60	48	80.0
2月	4	93	40	43.0
3月	42	51	62	121.6
合 計	317	502	353	70.3

## 人工透析

### 合 計

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	766	712	775	108.8
5月	831	706	770	109.1
6月	786	728	714	98.1
7月	794	815	766	94.0
8月	806	827	720	87.1
9月	743	796	666	83.7
10月	769	813	677	83.3
11月	795	769	690	89.7
12月	830	854	709	83.0
1月	847	831	673	81.0
2月	706	729	618	84.8
3月	716	772	701	90.8
合 計	9,389	9,352	8,479	90.7

### 外 来

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	570	598	520	87.0
5月	612	571	522	91.4
6月	580	573	530	92.5
7月	618	629	546	86.8
8月	614	632	538	85.1
9月	575	636	558	87.7
10月	590	677	567	83.8
11月	583	621	569	91.6
12月	576	661	593	89.7
1月	609	634	572	90.2
2月	570	572	505	88.3
3月	614	564	596	105.7
合 計	7,111	7,368	6,616	89.8

### 入 院

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	196	114	255	223.7
5月	219	135	248	183.7
6月	206	155	184	118.7
7月	176	186	220	118.3
8月	192	195	182	93.3
9月	168	160	108	67.5
10月	179	136	110	80.9
11月	212	148	121	81.8
12月	254	193	116	60.1
1月	238	197	101	51.3
2月	136	157	113	72.0
3月	102	208	105	50.5
合 計	2,278	1,984	1,863	93.9

## リハビリテーション

### 理学療法訓練単位数

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	7,433	7,375	8,583	116.4
5月	7,001	6,710	7,886	117.5
6月	6,952	7,809	8,122	104.0
7月	7,260	7,846	8,715	111.1
8月	7,094	7,638	7,966	104.3
9月	6,560	8,305	7,702	92.7
10月	7,012	8,933	7,678	86.0
11月	6,853	7,846	7,394	94.2
12月	7,112	8,465	7,862	92.9
1月	7,173	8,691	7,454	85.8
2月	7,142	7,879	6,665	84.6
3月	7,719	9,334	7,793	83.5
合計	85,311	96,831	93,820	96.9

### 作業療法訓練単位数

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	4,031	3,864	4,348	112.5
5月	3,790	3,972	4,035	101.6
6月	3,771	4,979	4,683	94.1
7月	4,188	5,070	4,159	82.0
8月	4,225	4,345	4,346	100.0
9月	4,059	4,806	4,295	89.4
10月	4,437	5,177	4,130	79.8
11月	4,048	4,273	3,946	92.3
12月	4,036	4,244	4,554	107.3
1月	3,761	4,323	4,819	111.5
2月	3,603	4,575	4,354	95.2
3月	4,366	5,014	4,941	98.5
合計	48,315	54,642	52,610	96.3

### 言語聴覚療法単位数

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	815	884	1,104	124.9
5月	865	821	995	121.2
6月	747	941	951	101.1
7月	839	896	968	108.0
8月	871	860	1,173	136.4
9月	752	900	1,023	113.7
10月	951	934	1,107	118.5
11月	977	841	1,138	135.3
12月	972	929	1,184	127.4
1月	1,033	857	1,031	120.3
2月	1,001	859	976	113.6
3月	1,078	888	1,178	132.7
合計	10,901	10,610	12,828	120.9

心臓カテーテル検査, PCI, ペースメーカー, スtentグラフト, ESWL, 分娩数, 処方箋枚数

心臓カテーテル検査

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	1	4	7	175.0
5月	3	3	3	100.0
6月	4	5	2	40.0
7月	8	2	3	150.0
8月	3	2	2	100.0
9月	3	4	2	50.0
10月	7	2	4	200.0
11月	3	2	4	200.0
12月	7	4	4	100.0
1月	4	3	3	100.0
2月	4	3	3	100.0
3月	3	5	0	0.0
合計	47	34	37	108.8

PCI

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	11	19	11	57.9
5月	16	11	18	163.6
6月	19	18	16	88.9
7月	26	9	12	133.3
8月	9	10	20	200.0
9月	19	11	13	118.2
10月	9	20	18	90.0
11月	18	13	24	184.6
12月	26	17	26	152.9
1月	22	11	22	200.0
2月	14	13	21	161.5
3月	16	16	15	93.8
合計	205	168	216	128.6

ペースメーカー植え込み

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	4	2	3	150.0
5月	3	4	3	75.0
6月	2	1	2	200.0
7月	9	1	3	300.0
8月	4	2	3	150.0
9月	4	1	3	300.0
10月	5	5	1	20.0
11月	6	2	4	200.0
12月	4	1	3	300.0
1月	2	3	1	33.3
2月	3	5	2	40.0
3月	2	0	2	
合計	48	27	30	111.1

stentグラフト内挿術 (胸部・腹部)

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
4月	3	2	2	100.0
5月	2	1	2	200.0
6月	4	0	2	
7月	2	1	2	200.0
8月	2	0	1	
9月	1	1	2	200.0
10月	3	1	1	100.0
11月	4	1	1	100.0
12月	2	0	5	
1月	0	1	0	0.0
2月	2	2	0	0.0
3月	4	2	1	50.0
合計	29	12	19	158.3

### E SWL

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	前年比
4 月	2	1	0	0.0
5 月	2	2	1	50.0
6 月	0	0	0	
7 月	1	0	0	
8 月	0	0	0	
9 月	1	0	0	
10 月	4	1	0	0.0
11 月	1	2	0	0.0
12 月	2	1	0	0.0
1 月	0	3	0	0.0
2 月	0	0	0	
3 月	0	2	0	0.0
合 計	13	12	1	8.3

### 分娩数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	前年比
4 月	20	28	27	96.4
5 月	27	21	19	90.5
6 月	29	24	16	66.7
7 月	22	25	21	84.0
8 月	20	21	15	71.4
9 月	27	26	15	57.7
10 月	21	21	23	109.5
11 月	18	22	24	109.1
12 月	17	22	15	68.2
1 月	19	16	18	112.5
2 月	17	26	14	53.8
3 月	17	21	15	71.4
合 計	254	273	222	81.3

### 処方せん枚数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	前年比
4 月	4,350	3,865	4,087	105.7
5 月	4,070	3,719	3,733	100.4
6 月	4,093	3,985	3,720	93.4
7 月	4,405	4,072	3,710	91.1
8 月	4,261	3,768	3,949	104.8
9 月	4,167	3,970	3,713	93.5
10 月	4,314	4,162	3,493	83.9
11 月	4,337	3,706	3,706	100.0
12 月	4,552	4,214	3,981	94.5
1 月	4,405	4,213	3,906	92.7
2 月	3,830	3,976	3,881	97.6
3 月	3,903	4,409	4,365	99.0
合 計	50,687	48,059	46,244	96.2

## 編集後記

COVID-19 感染、ロシアのウクライナ侵攻、物価の上昇と明るい話題に乏しい1年でした。サッカーのW杯で日本の活躍には心躍りましたが、みんなが心底笑える日はまだ先のようにです。でも必ず夜はあけて朝がきます、冬の次には春がやってきます。この1年も中通総合病院で皆様の弛まない活動が続いてきました。必ず明るい未来が訪れることを信じて、この1年の活動をまとめた年報を振り返りながら、働いて得た財産を糧として活動を続けていきたいと思います。みんなが笑える日が1日でも早く来ますように。

年報編集委員長 千馬誠悦

### 2021年度 中通総合病院年報 Vol. 5

令和5年2月27日発行

発行者 奥山 慎

発行所 社会医療法人 明和会 中通総合病院

〒010-0012 秋田市南通みその町3-15

TEL 018-833-1122 FAX 018-831-9418

印刷製本 秋田印刷製本株式会社

〒010-1415 秋田市御所野湯本二丁目1番9号

TEL 018-839-7554 FAX 018-829-1291